

圍碁捷徑  
上

特41

807

076057-001-0

特41-807

圍碁捷徑

安井 算知/著

上

M20

CEP-0012



明治二十一年新刻

安井算知先生著

# 圍碁捷徑

佐藤藏版

特41  
807

圍碁捷徑自序

太平之世四方之通也。又運日之盛也。...

其書之難也。向論其他難伎也。...

其書之難也。其精之者。妙者。...

其書之難也。其精之者。妙者。...

其書之難也。其精之者。妙者。...

其書之難也。其精之者。妙者。...

此の如く入るの一事を影にみ刺さるるを  
 企て来り予は撰輯を情ふは是数  
 番を究る初学より益するものを探し  
 二巻に述し稽古におく一學の能くは  
 弘化四年丁未十二月

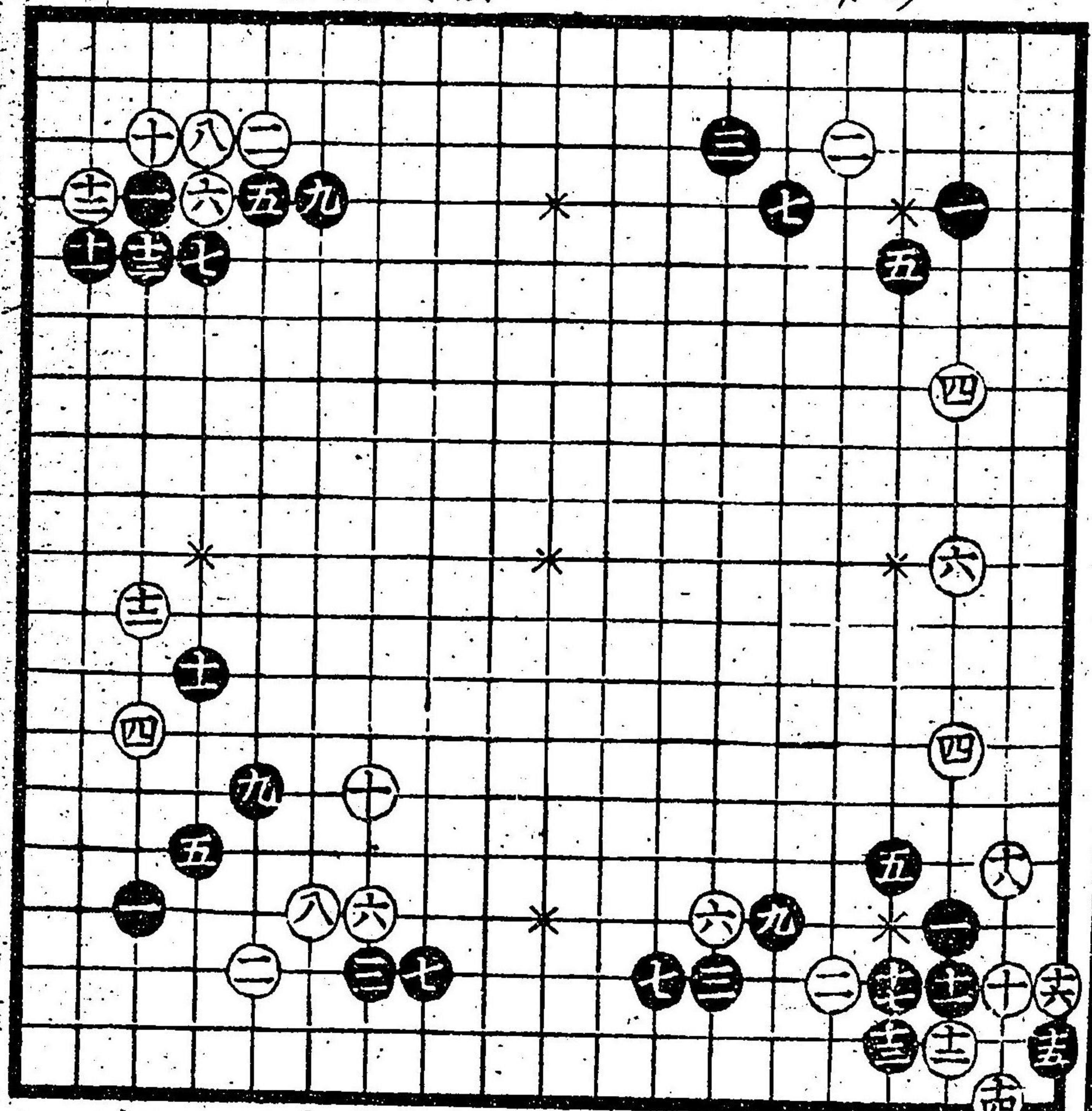
精收庵主人算術誌

一間挟石立  
 定石

此形にたまふ  
 かへしは初  
 かり

白四手殺

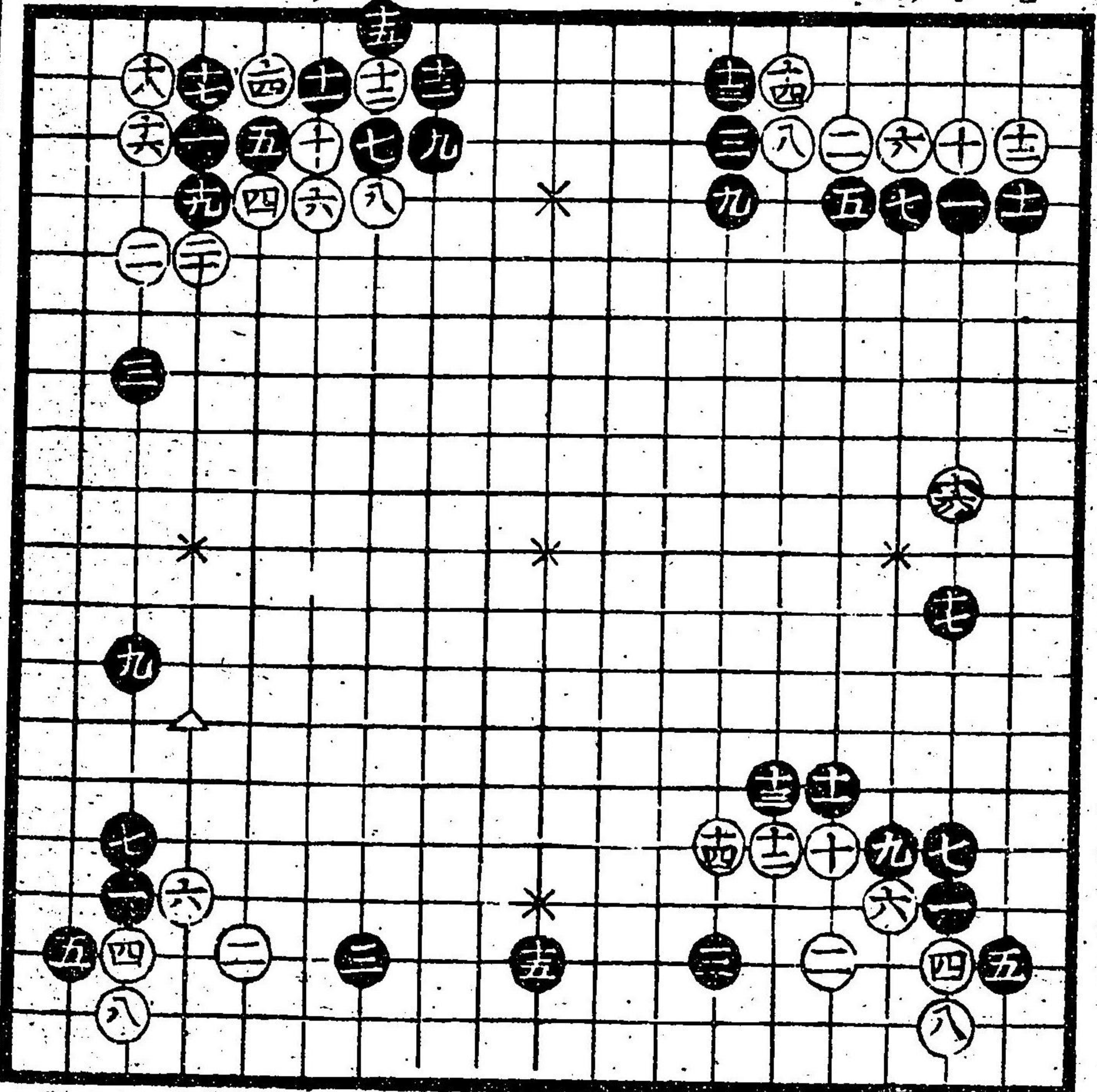
以形白六のま  
 てふのむ付うは  
 かな又ふと接  
 捨ては打志し  
 不ぬ



白八手後  
 とのりて白  
 其評を色し  
 うはじま初  
 るはふぬあり

如はうはる  
 ある白四手  
 かくは方七

ひ歌白の...  
 抜た...  
 ぬく...  
 よう...

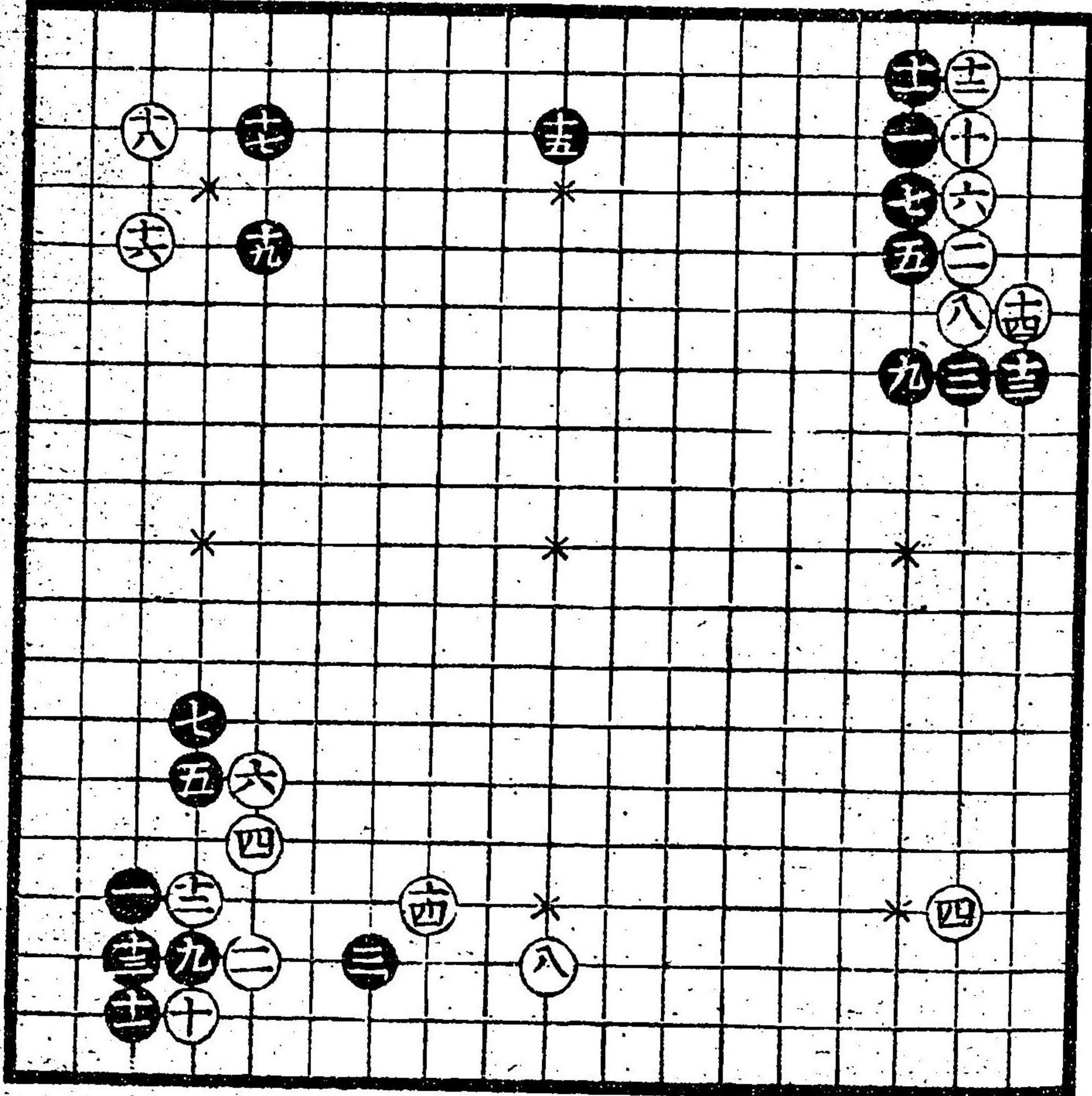


ひ歌...  
 黒九...  
 白...

ひ歌...  
 抜た...  
 ぬく...  
 よう...

ひ歌...  
 黒九...  
 白...

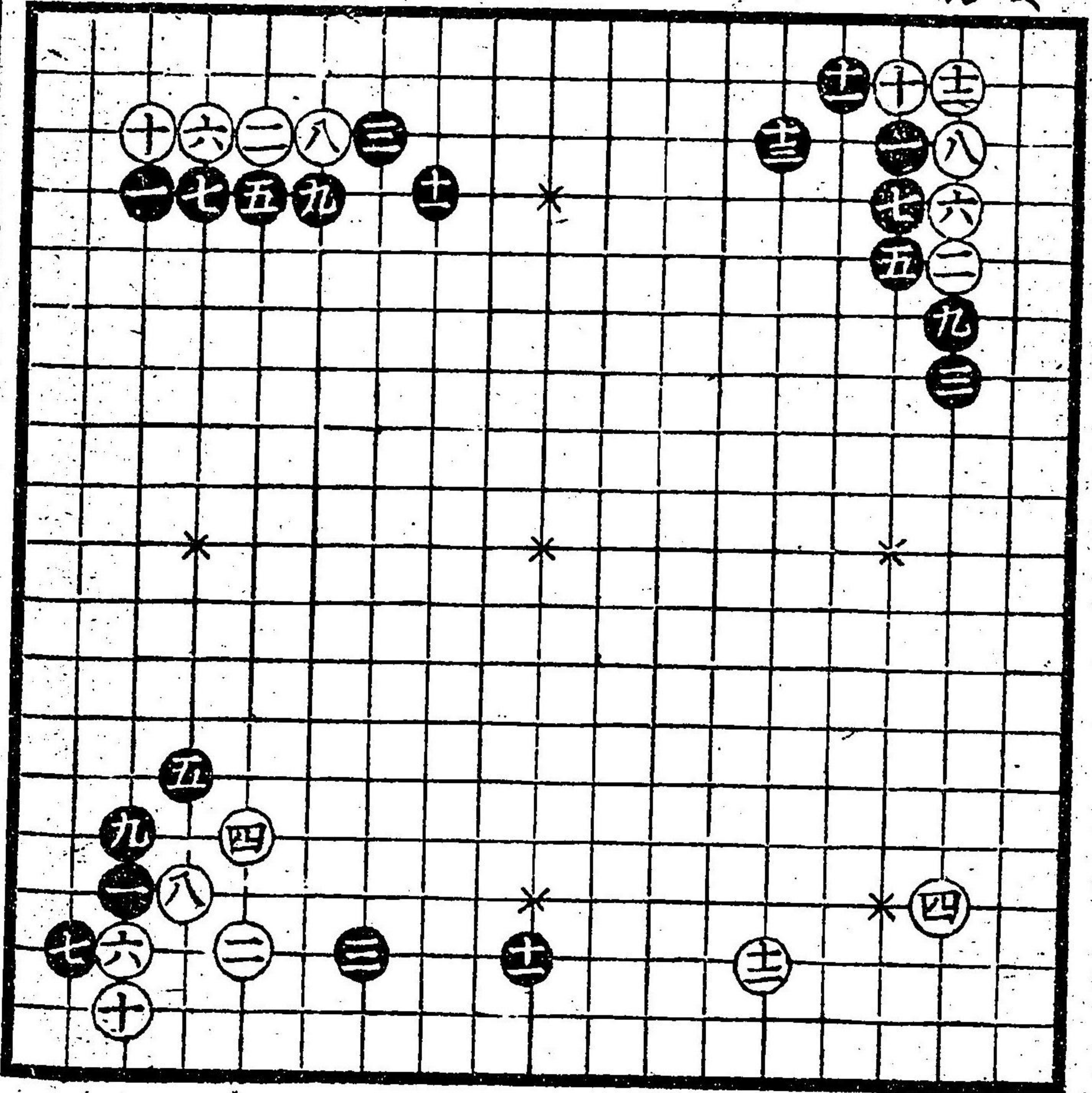
ひ歌白...  
 打...  
 去...  
 黒...  
 の...  
 かり...  
 乃...



ひ歌...  
 ぬく...  
 よう...

ひ歌...  
 ぬく...  
 よう...

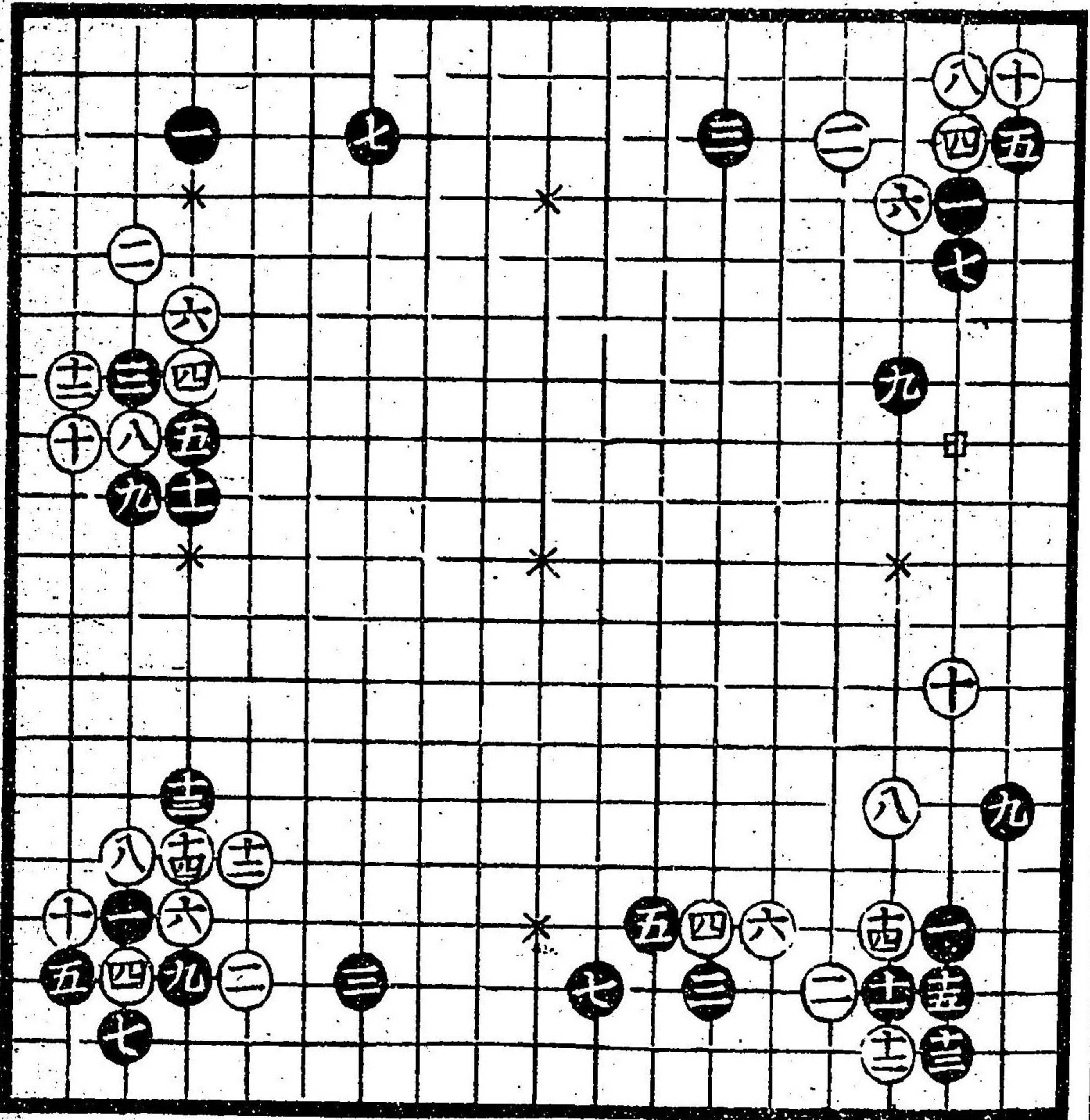
は取まのつの変  
たより黒白の  
変なり



はくちち右の  
変化なり

白方のま  
くはなま  
めりなり

は隅黒九のま  
口平よりつ黒口  
平手時白十の  
まてぬまこく  
うはた月乃  
変なり



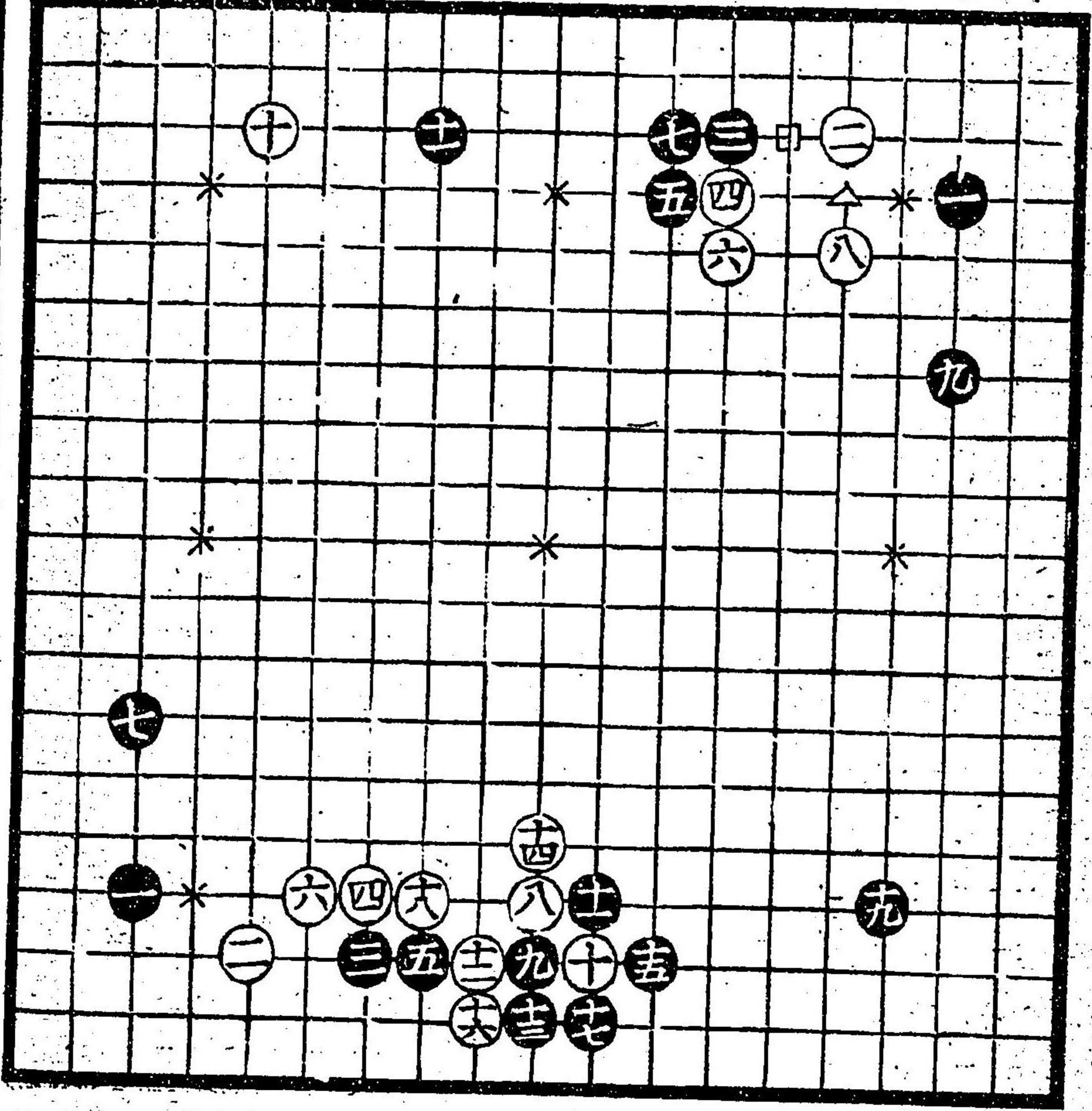
は取つてま  
めりなり

は取まのつの変  
たより黒白の  
変なり

は取まのつの変  
たより黒白の  
変なり

は形黒七のよ  
 口平打りも  
 ち口平打り  
 うた白△平打  
 うた黒九と二石  
 に死くより

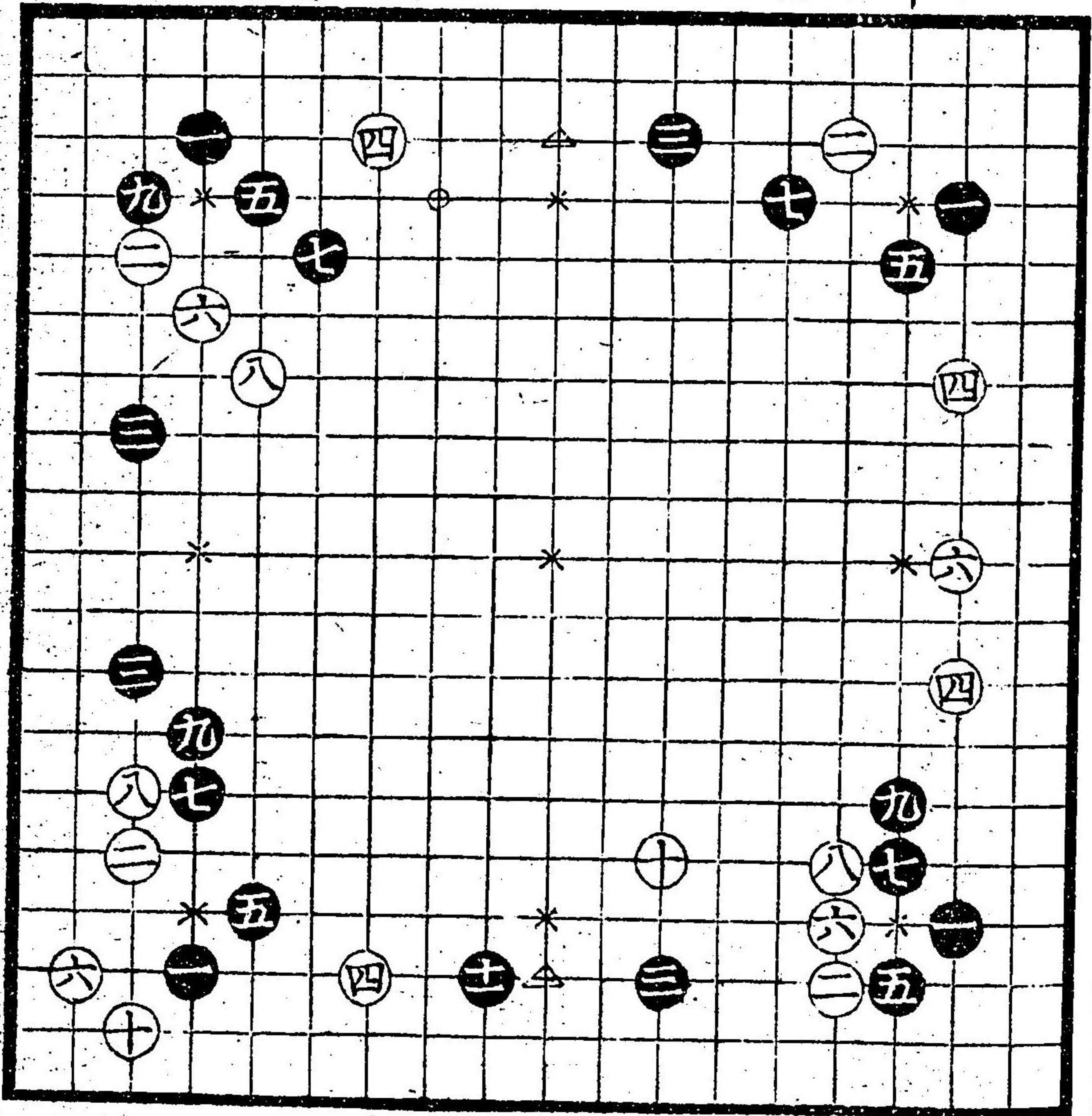
下の満悪みのよ  
 不可なり  
 悪十のよ  
 下の悪十のよ  
 附と白十六の起  
 うた黒九と二石  
 黒十九のよ  
 に傳



二間挾石立  
 定石

は定石悪より  
 白はとらうはふ  
 場平の見合せ  
 は形あり

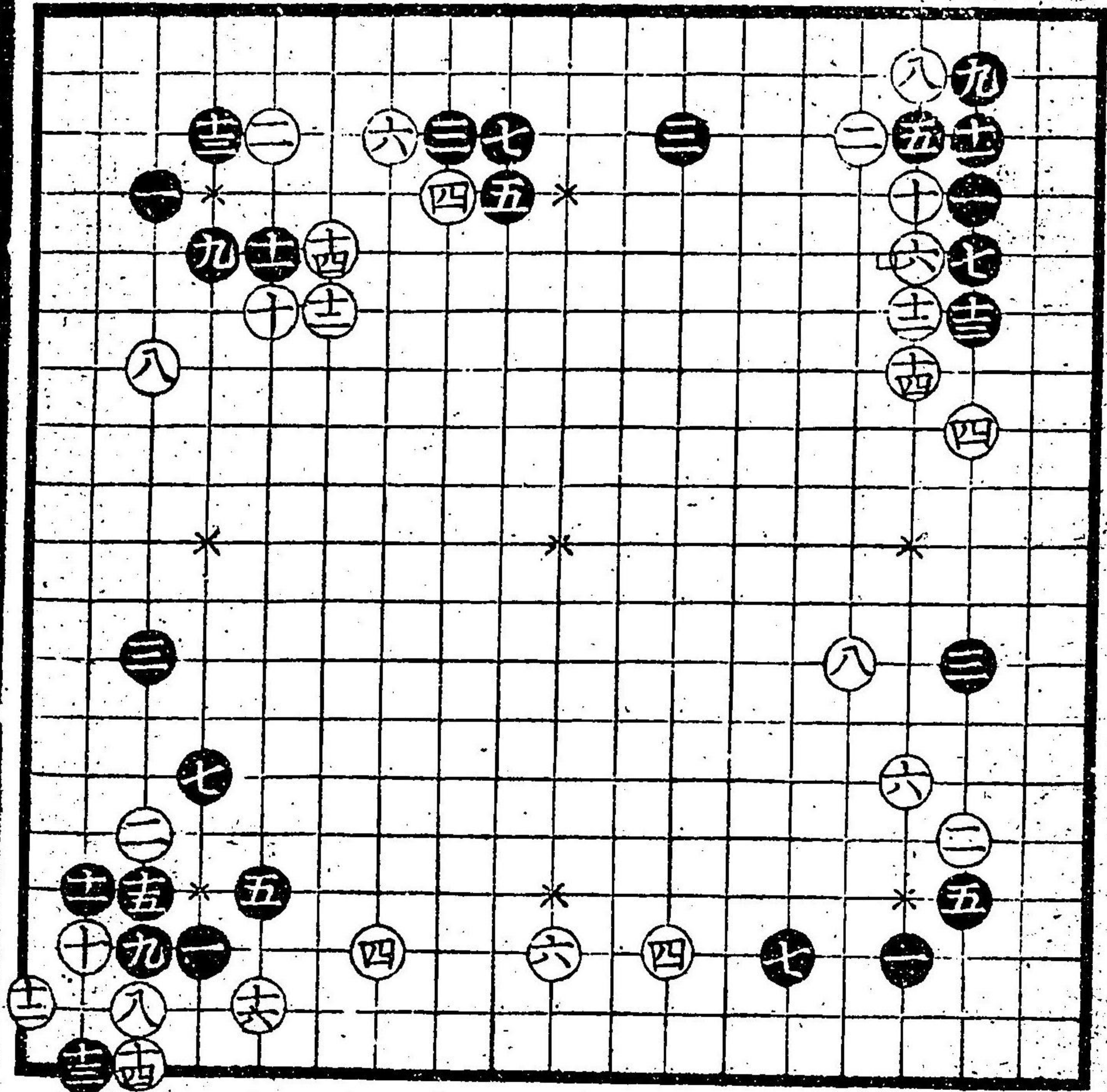
は形白六のよ△  
 平△白△打り  
 悪  
 黒九と△平打  
 あり



白はと中二石  
 白はと中二石  
 悪六のよ△  
 白△平打り  
 あり

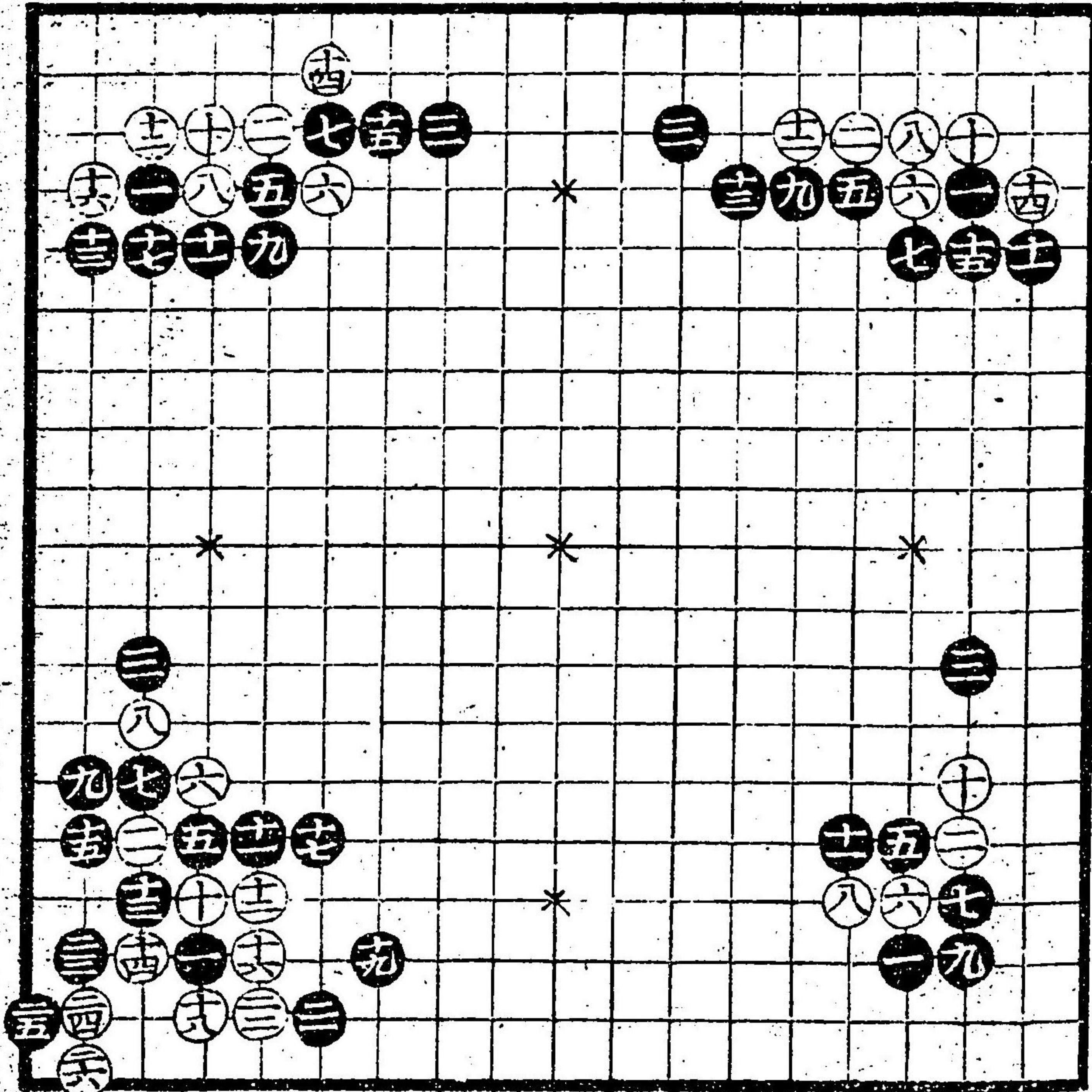
は形白六のよ  
 好ましく△平打  
 あり

白中や佐とより  
 たまごを妹の洞  
 めびうはし  
 附ハスのも口平  
 うら



白中や佐とより  
 たまごを妹の洞  
 めびうはし  
 附ハスのも口平  
 うら

白中や佐とより  
 たまごを妹の洞  
 めびうはし



白二十手抜  
 の是白匠  
 うら七條  
 白二十手抜  
 の是白匠  
 うら七條

白二十手抜  
 の是白匠  
 うら七條

以歌黒白併美

ナリ

白の方口平に

石と耐はらつ

事歟

悪合平はくは

ふりありまか

三二と打うは

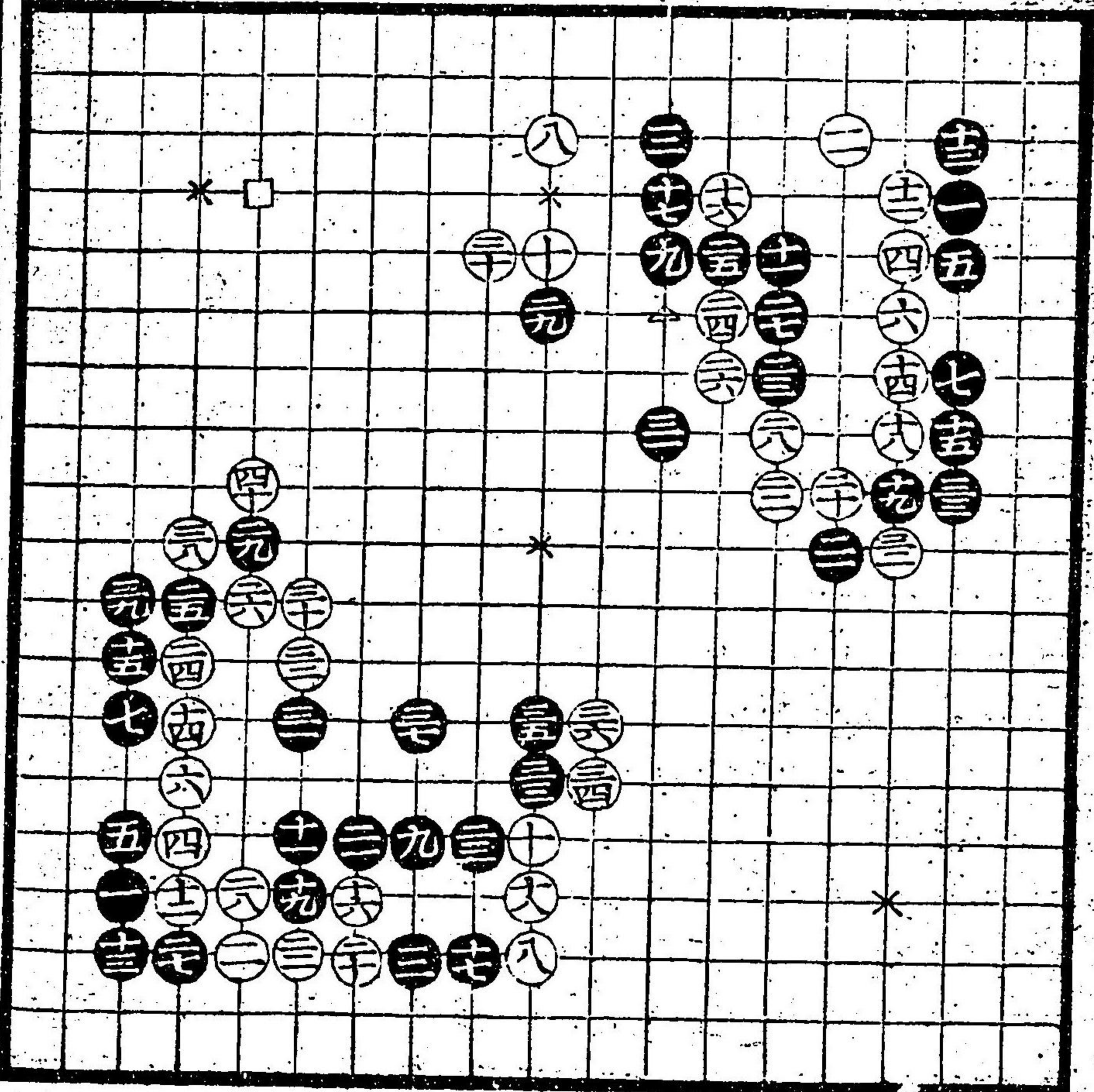
以歌黒十七の

子石成り

うへにせは先

好まぬ怨より

は他



三間狭石立  
定石

以歌常用のふ  
なかり

小形形定石

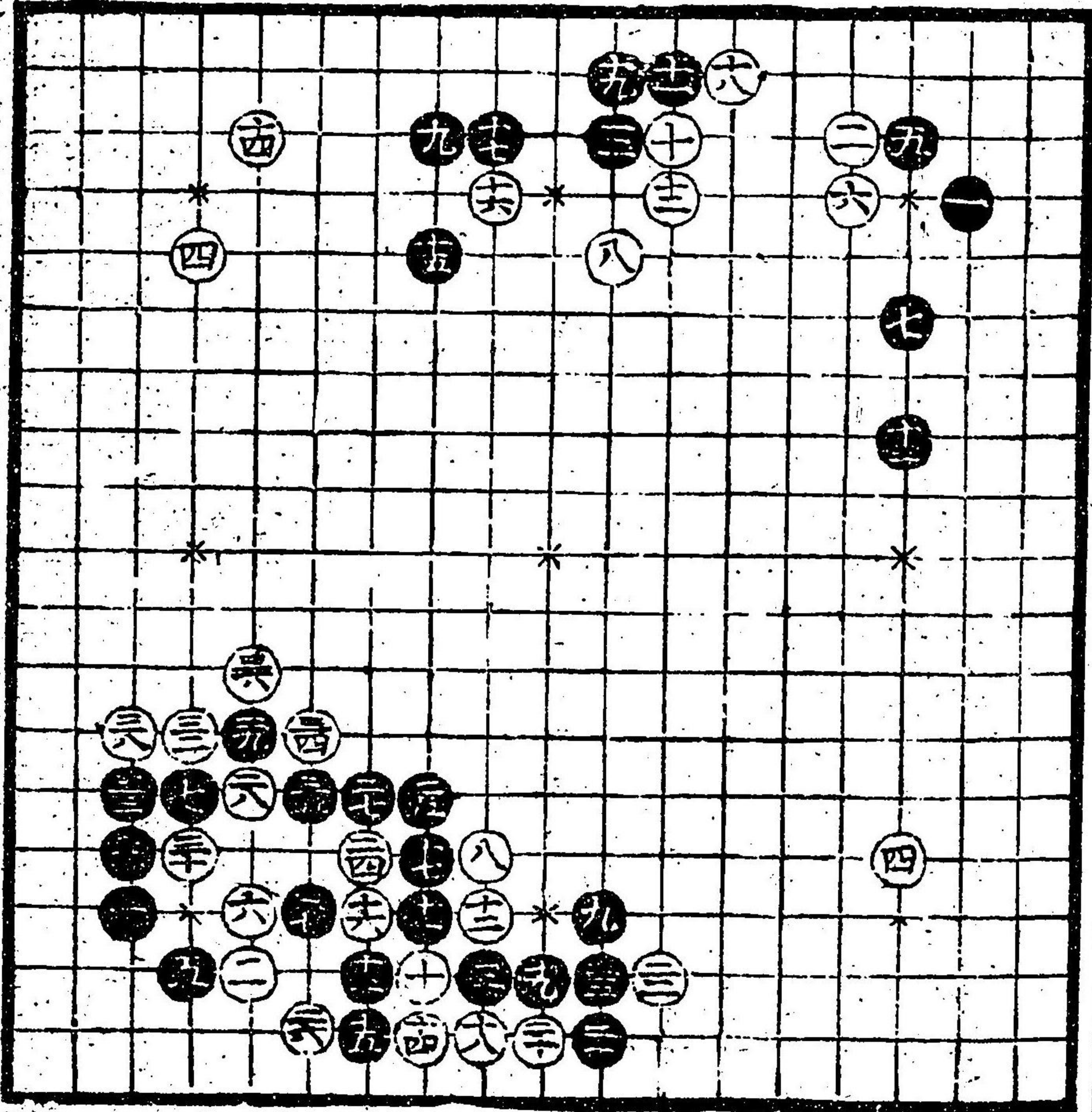
定石定三のふ

取一白二に

押すお討は

うらの登より

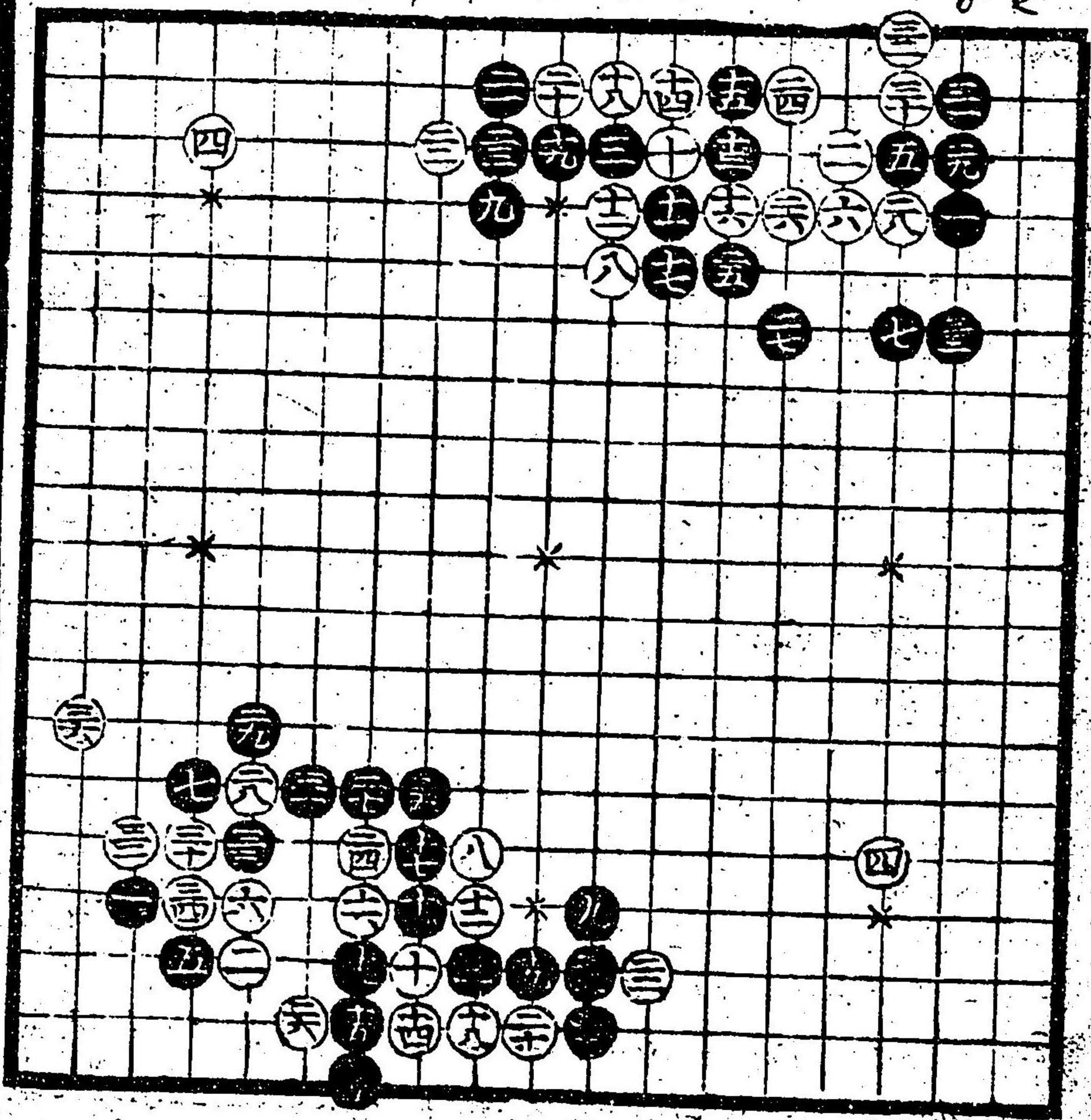
を





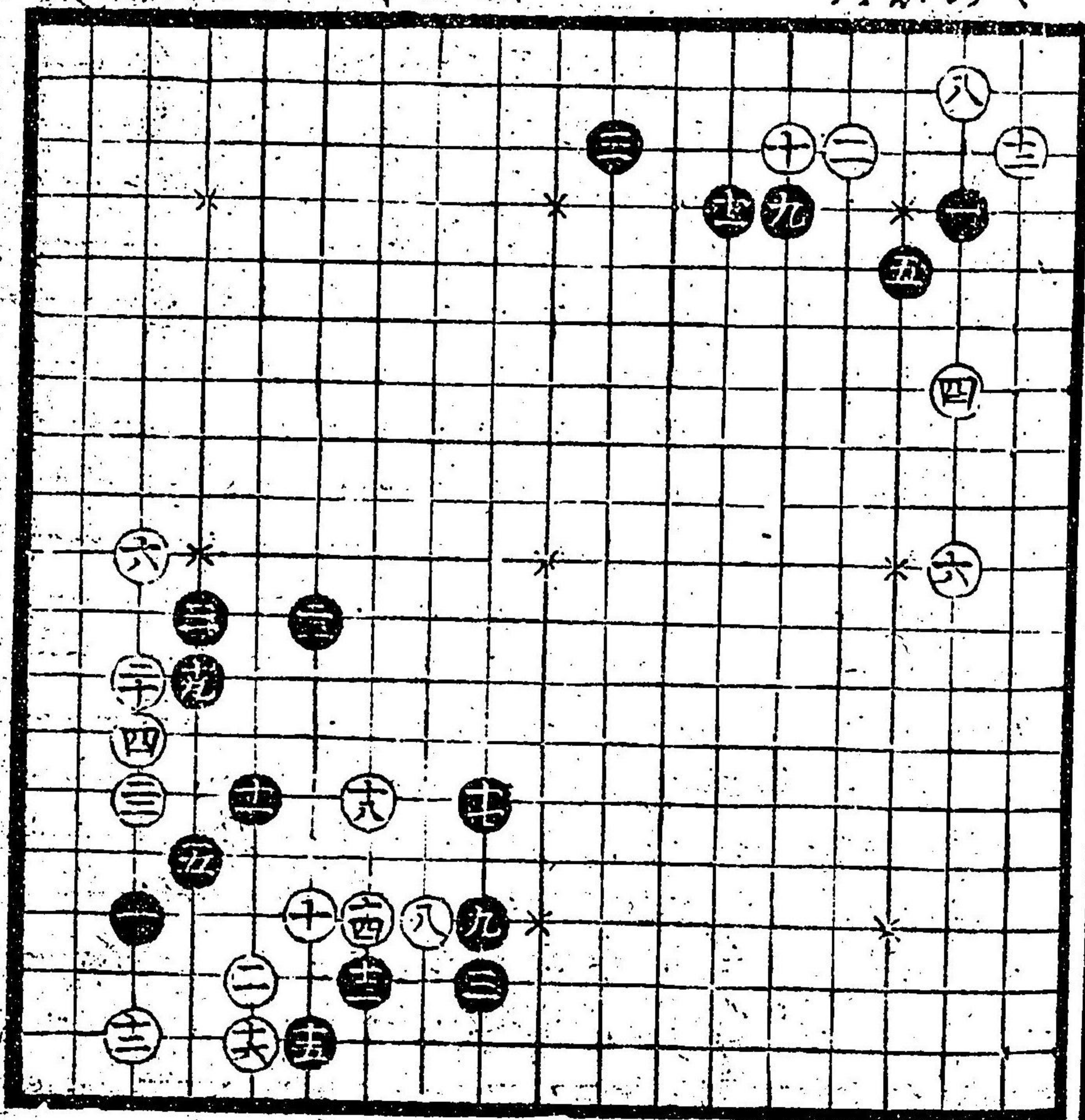
この碁の形  
 石は白の多  
 手は白

下の碁形三十  
 手は白  
 碁は白の多  
 手は白

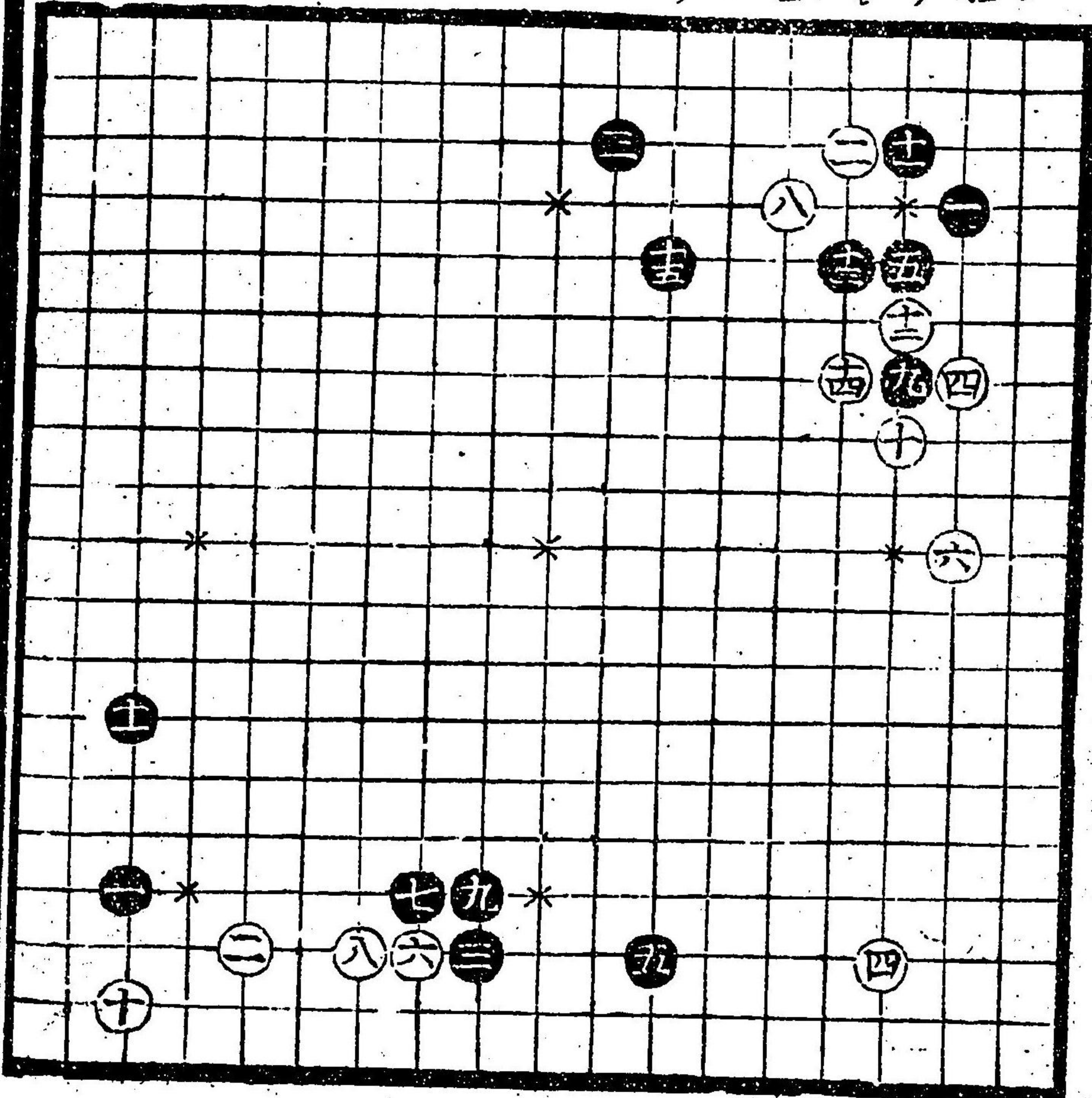


この碁形七十  
 手は白の多  
 碁は白の多  
 手は白

碁七十手は白  
 碁の多は白の多  
 碁は白の多  
 手は白

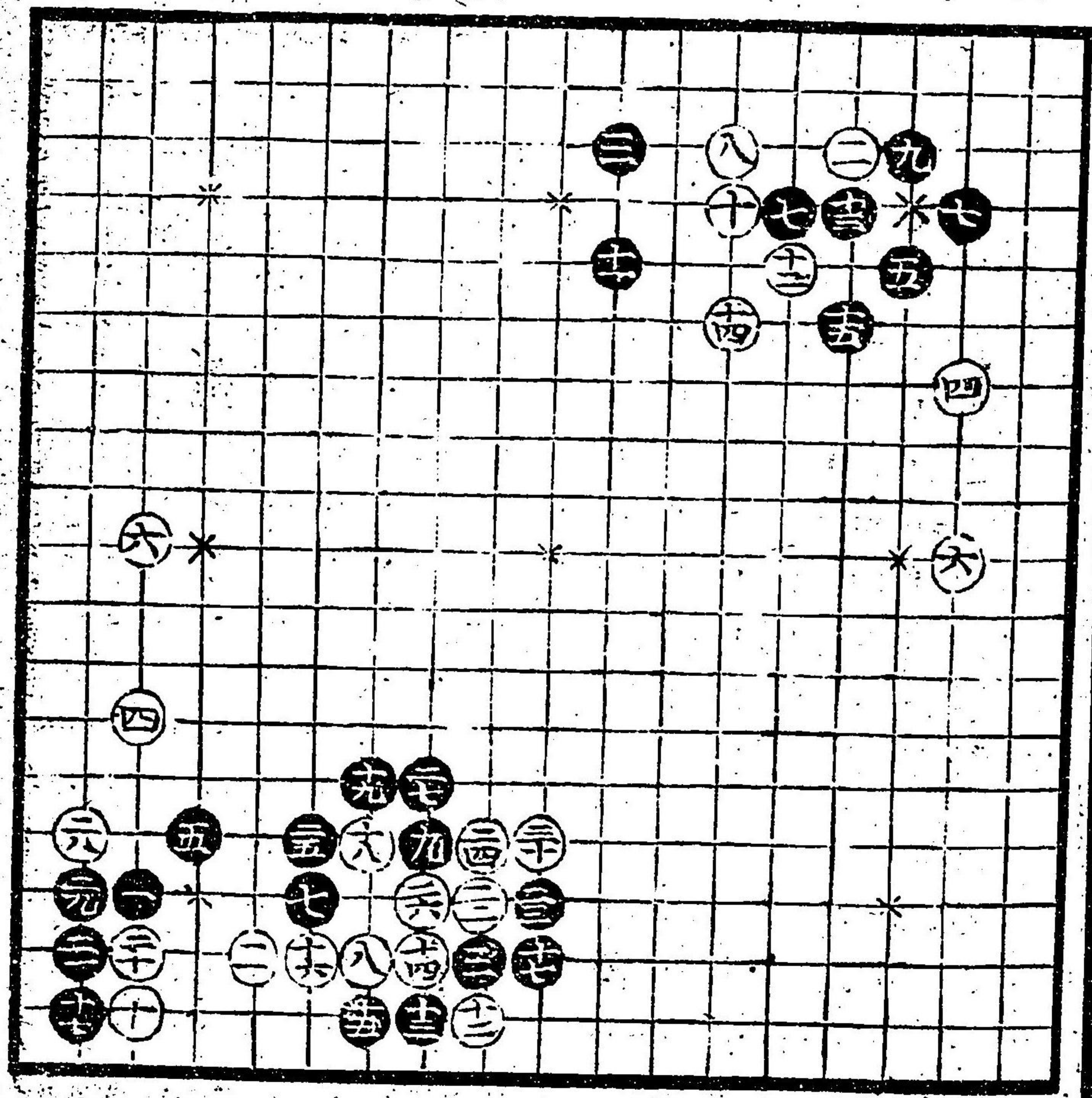


び散置七とを  
 と扱つた入居  
 九の居湯おれり  
 おともあとも  
 先六好まぬひ  
 かなた所白△  
 平よりていぢぢぢ  
 也係九今くお  
 べー



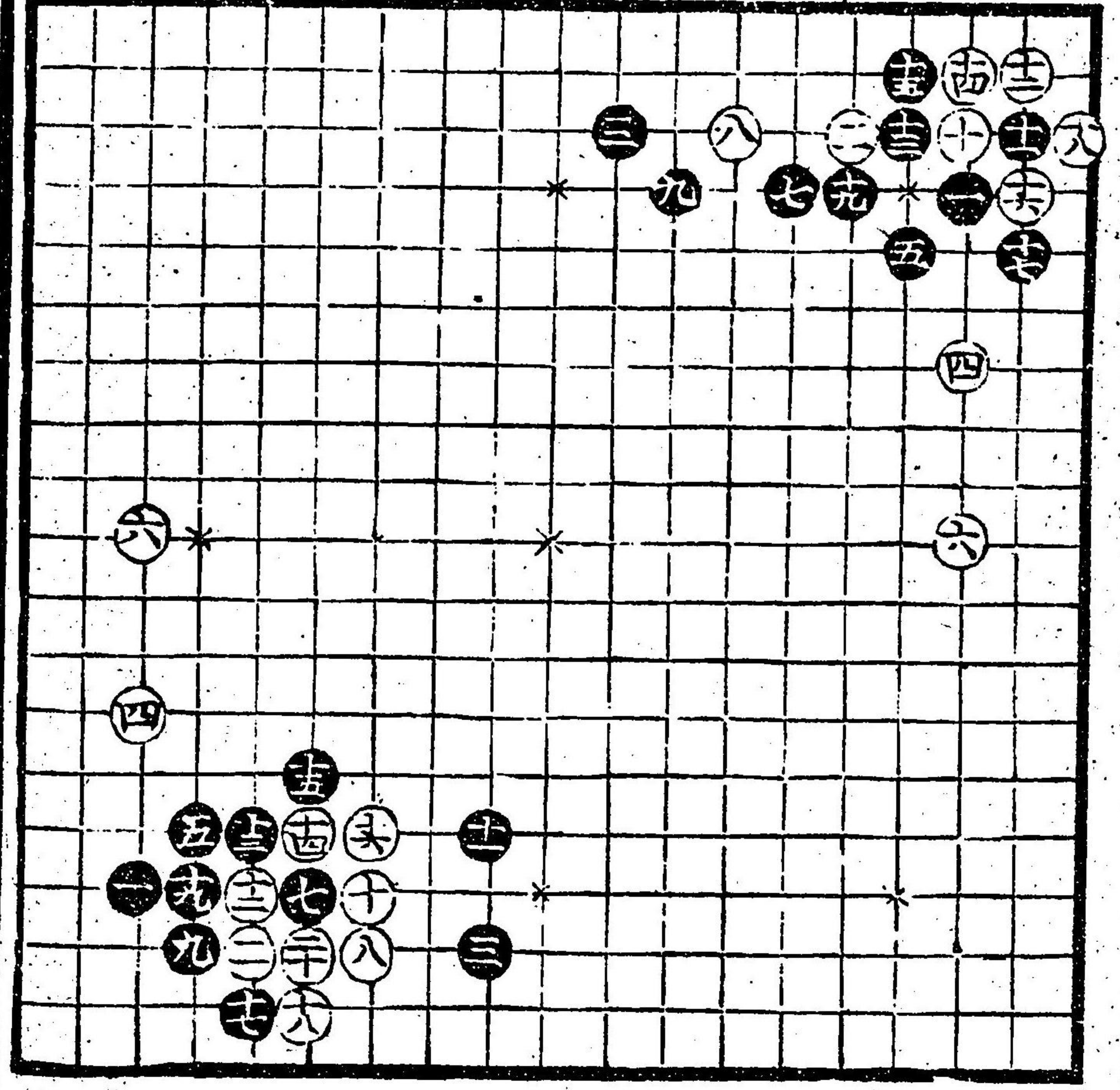
ひすみあ月の  
 雲石より  
 白の居は

九の居の  
 九に掛る  
 白の居は



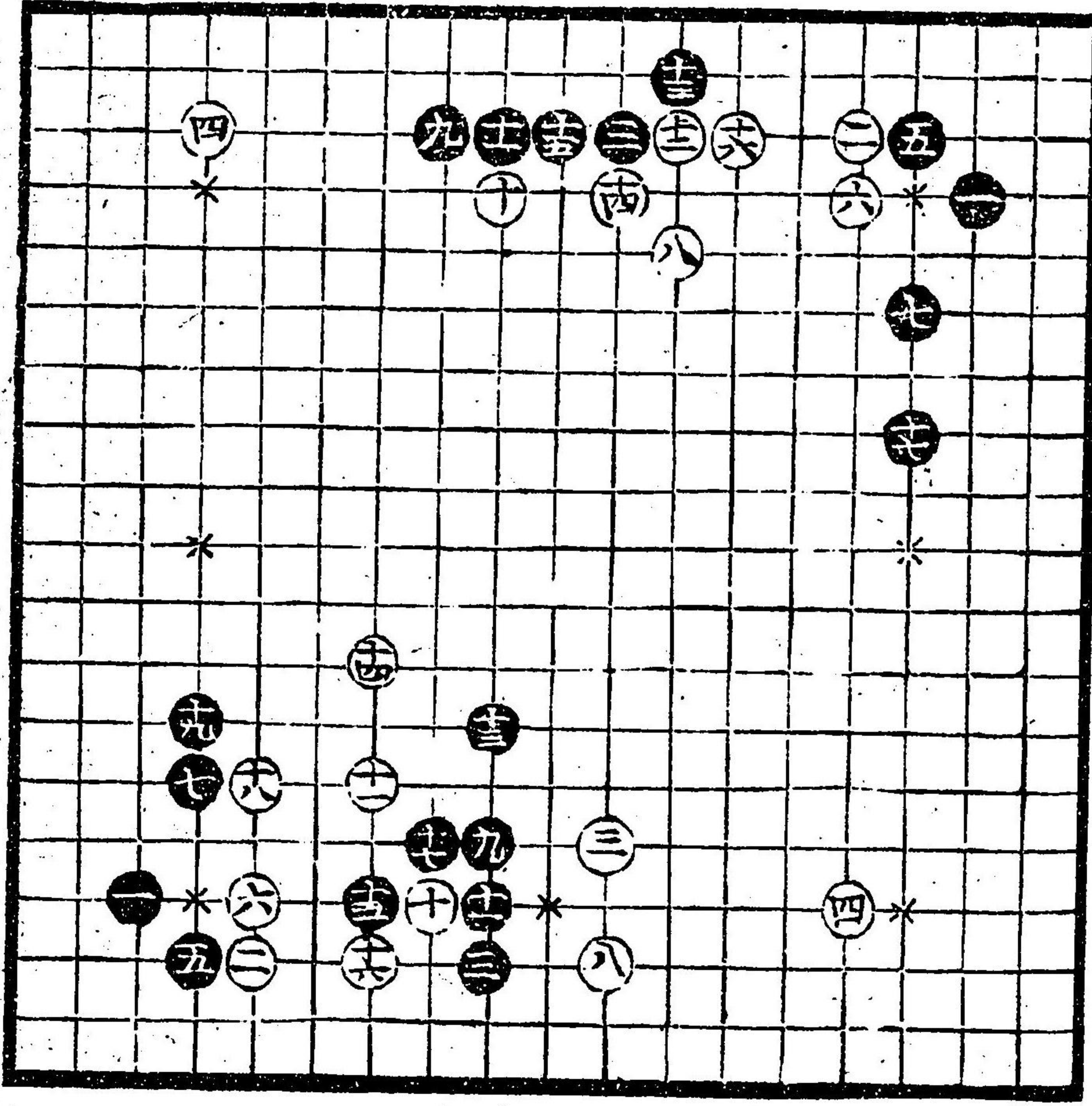
は秋葉のありき  
 きはなまそあ  
 ねよへ又く  
 とは保たすくお  
 へはあうまそ  
 とはあふあふ  
 うはあう

ちの満白不  
 八ぬくは  
 換換より白を  
 早くはやくは  
 高なる

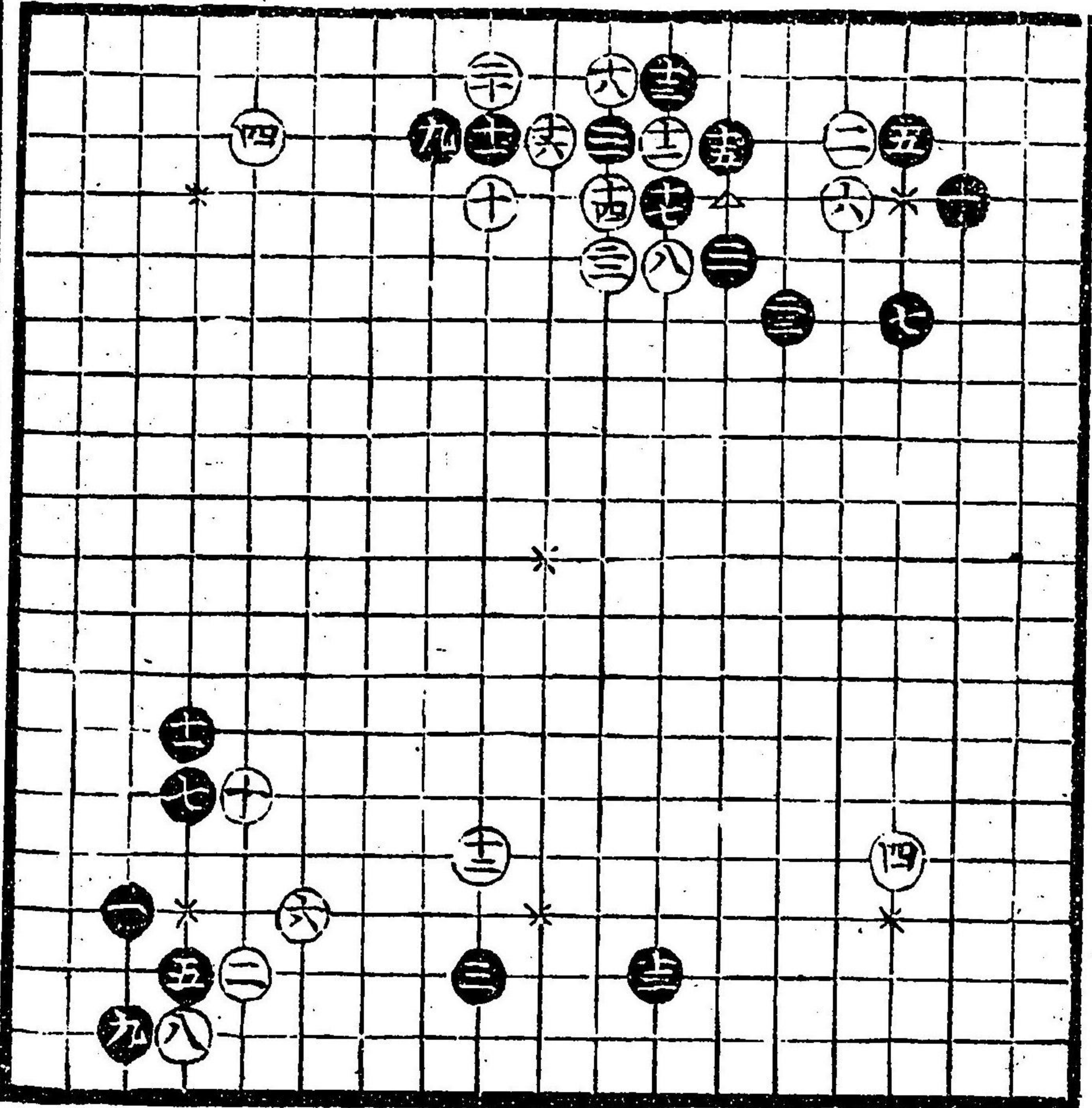


は秋葉の  
 空石なり

下の黒白の  
 手場あうく  
 おしはあ  
 うはあう

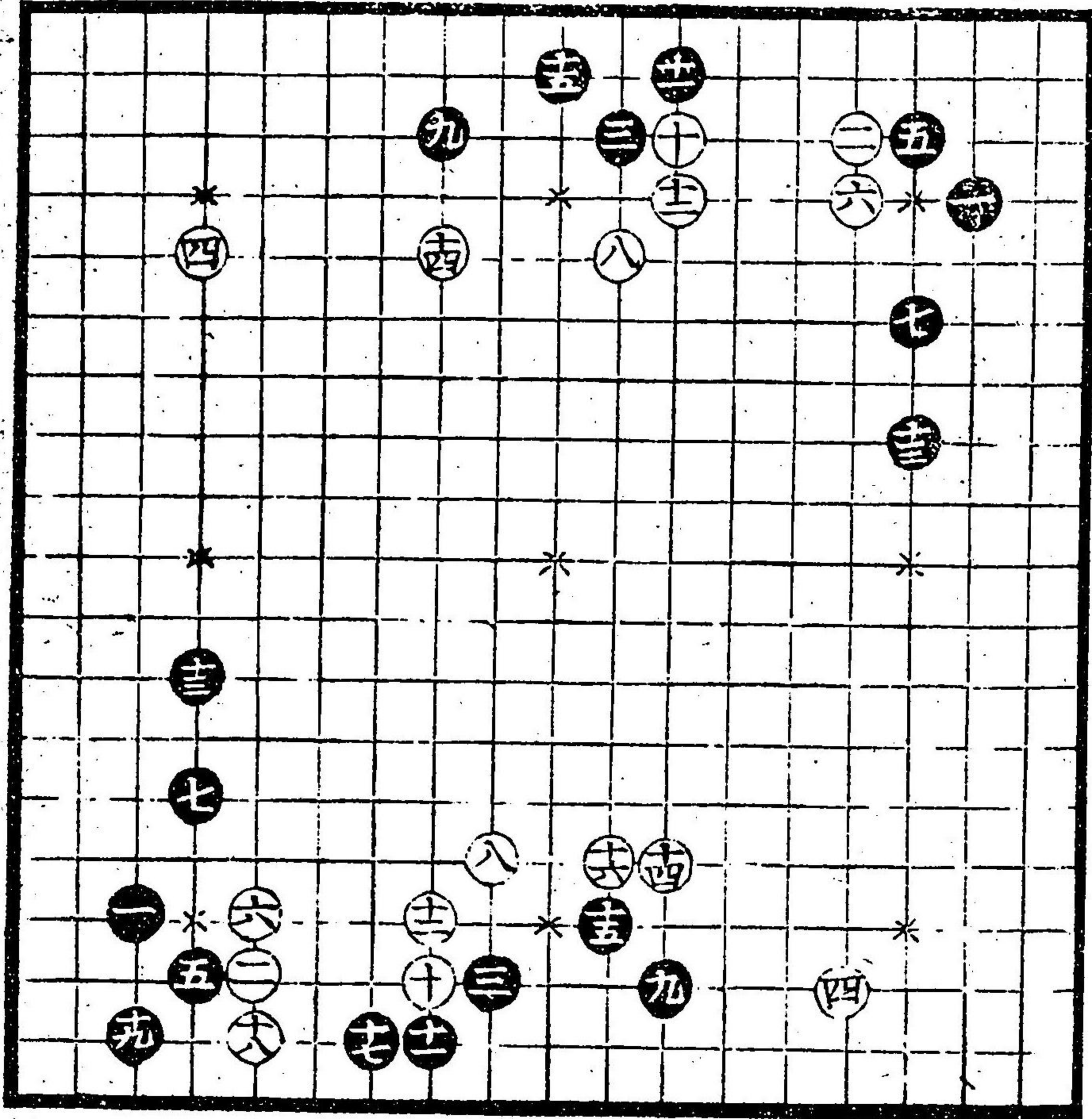


は秋盤面の換  
 板よりておこ  
 何と九玉十玉の  
 付白へやれんち  
 初の形とす  
 上はははははは  
 りとあはふ好  
 五十九切決ぐ



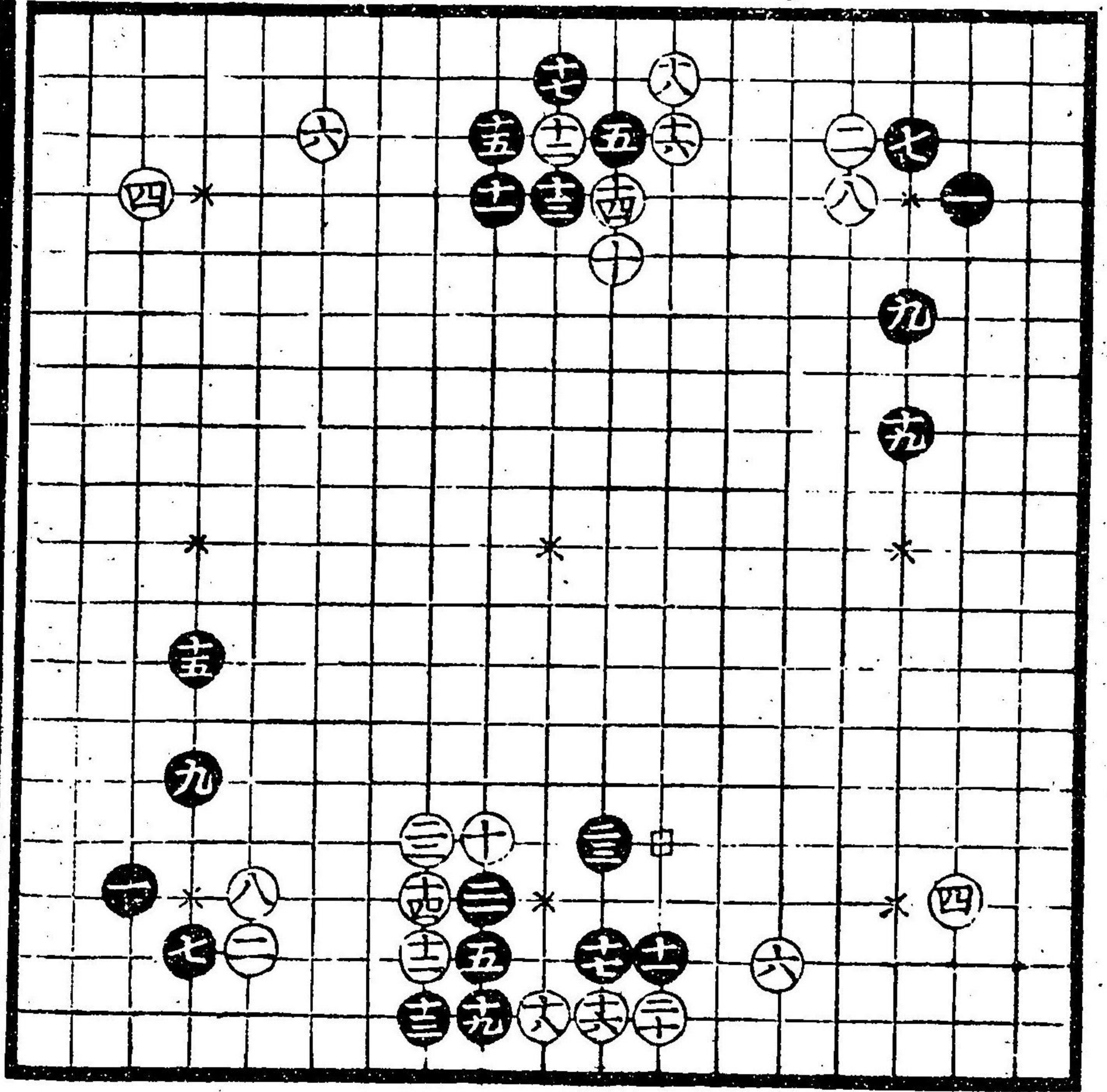
は秋白十玉と打  
 付置十玉とかけ  
 つとを石に

たの隅の形は付  
 十玉と十玉と打  
 八白玉の玉九の思  
 九玉と十玉と打  
 のあは打て思十  
 九の玉と十玉と  
 子とぬらてらる  
 りあり

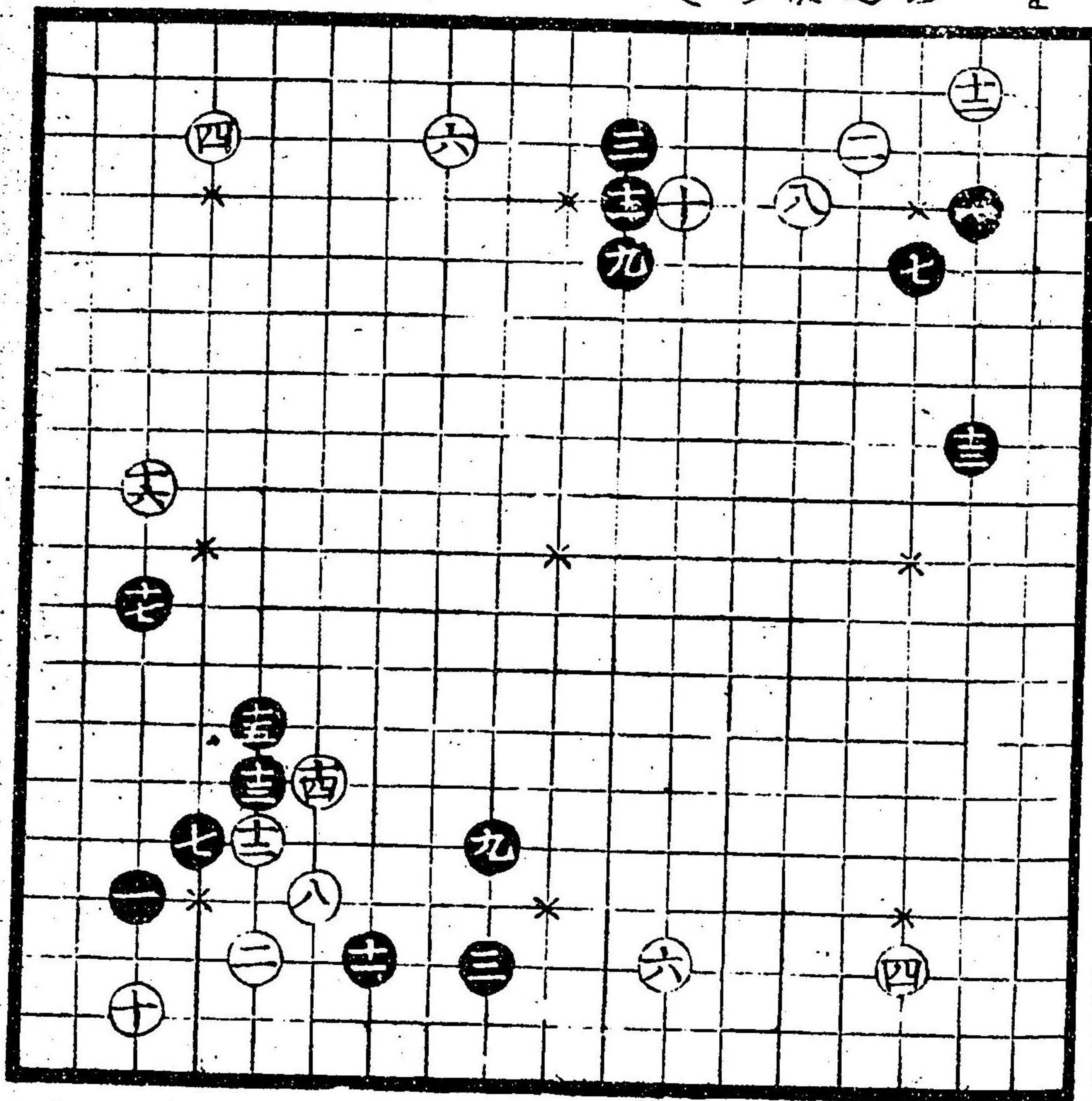


此形悪く外  
 と打付出する  
 悪士のまはる  
 好ま  
 左の悪の如く  
 ういし

左のまの白十  
 六乃よ外と打  
 付悪口平は  
 ず

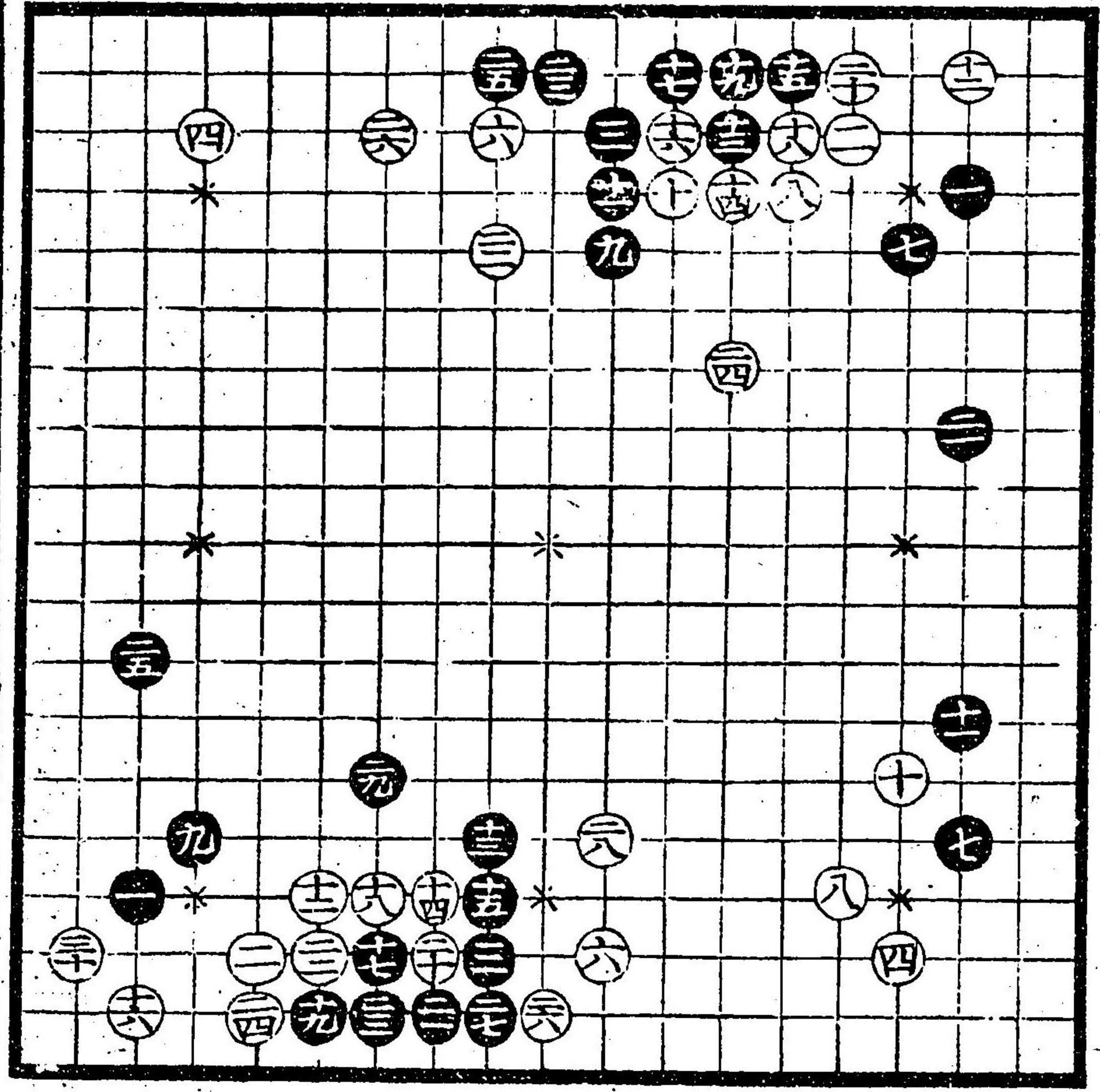


此形悪く外  
 と打付出する  
 悪士のまはる  
 好ま  
 左の悪の如く  
 ういし



ひまみの歌あ  
 けきし用るは  
 二二のふと  
 けつ

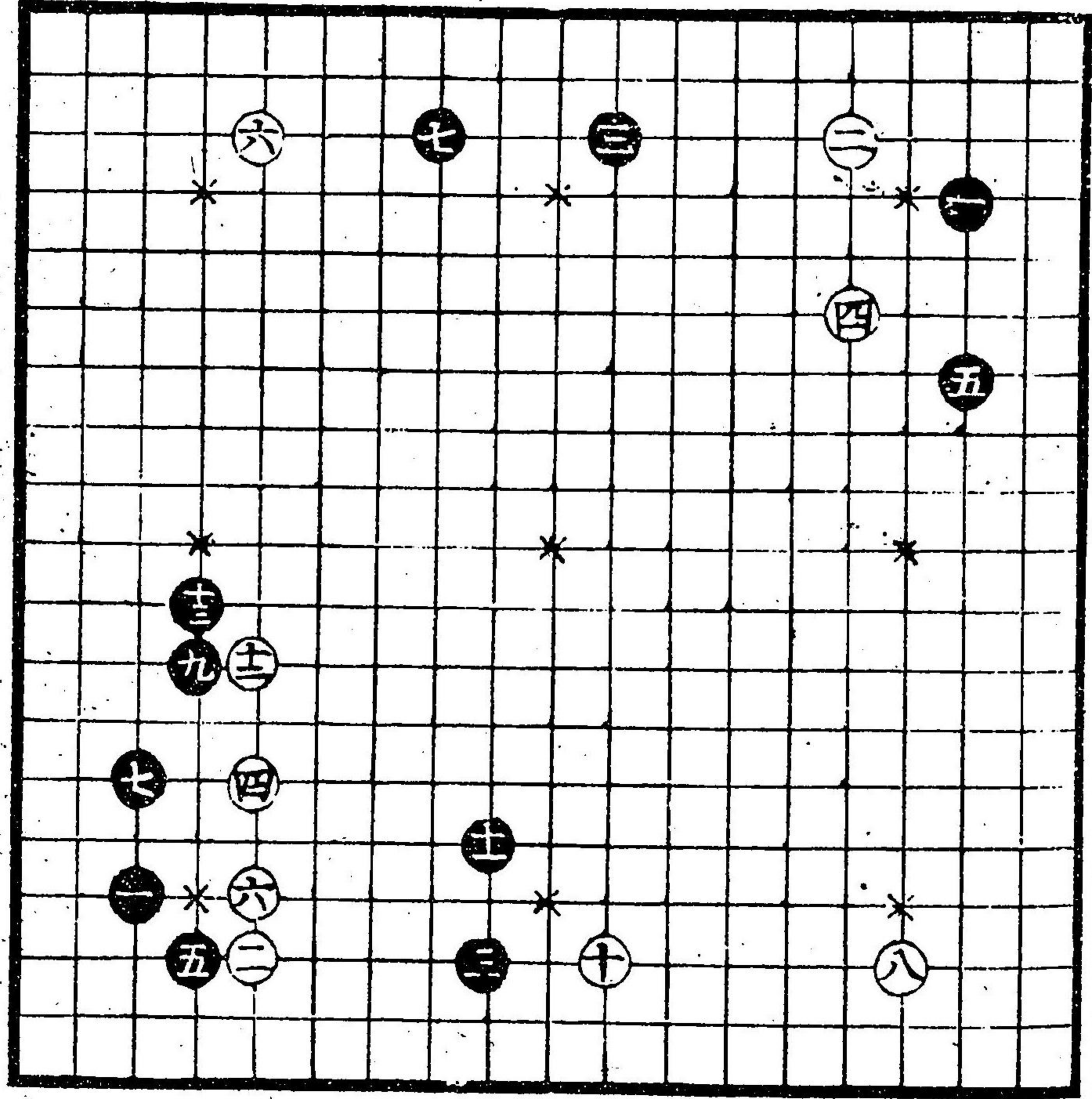
たの隅み換  
 振寄白二六と  
 こみみとあま  
 むいせとあま  
 ハミ寄白小あ  
 へ



ひまみ白二六  
 とけき白二  
 十のふと  
 けつ

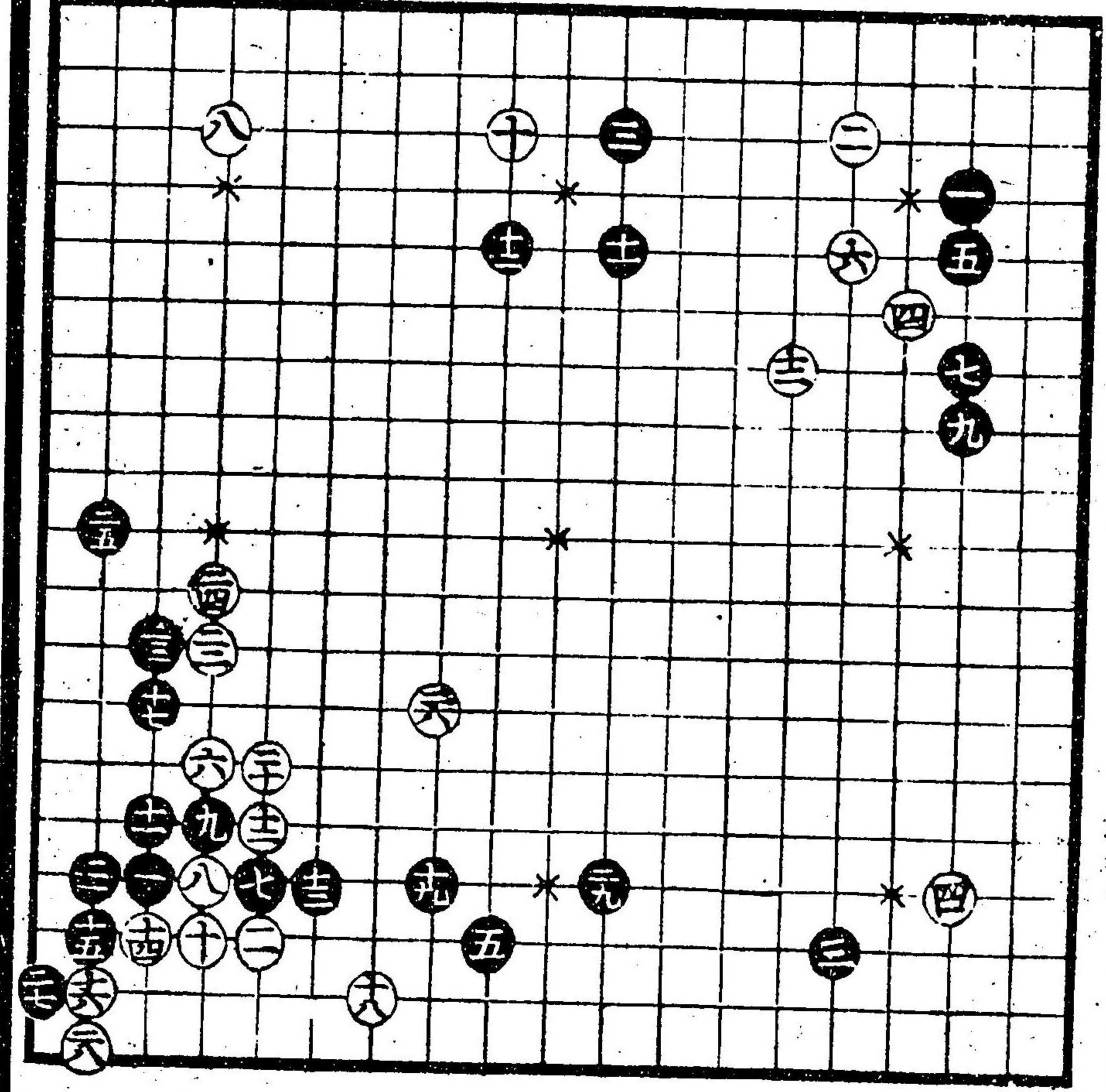
はむとら常用  
 の定座入黒白  
 けつ

たの隅み換  
 けきし用るは  
 二二のふと  
 けつ



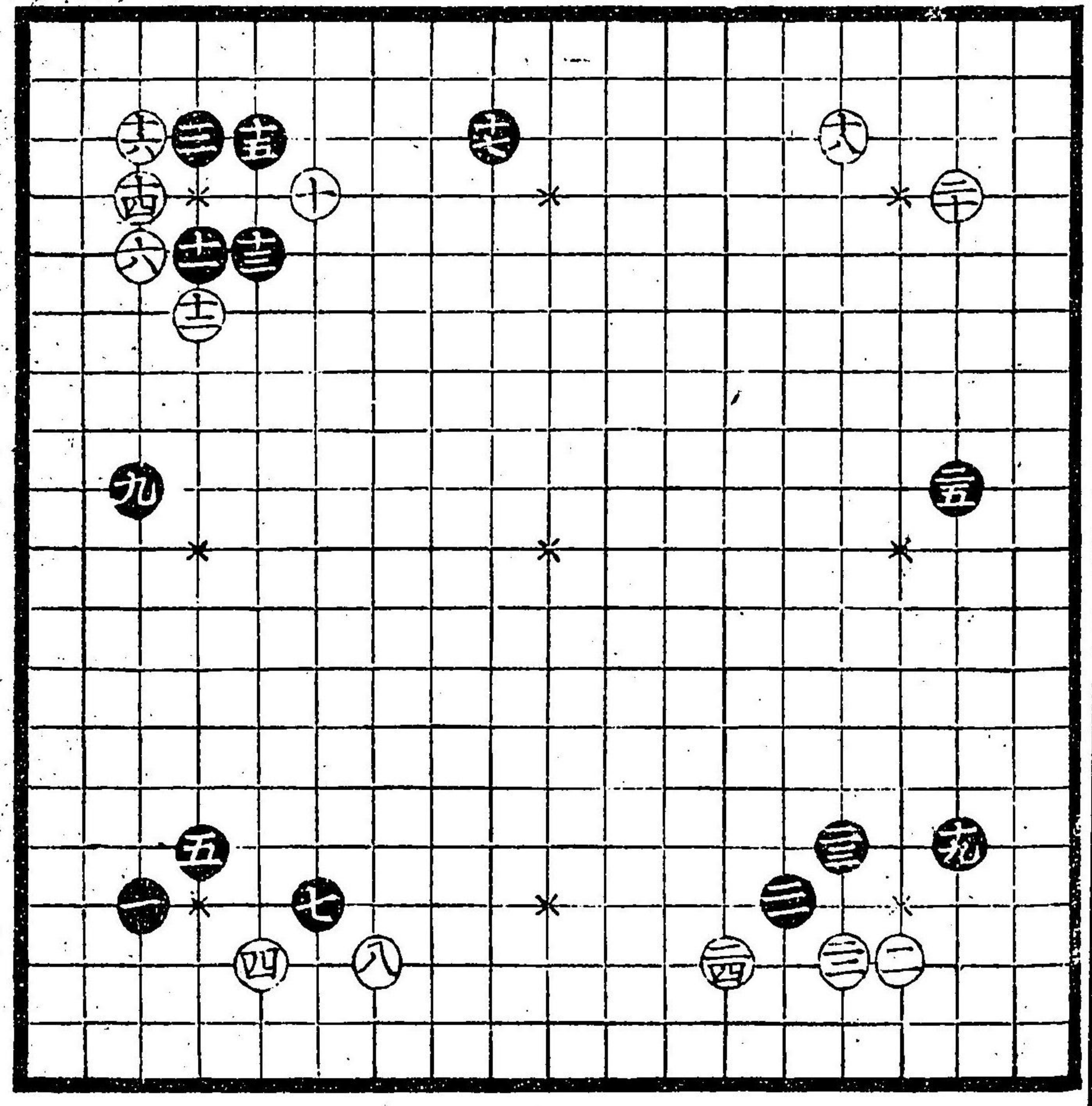
び散道時隊の  
 のま方を天保  
 以後の上まの南  
 へ北打春まぐ  
 あり南まを我  
 待らせんとら  
 るのちこ

たの隅も白の  
 を保てゑの勢を  
 とらんと



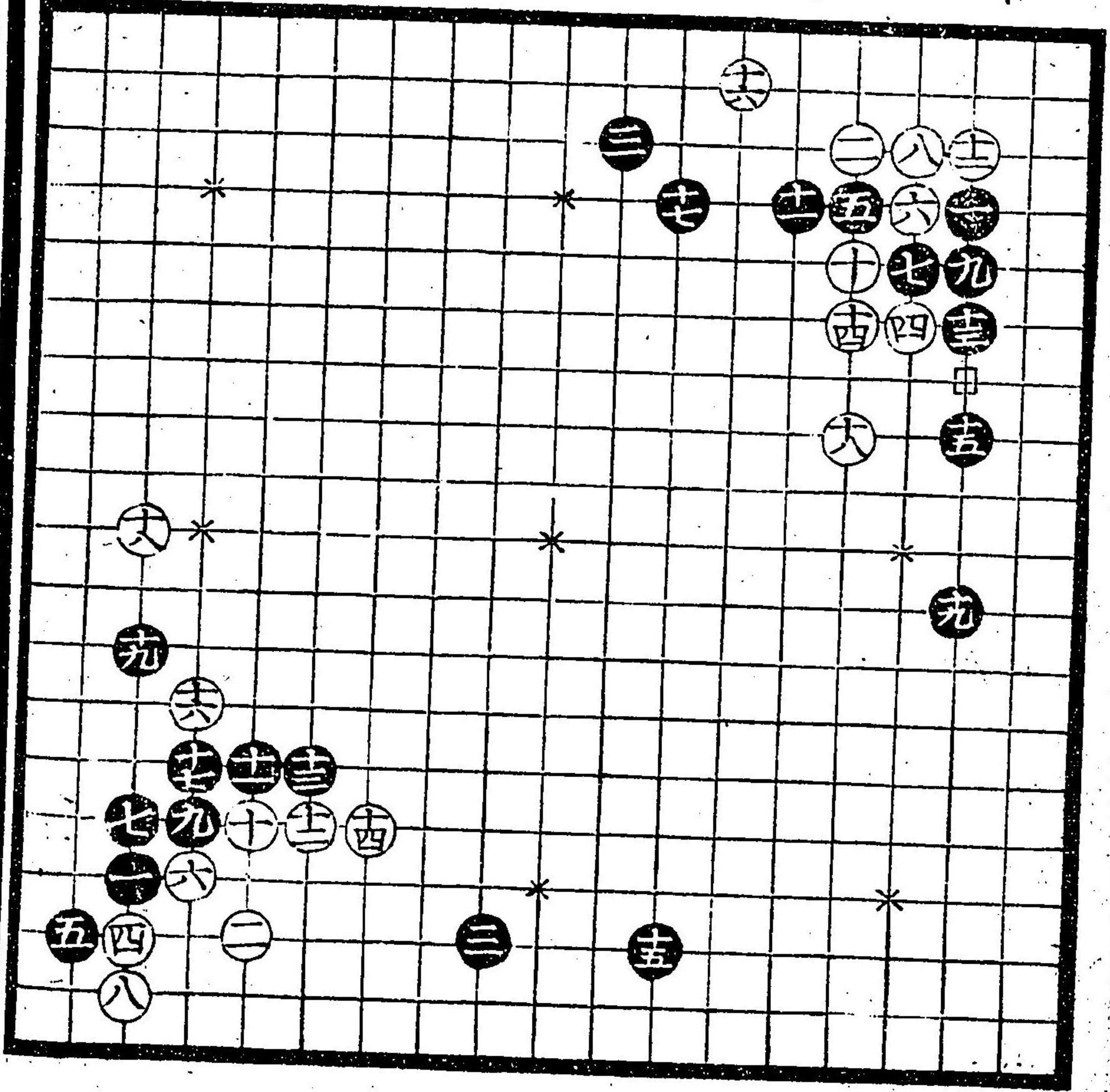
び散白十二のま  
 黒にまてゑの南  
 まあり時ぐら  
 ちか

ちのまを黒の  
 換振大まじし



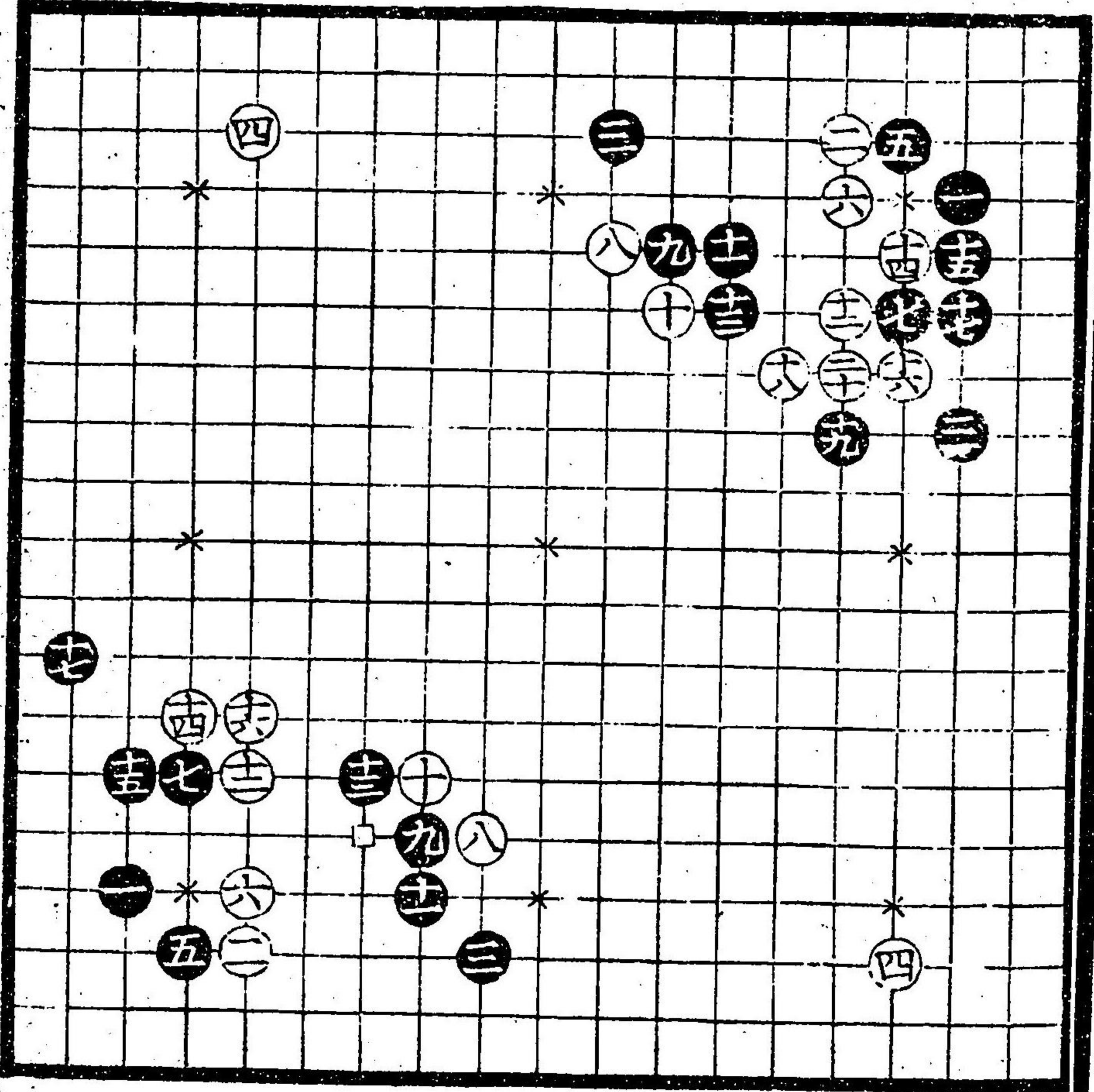
はつてらるゝ十  
 三のよロヤら  
 うた定夜かま  
 どもおやう  
 け取のう  
 口情

たの隅の用  
 定夜し更九の  
 ちと十九と二  
 先印らき  
 う候もよう



はさきくハ出本  
 定夜し更九の  
 ちと十九と二  
 先印らき  
 う候もよう

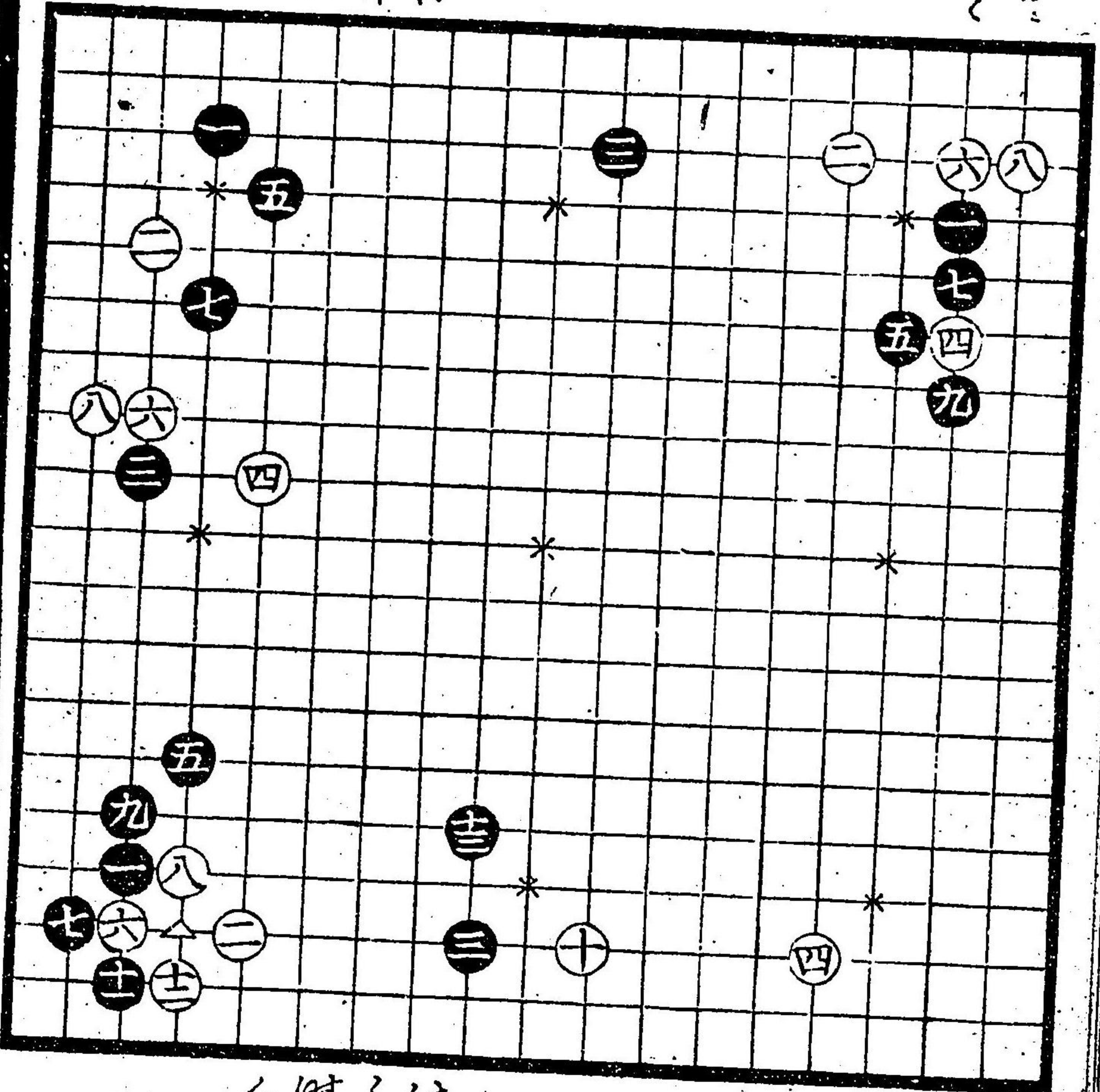
下の墨印上の  
 よ右の墨の如  
 くロヤハおし





は取白の石  
 換り討取  
 うは

二間様  
 より  
 七の  
 もり

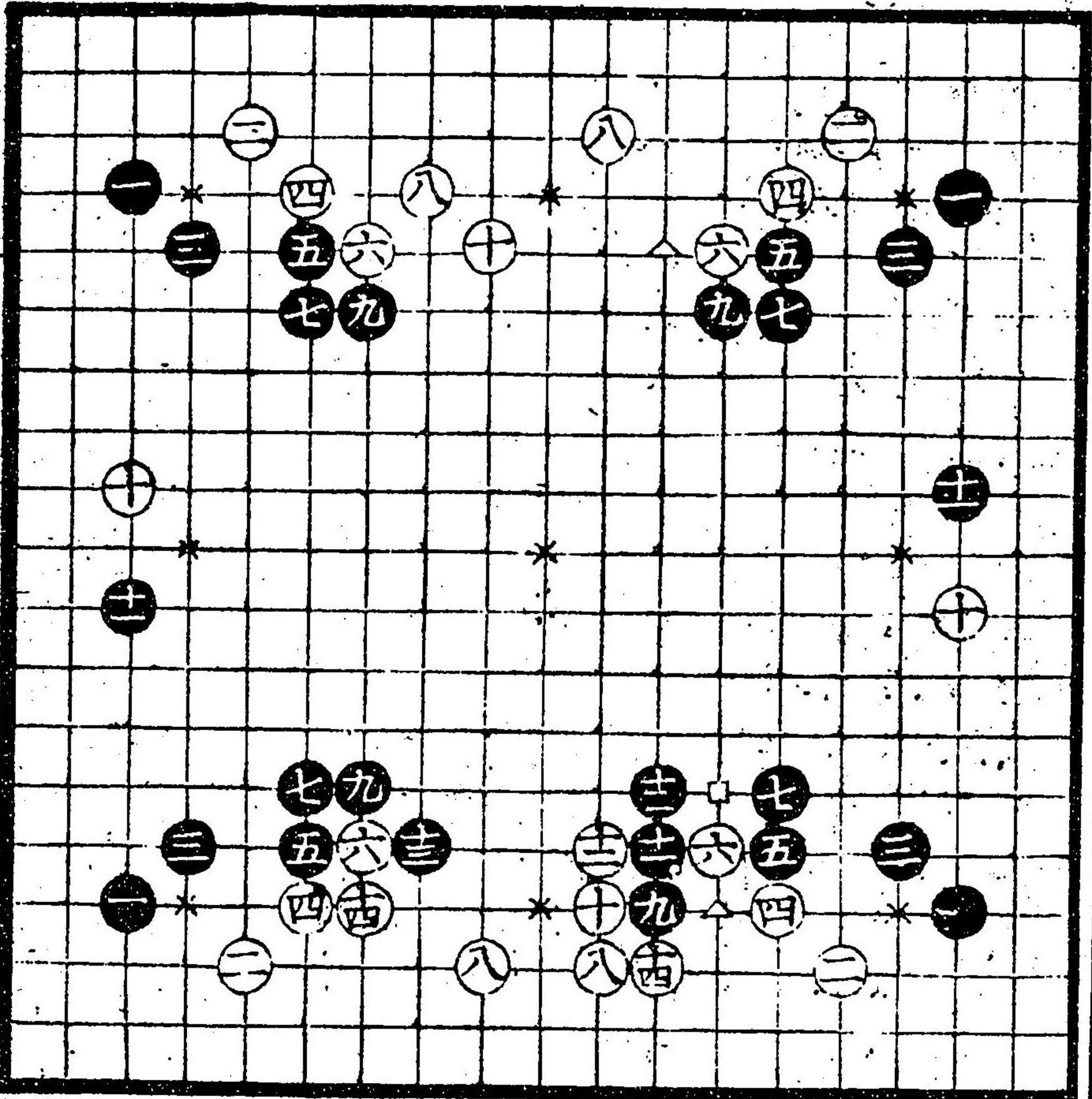


は取  
 白切  
 討  
 白

と  
 立定

白△  
 の  
 ま  
 △  
 八

は  
 変

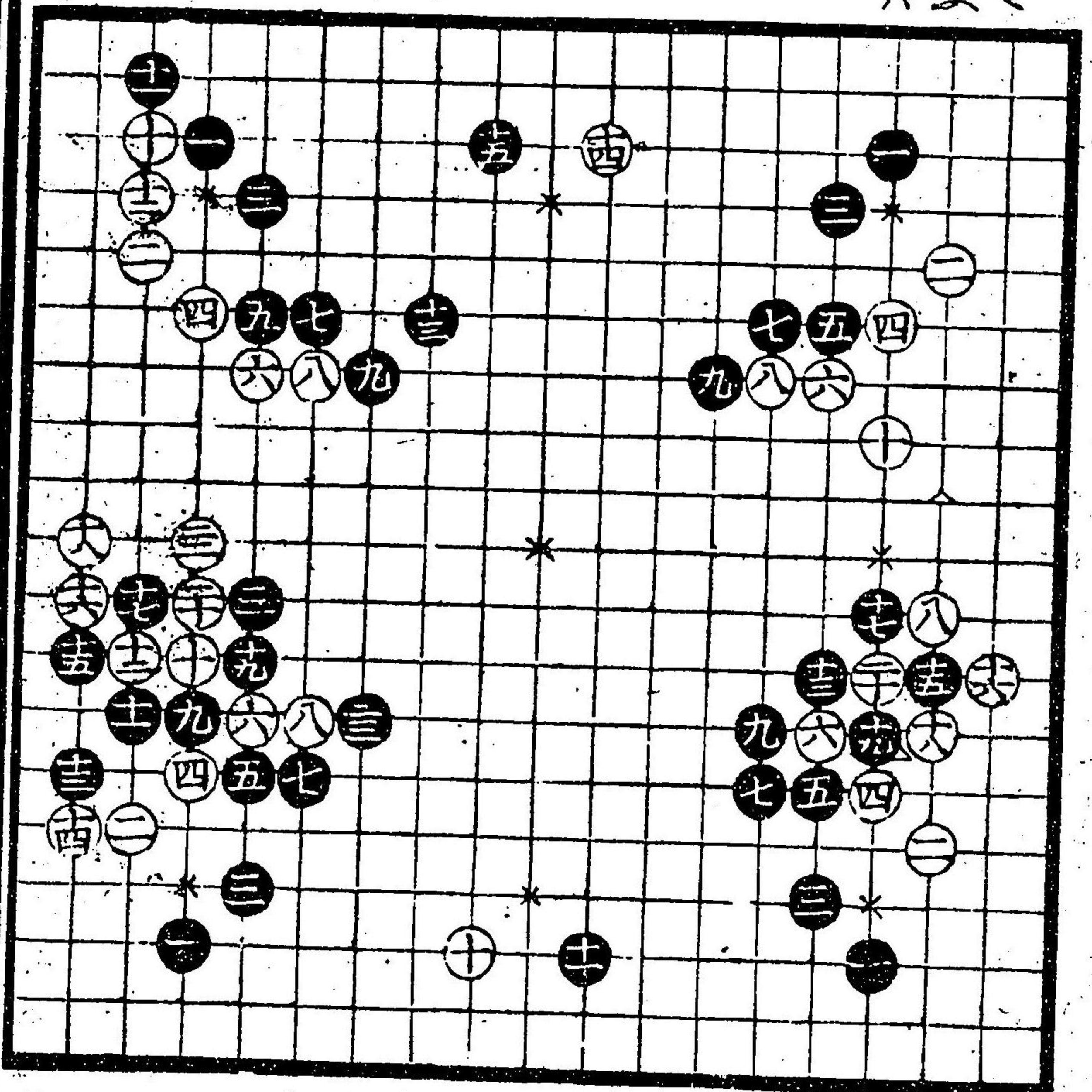


は  
 打  
 白  
 案

白  
 の  
 名

い満ち月のま  
あかり白きま  
のあかりなき時ハ  
△平△おかり

いまみち月の  
形かり黒白  
みかゝりのら  
とて

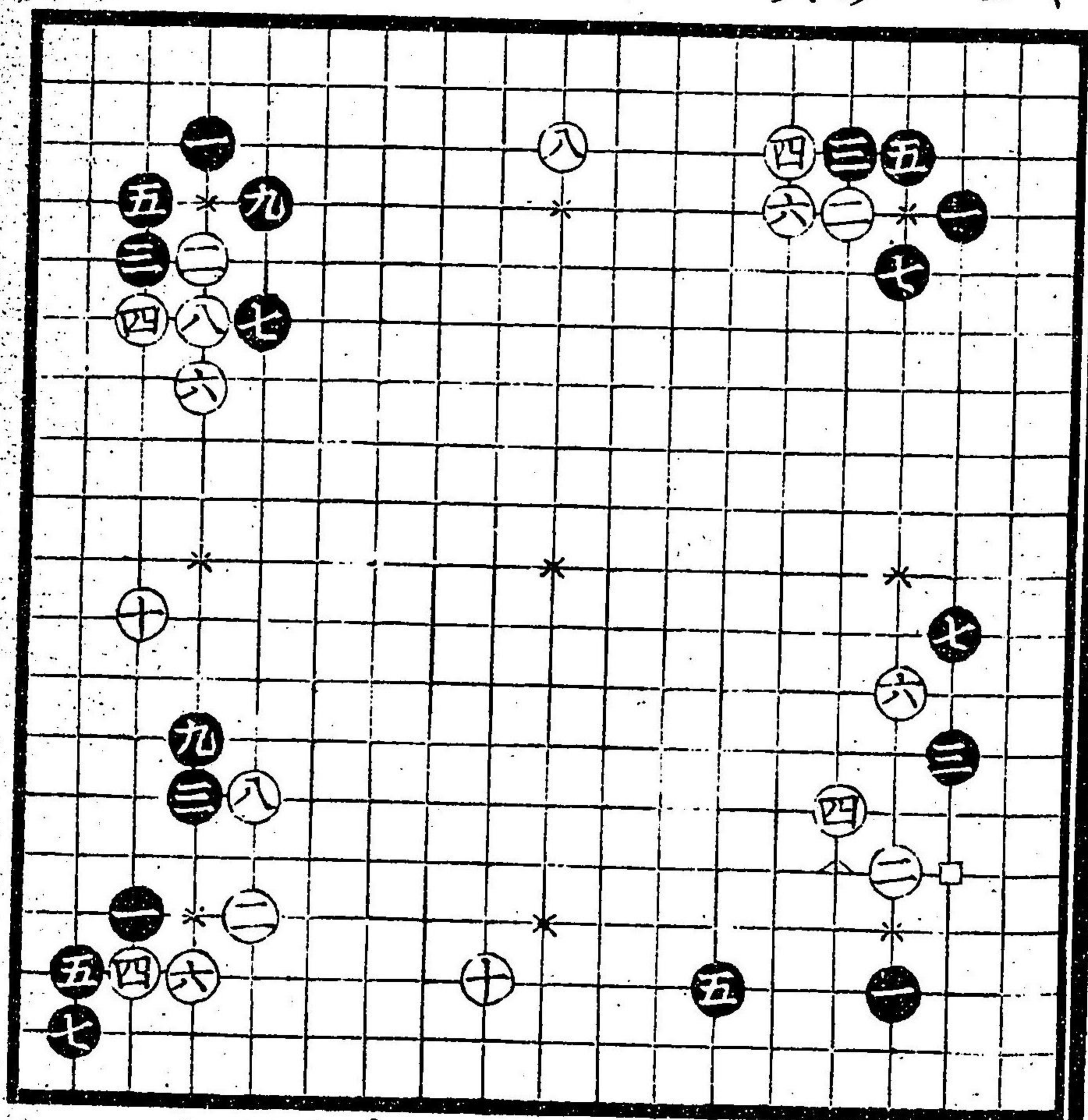


白廿二子抜  
ぬけぬるの初  
は△平△おかり  
ぬきぬきぬき  
時の操指より  
子と抜きぬき  
者△平△白  
はくおかり

右の取志て  
のあかりの  
愛記かり

小月とたぐ  
掛るる石を  
定石  
いまみち月の  
形黒白勝負  
なり

い平月

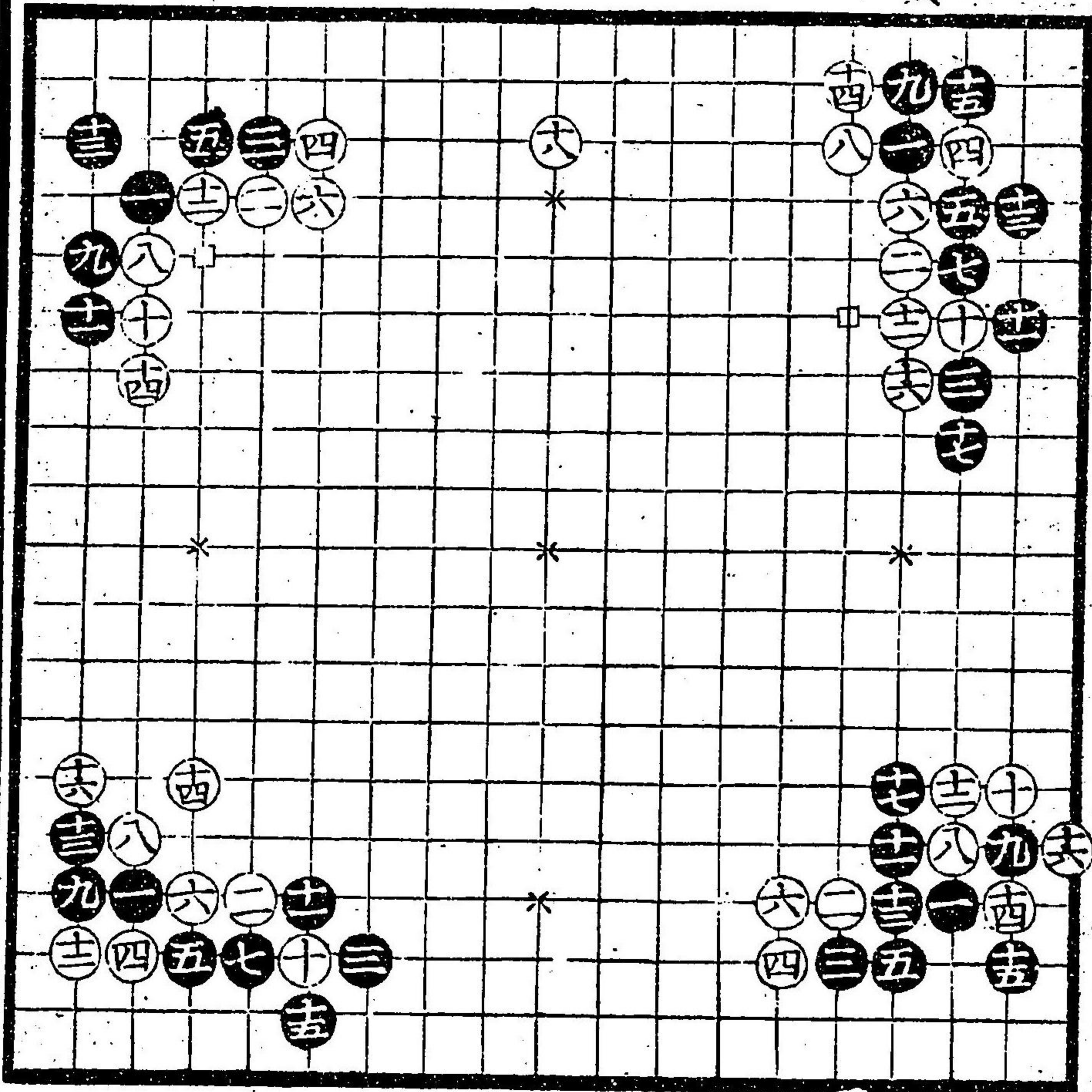


い取黒三のま  
多ふるぬき  
より打てぬ  
あり△平△  
平△平△

い取黒三のま  
多ふるぬき  
より打てぬ  
あり△平△  
平△平△

ひびくらしき  
かきど白のこ  
面白く口平  
歩方止し

ひびくらしき  
と接たらし  
口平より  
ひびくらし

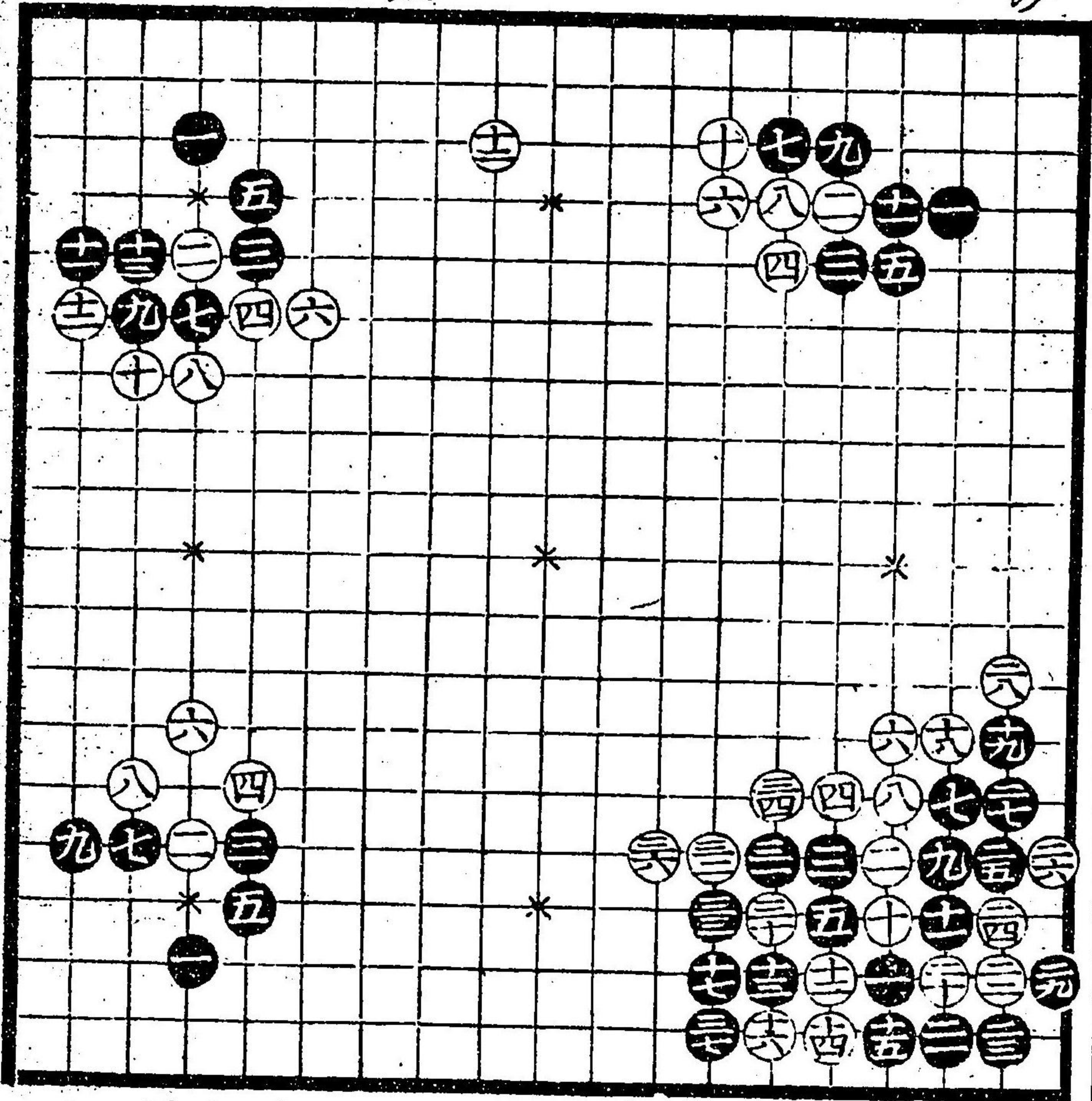


黒七子抜  
ひびくらし白十  
のよ敷  
た上り星に  
うつり

ひびくらし  
と接たらし  
右の隅の  
うつり

ひびくらし  
定石あり

ひびくらし  
よりある  
とも換なれ  
のよ敷

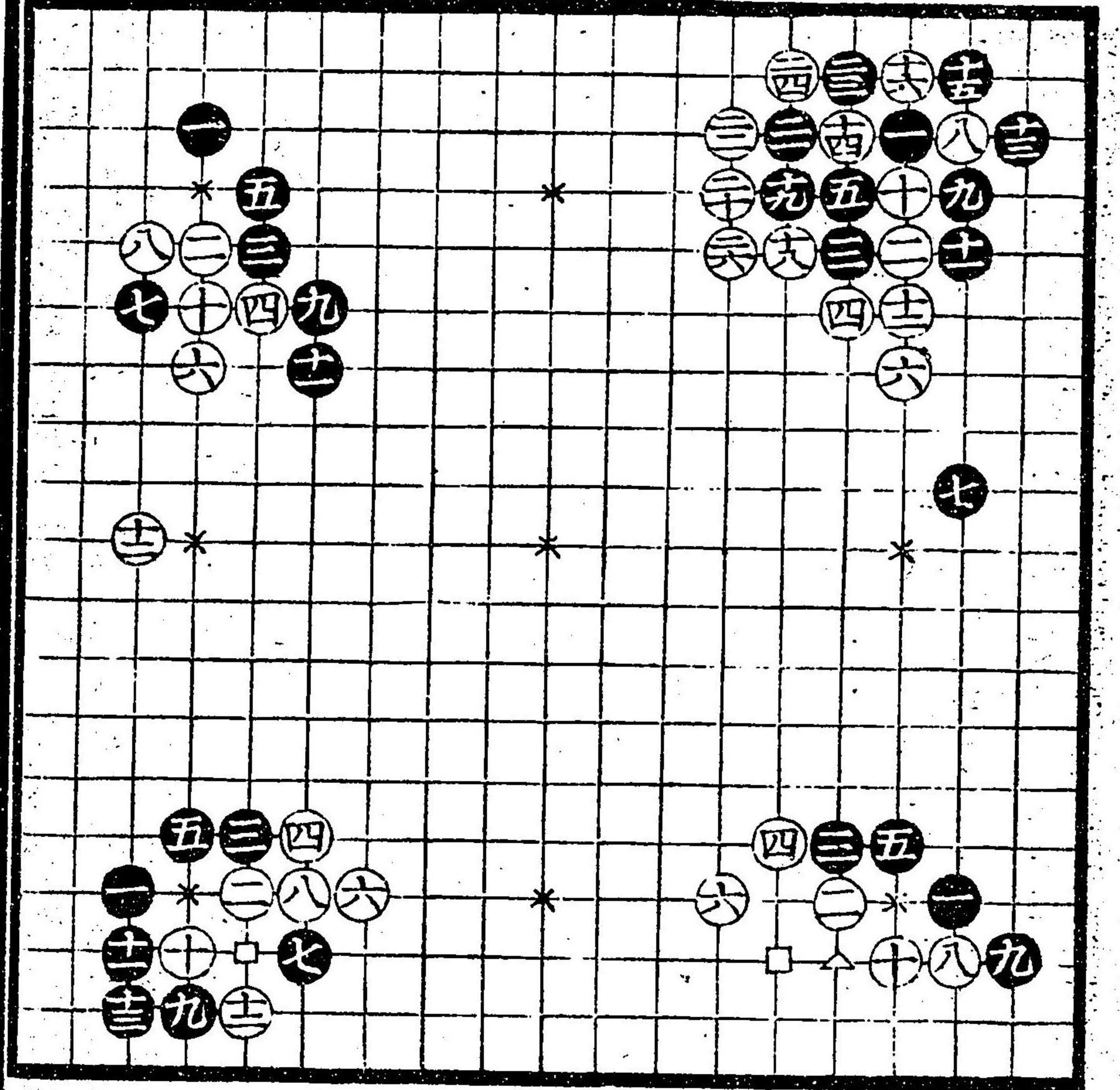


ひびくらし  
大石の  
の付打  
位な  
換え  
黒三又つぐ

ひびくらし  
定石あり  
のよ敷

此局白八の悪  
 手は上の悪  
 付くは白八の  
 白の牙を落す  
 を結ぶ定めて  
 下  
 悪二入は  
 悪十七つぐ

此局白八の悪  
 には考うは  
 ありと好ま  
 されど位を

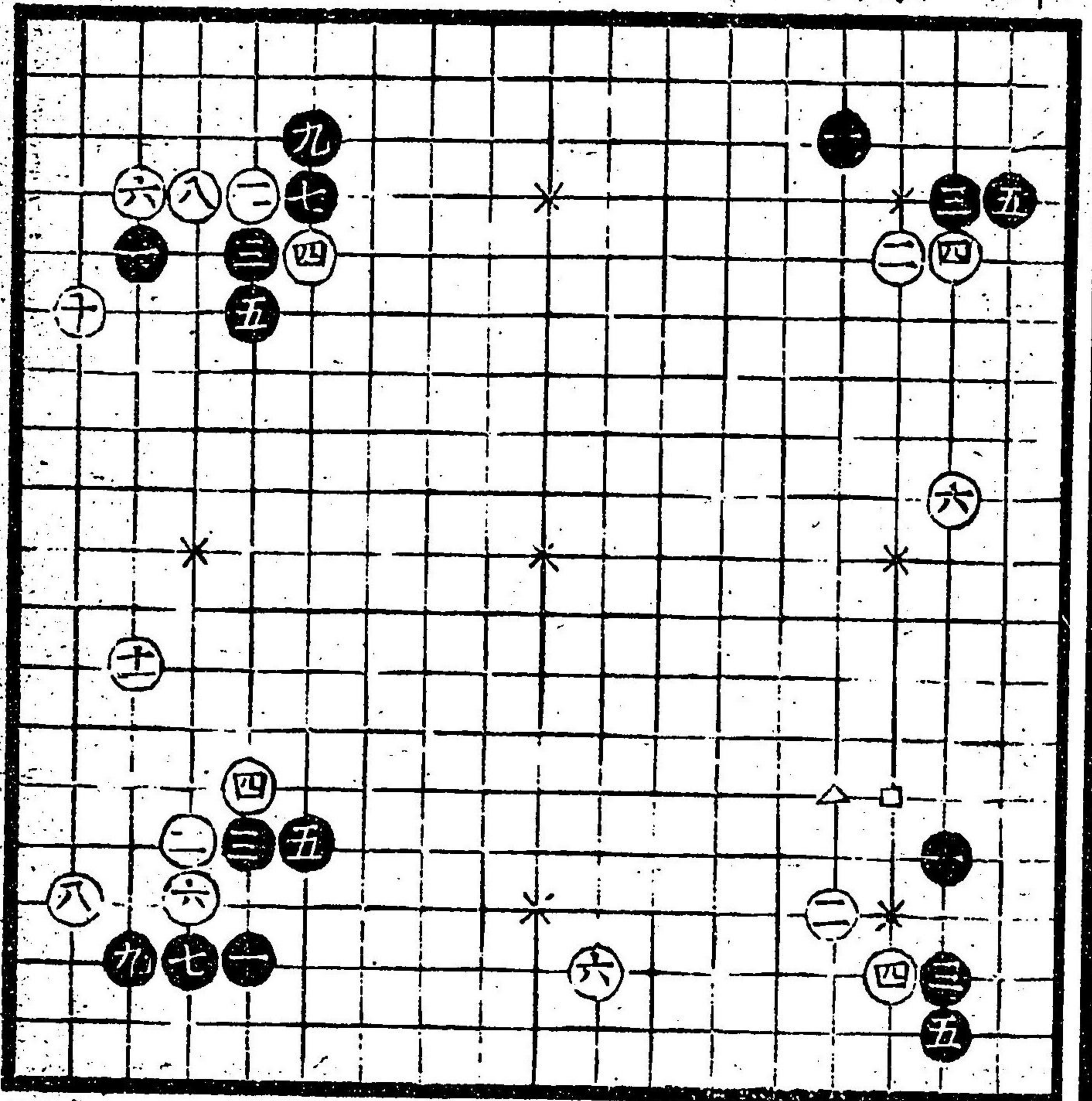


此局悪七と  
 と接たるなり  
 外は格別徳の  
 起るはあり時  
 手とぬくま  
 八口下△京へ  
 ありは

此局悪九の  
 処と考うは  
 ありと好ま  
 されど位を

此局白八の  
 悪七と打  
 あり  
 双方よとぬき  
 たり時△京へ  
 悪うは口京へ  
 あり

この取は  
 白の悪七と  
 あり

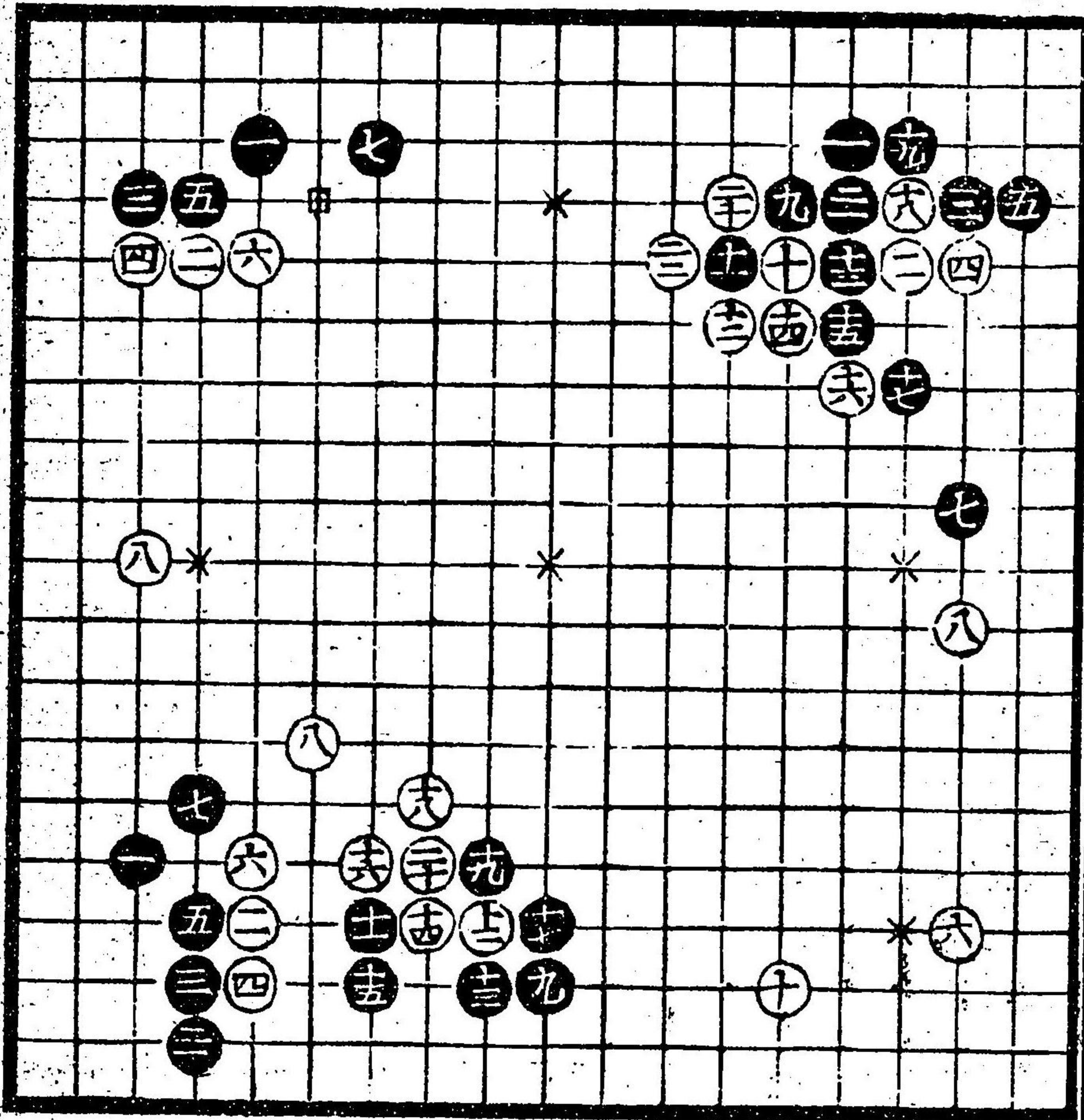


此局悪七と  
 と接たるなり  
 外は格別徳の  
 起るはあり時  
 手とぬくま  
 八口下△京へ  
 ありは

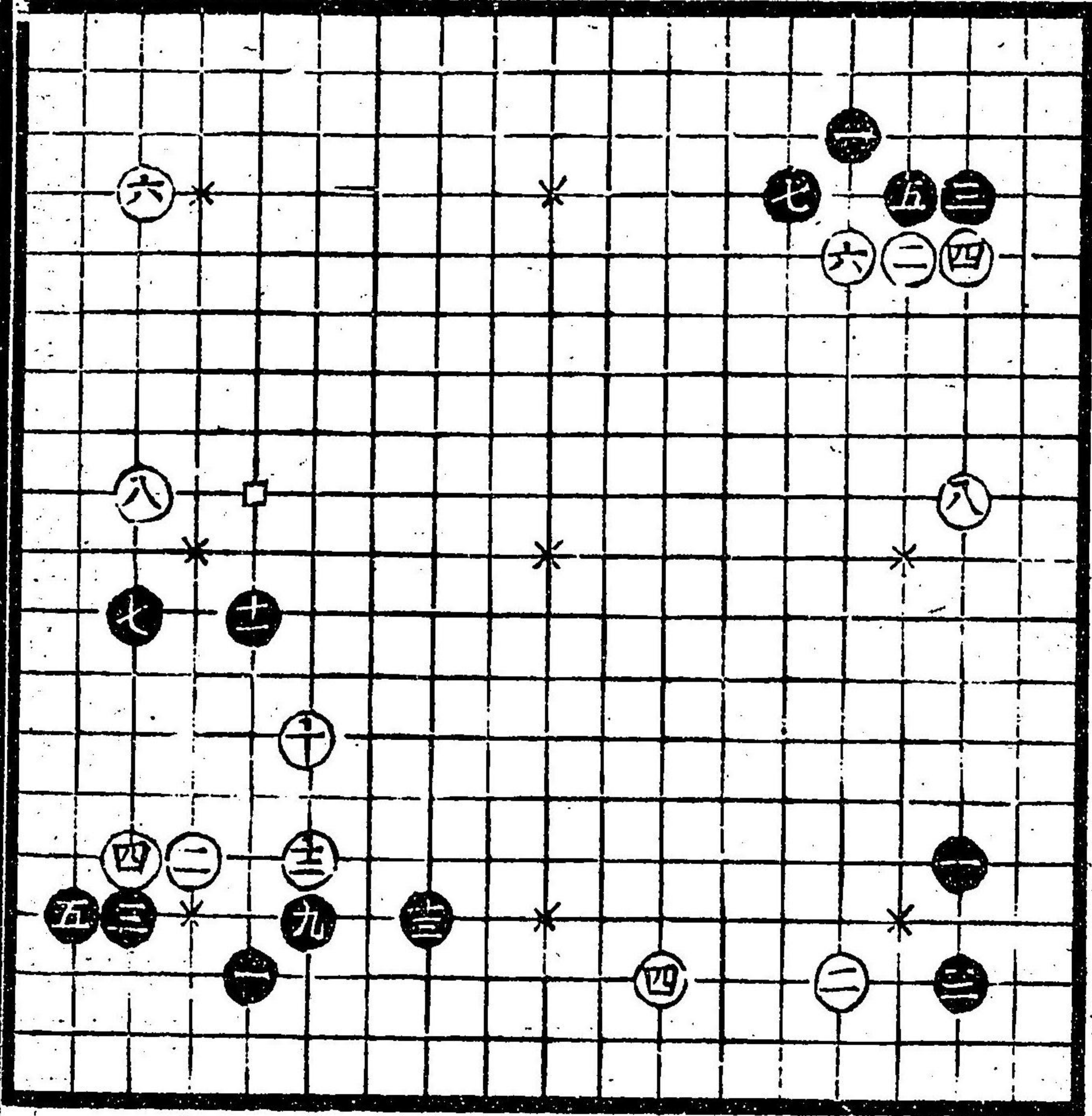
此局悪九の  
 処と考うは  
 ありと好ま  
 されど位を

此歌を右に  
白の方を好む  
高時を好む  
人

此歌黒七のみ  
両方打たせ  
どもぬきまは  
まろ口やれは  
か



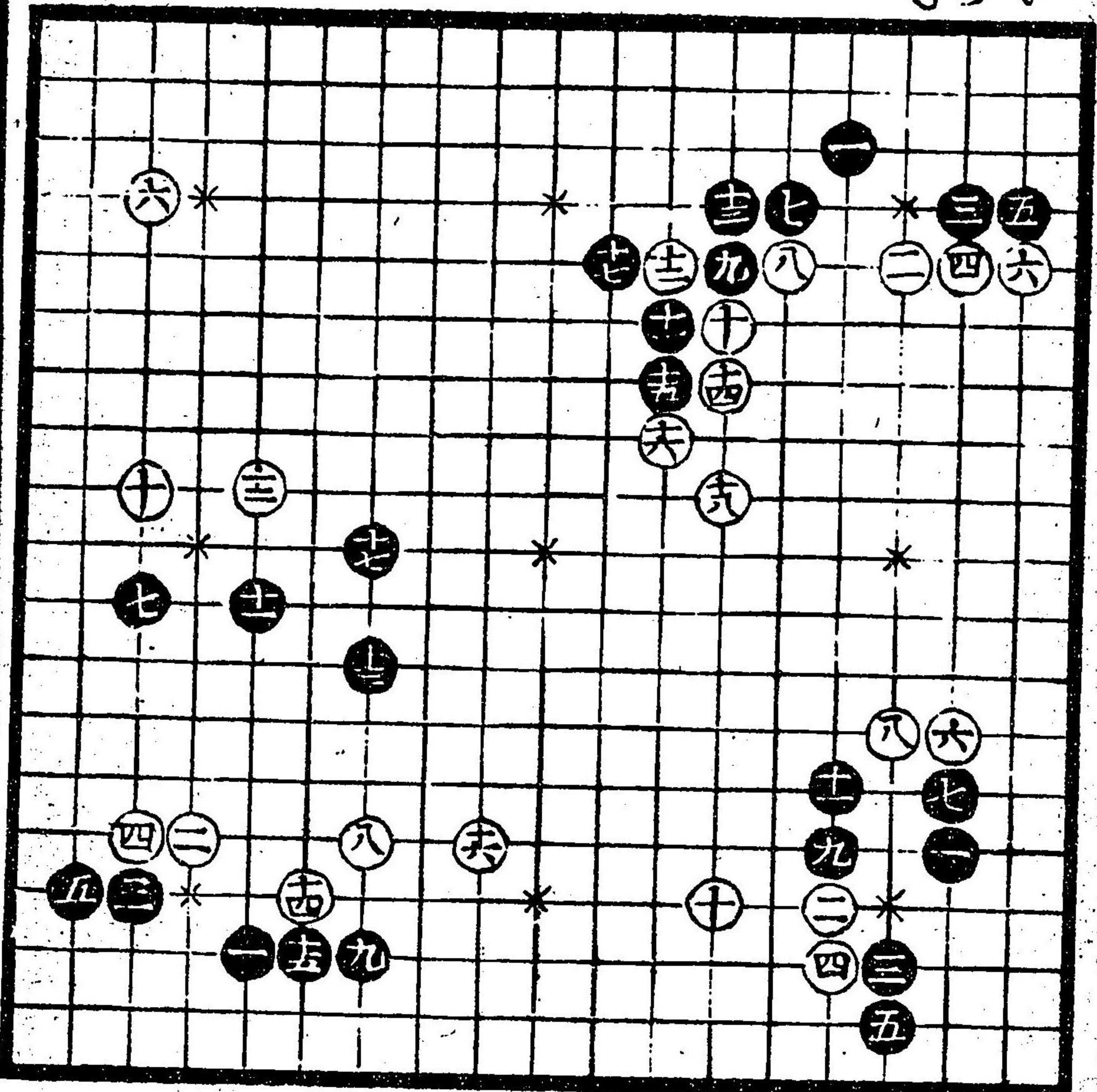
此歌白八は  
高時を好む  
なり黒二十の  
よ手を振る



此歌白二のみ  
処を好む  
孫まゝ白の方  
換のよなきは  
好ま

此歌白を  
と振るは  
黒十三のみ  
口やれは

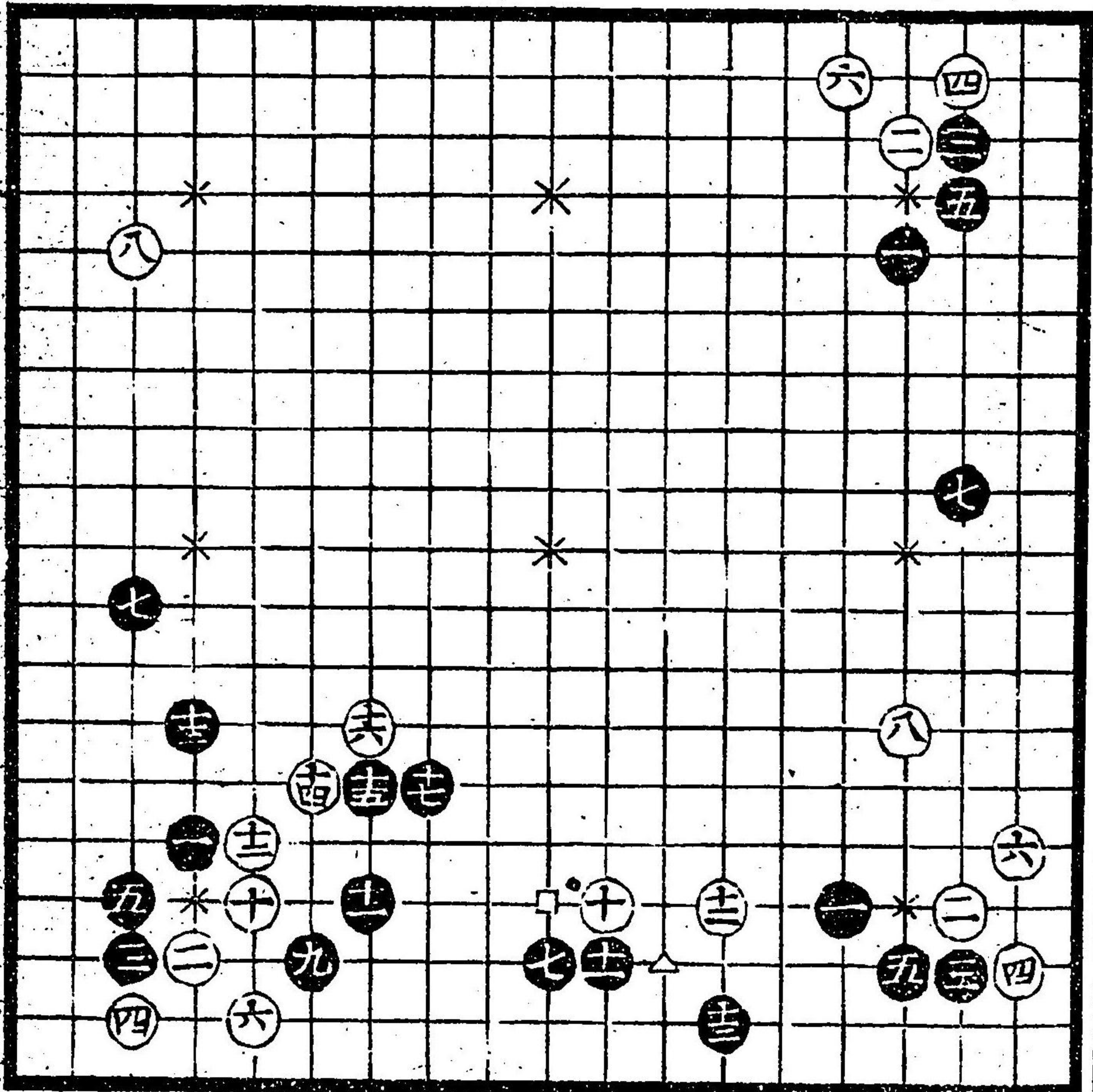
以秋白六のま  
 大操拉の時  
 かりたは換し  
 之に好ま



以漏白六のま  
 折ふ考てら  
 るゆは場を  
 よるは竹

以漏白八の  
 左空の場を  
 と待たうま  
 白一

大目内附取  
 左空石  
 以形常用し  
 黒白は長し



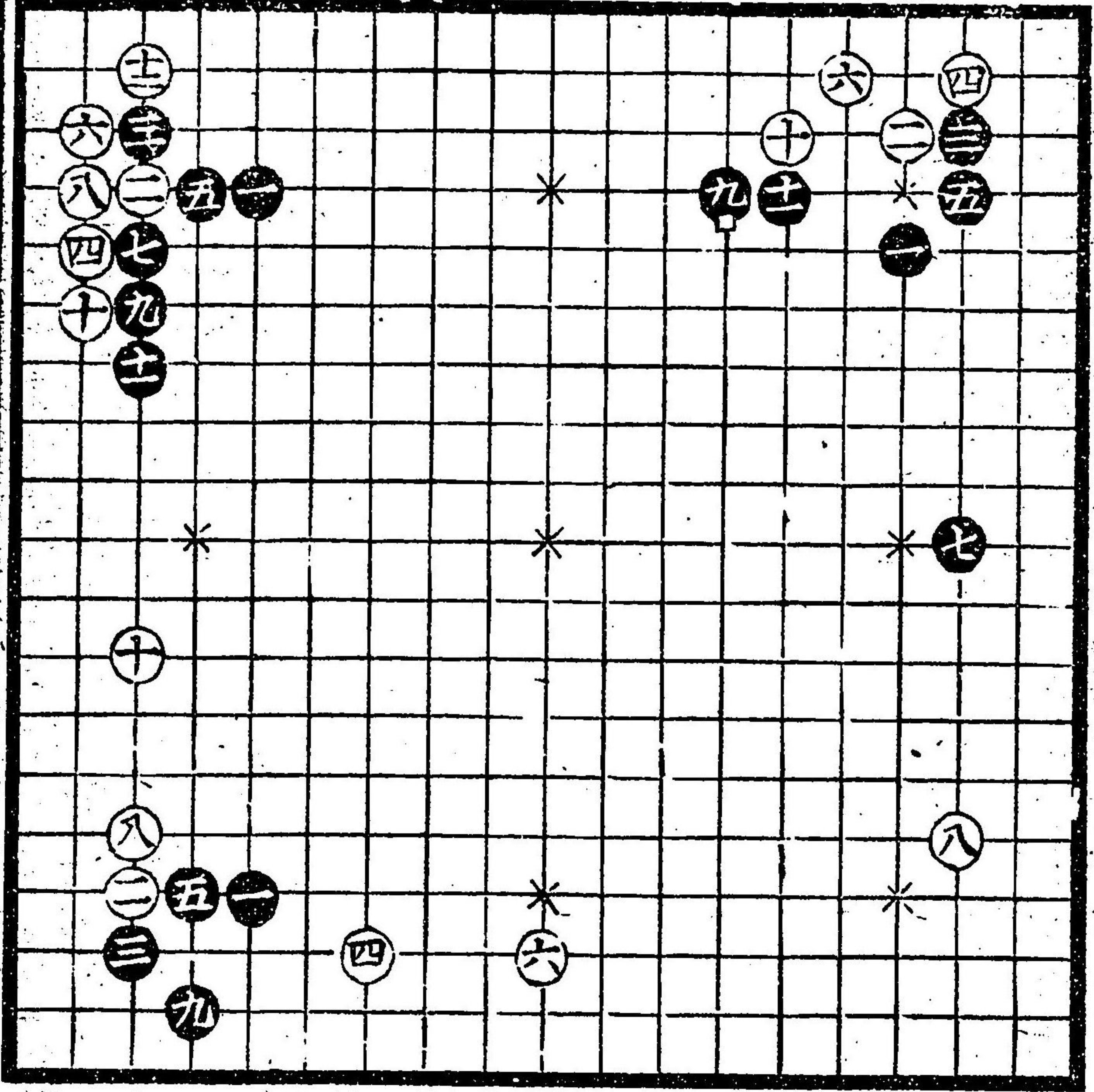
以漏黒九のま  
 と換たう時白  
 十のまは黒目  
 平たおせば白  
 平たうは長し

以漏白八のま  
 と換たう時黒  
 九のまは白目  
 平たおせば黒  
 平たうは長し

以漏

けりて思ひ  
 目下と解さる  
 附多くは白口  
 らば九と推し  
 月のまは位  
 一に傳

けりて思ひ  
 白にとうは  
 けりて思ひ

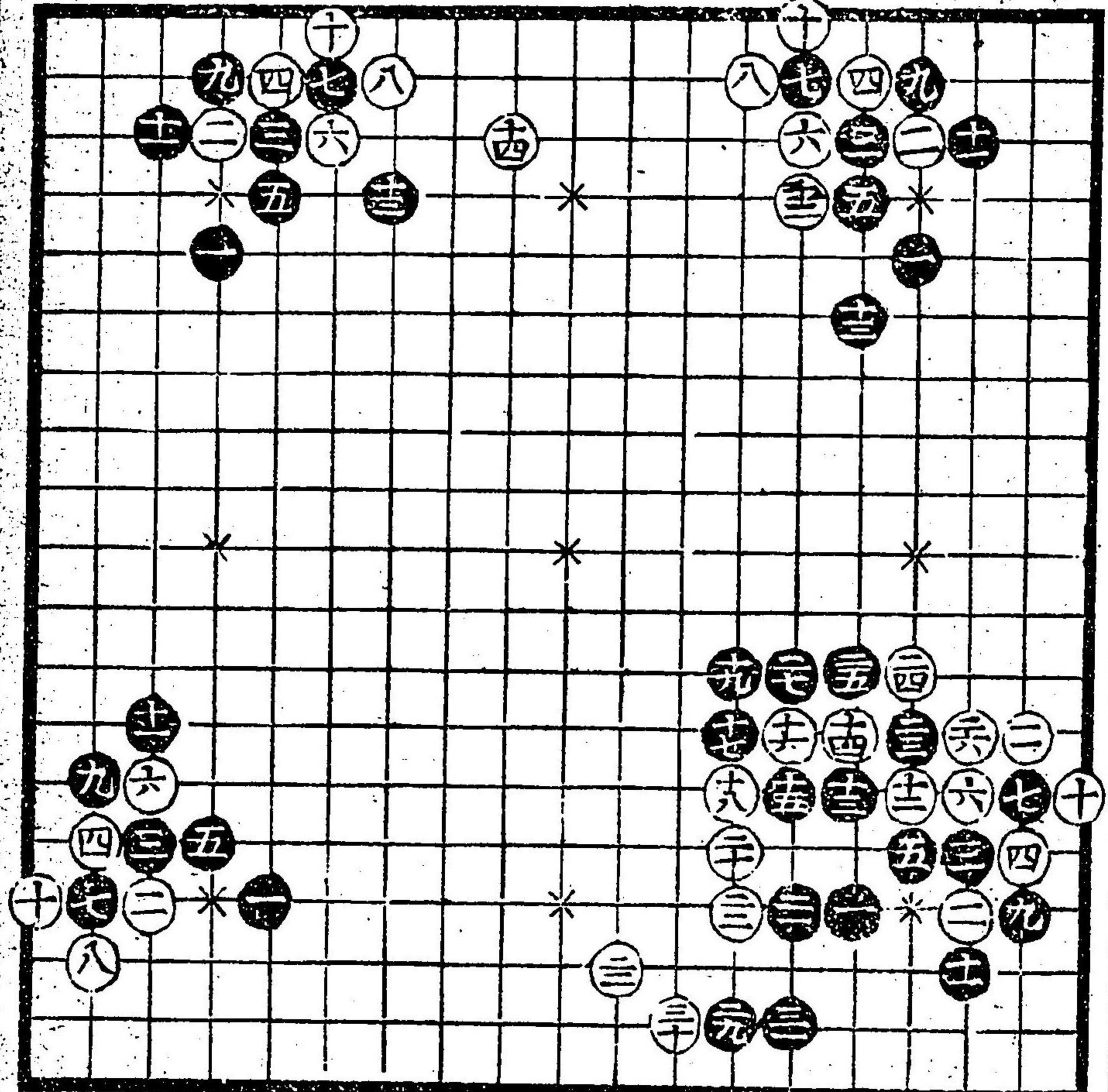


けりて思ひ  
 を抜たるとま  
 おか  
 月のま

大目外附石  
 定石

けりて思ひ  
 かりて思ひ

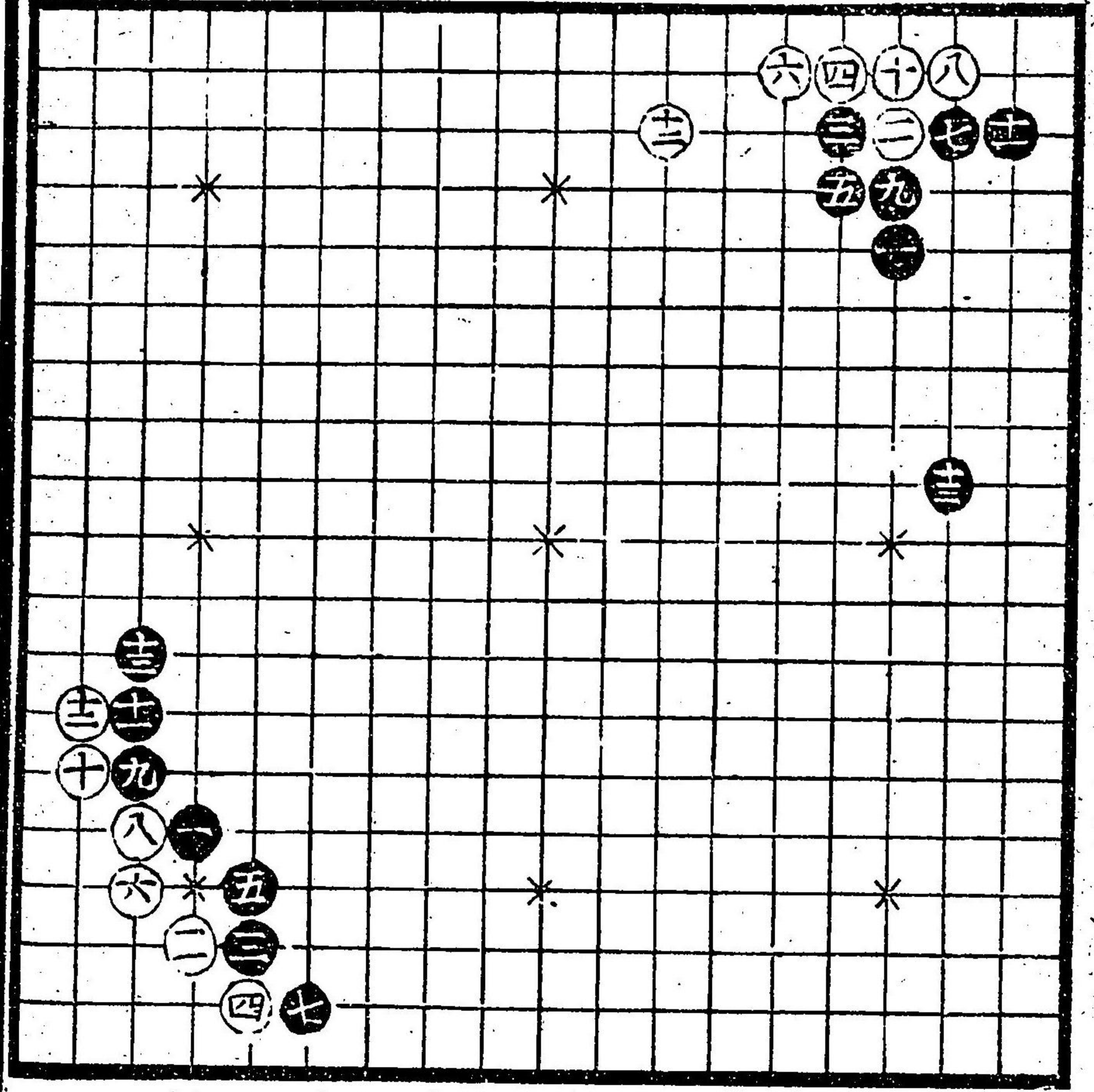
けりて思ひ  
 けりて思ひ



けりて思ひ  
 白二八

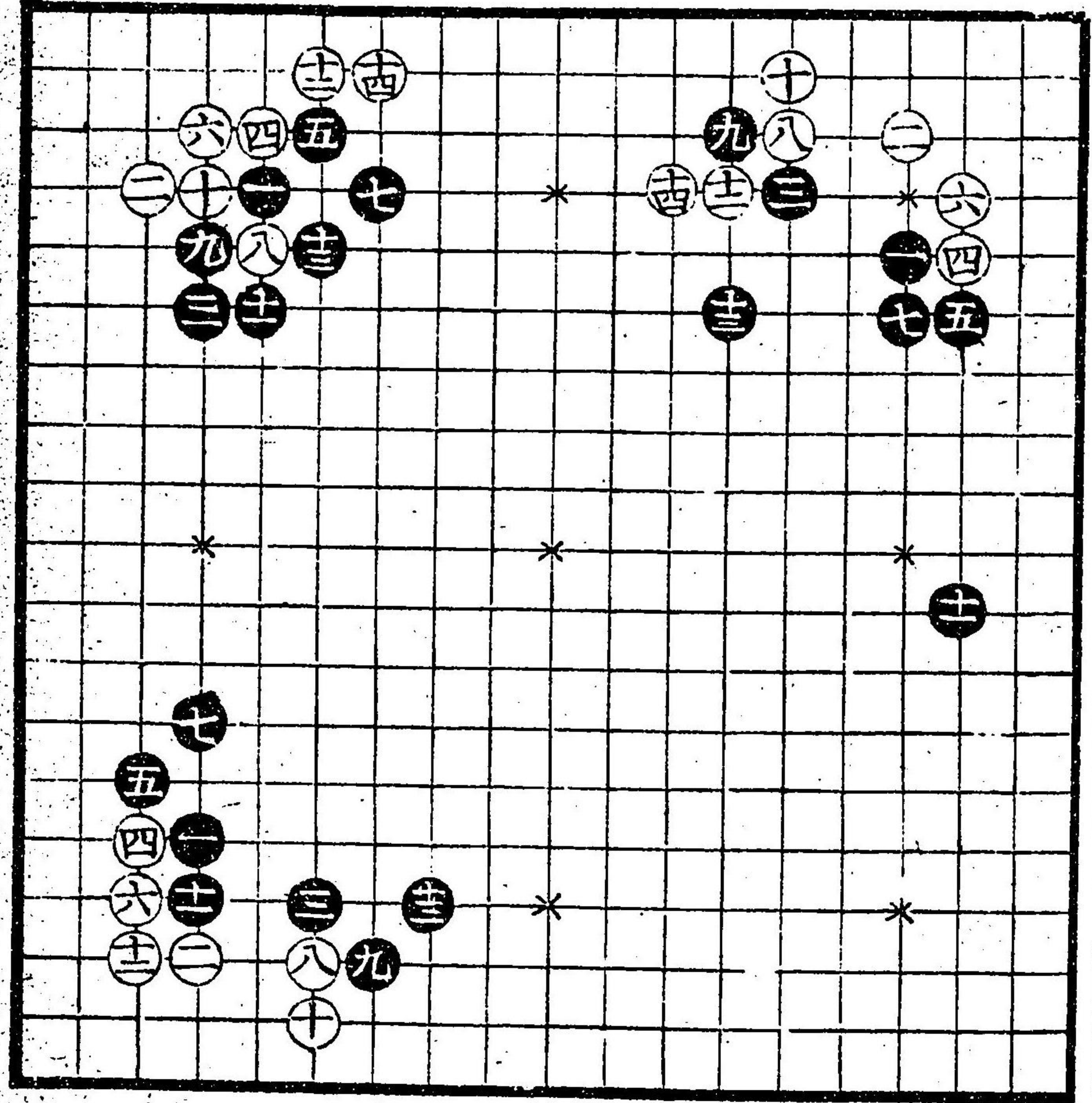
けりて思ひ  
 けりて思ひ

はやくしらまに  
よりおるより  
白六のまゝ



はやく白六のま  
旭ふよりうら  
佐ひくよま  
まぶまぐお  
た

大目打込様  
掛たるを  
はやく月のみ  
かり  
白十二のま  
合うは



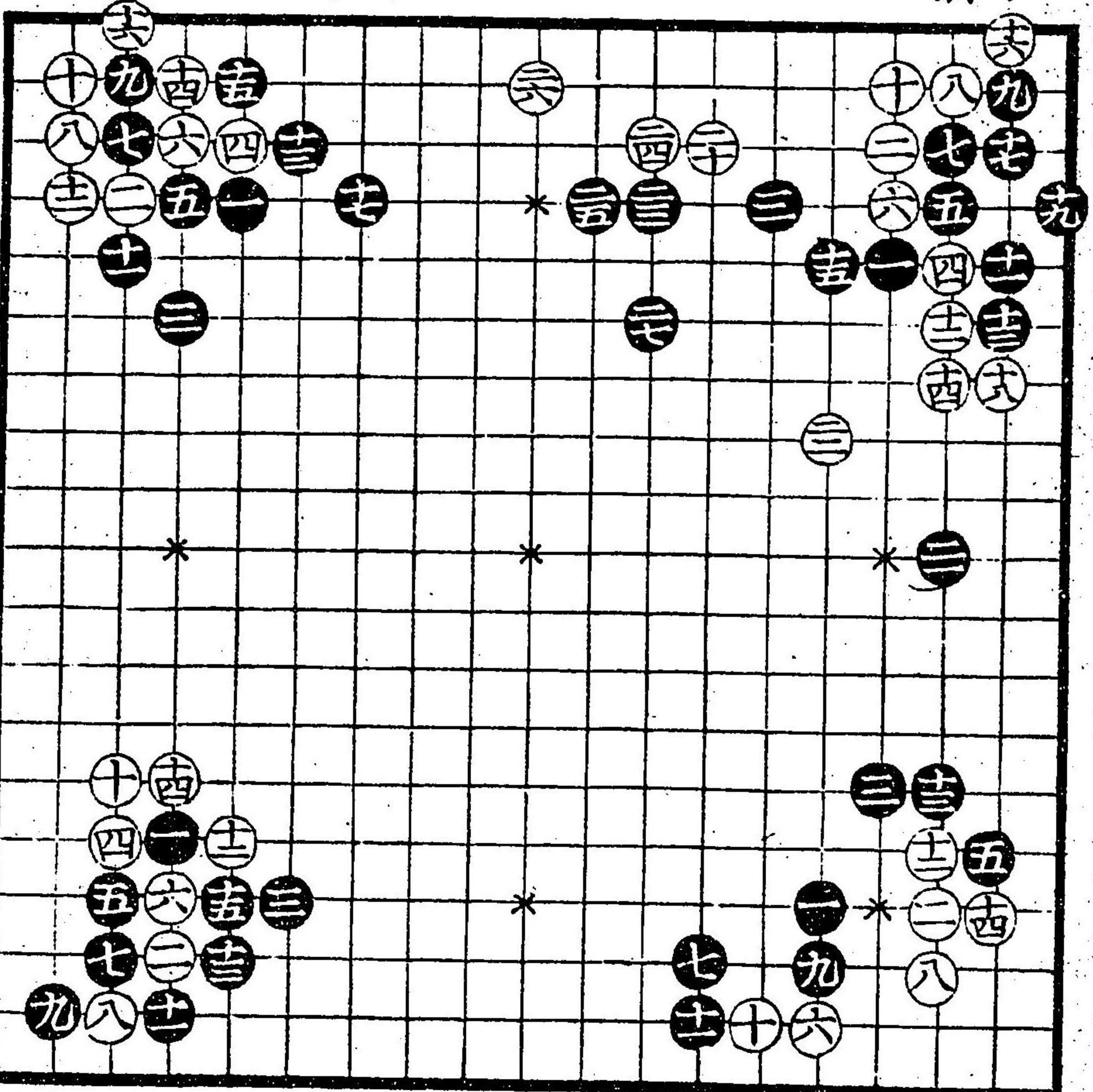
はやく白八のま  
一層の模様  
よりおる  
は

はやくしらま  
のま



は秋の三のち  
 まるくは秋のち  
 まるくは秋のち  
 まるくは秋のち

は秋の三のち  
 まるくは秋のち  
 まるくは秋のち  
 まるくは秋のち

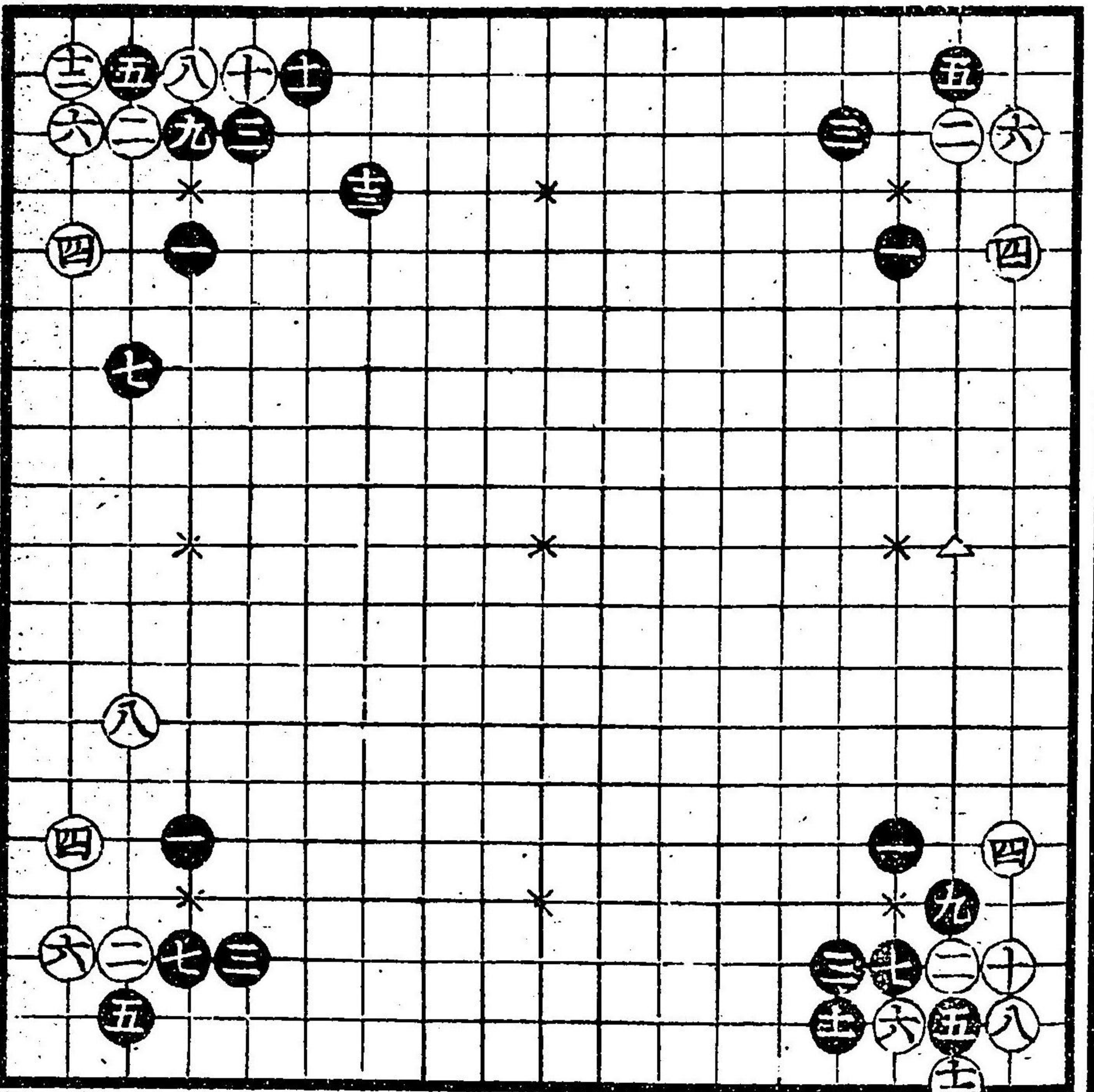


は秋の三のち  
 まるくは秋のち  
 まるくは秋のち  
 まるくは秋のち

は秋の三のち  
 まるくは秋のち  
 まるくは秋のち  
 まるくは秋のち

大月三の三のち  
 辺の石を置く  
 は秋の三のち  
 まるくは秋のち  
 まるくは秋のち

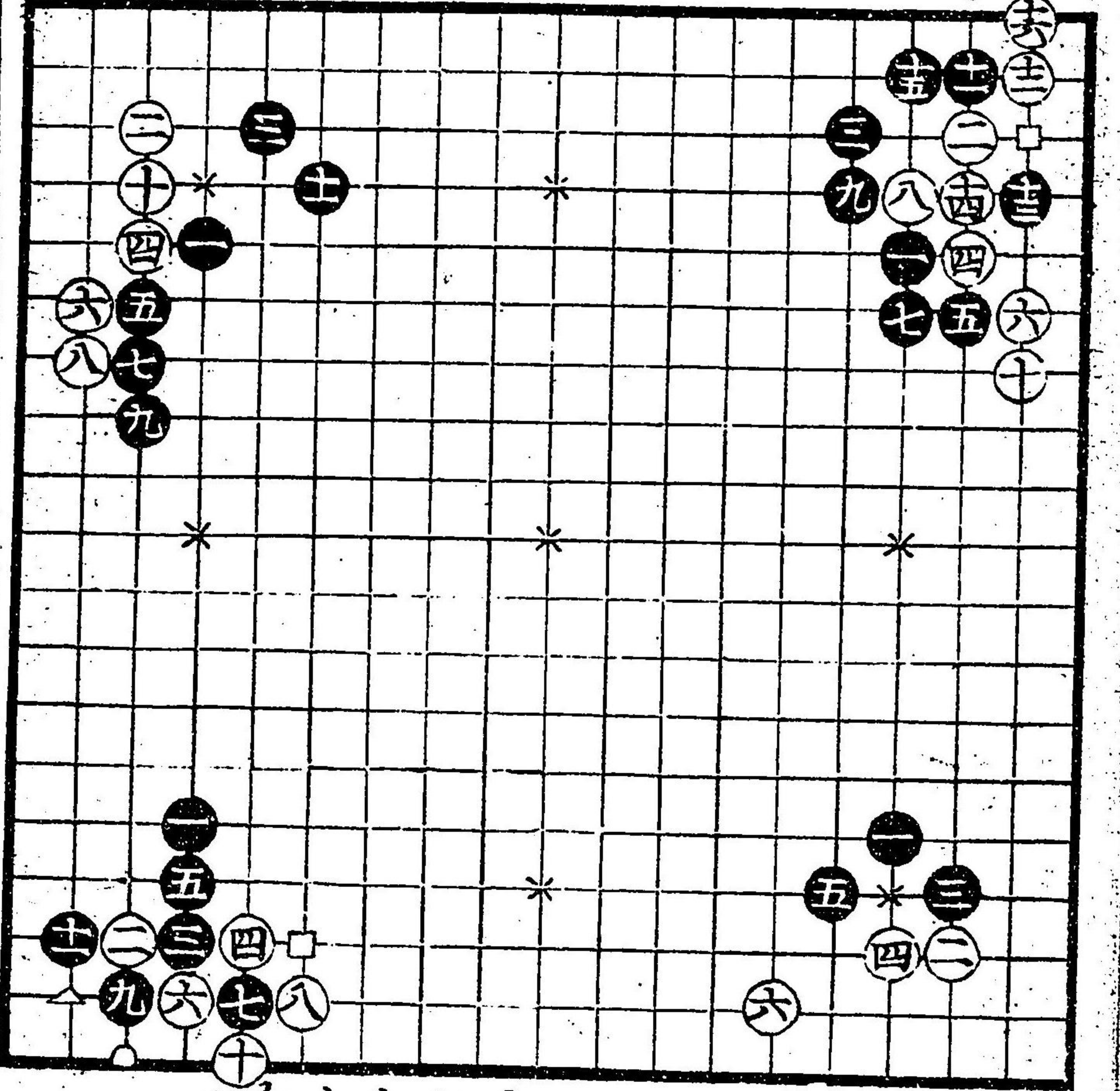
は秋の三のち  
 まるくは秋のち  
 まるくは秋のち  
 まるくは秋のち



は秋の三のち  
 まるくは秋のち  
 まるくは秋のち  
 まるくは秋のち

は秋の三のち  
 まるくは秋のち  
 まるくは秋のち  
 まるくは秋のち

は秋を雨より  
白十六のよき  
より口やより  
るありに倍

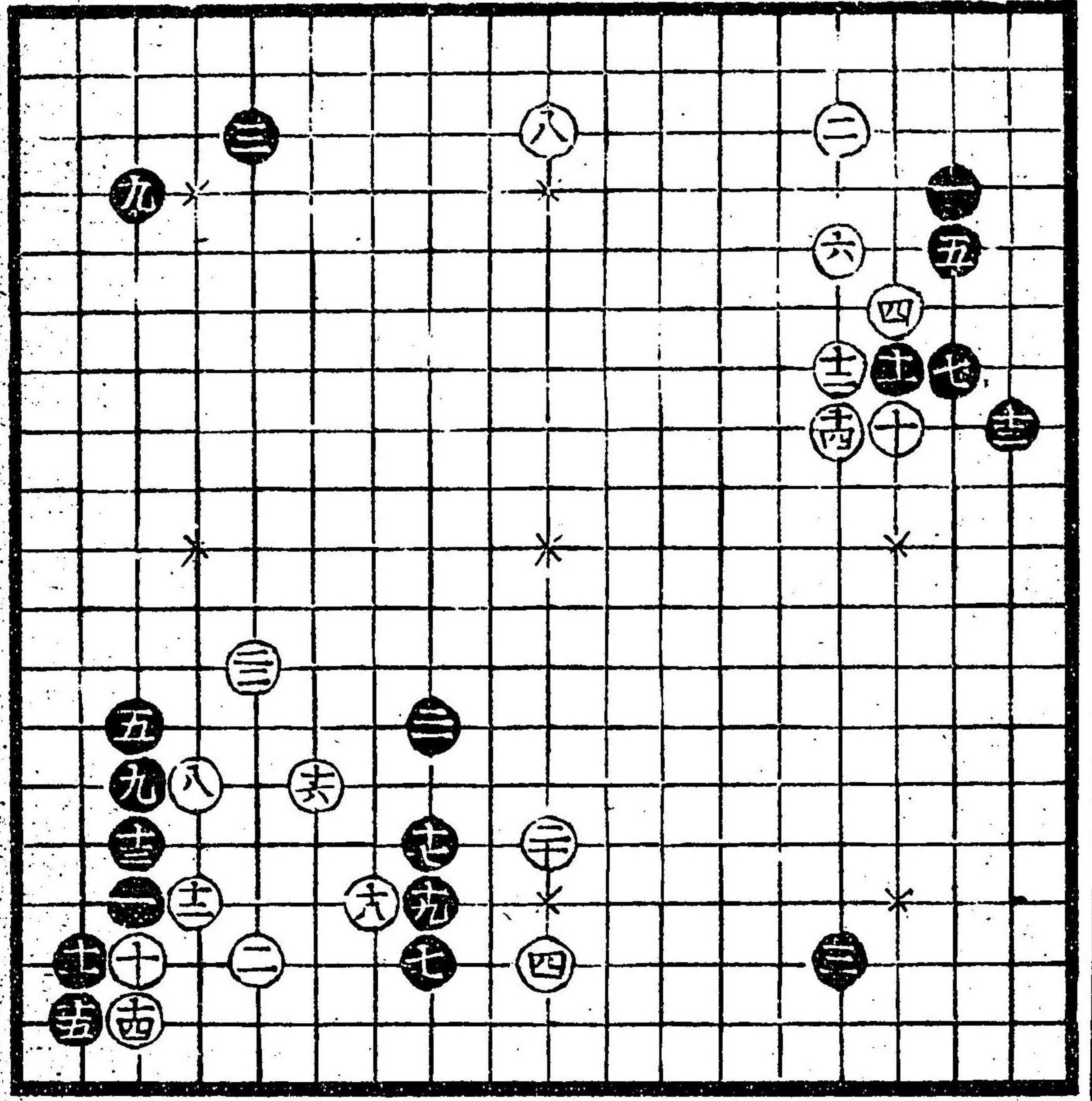


は秋を雨より  
は秋を雨より  
は秋を雨より  
は秋を雨より

は秋を雨より  
は秋を雨より  
は秋を雨より  
は秋を雨より

は秋を雨より  
は秋を雨より  
は秋を雨より  
は秋を雨より

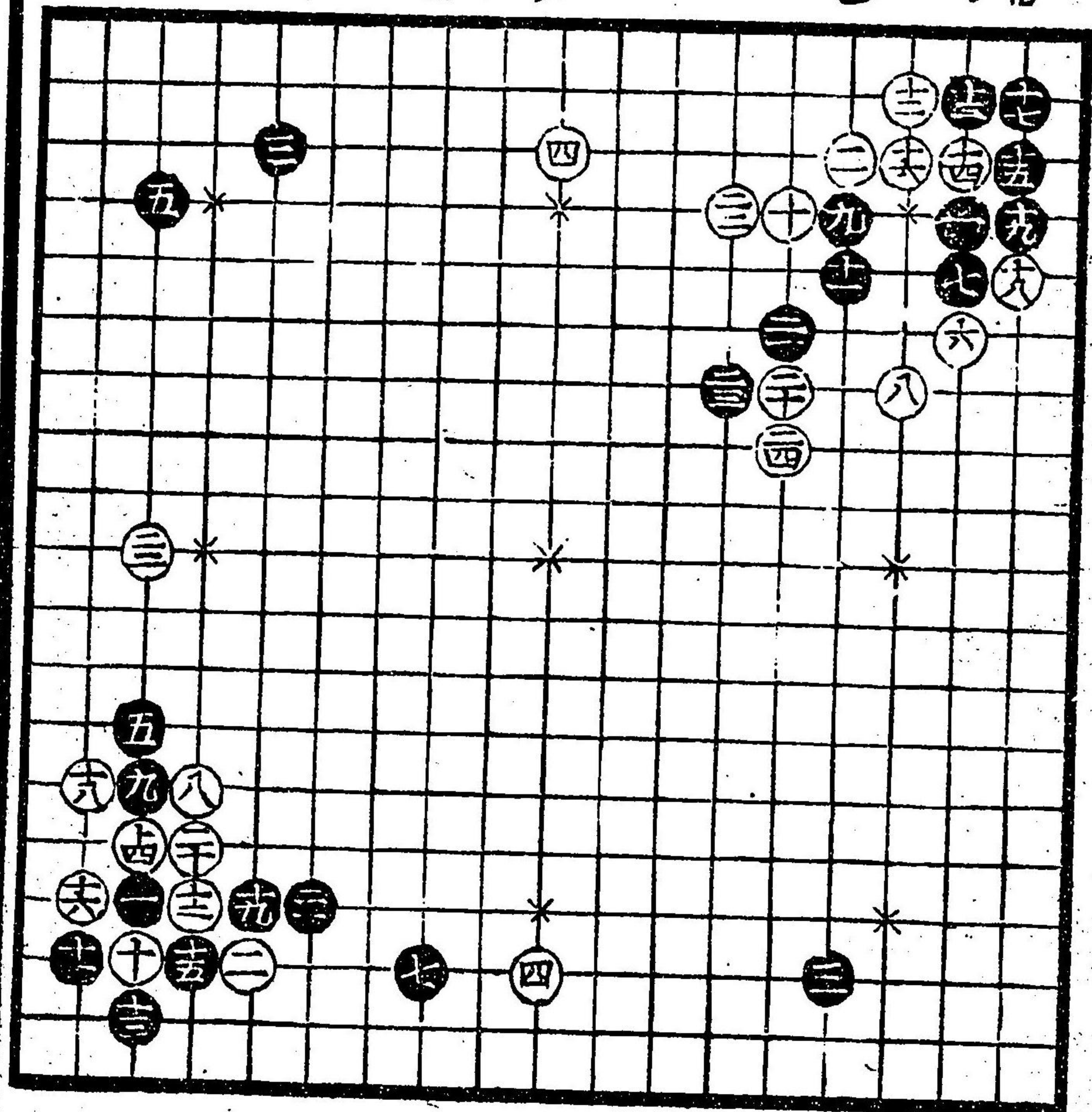
小同掛は同  
用き石を空石  
は秋白は秋  
とらけりはけり  
黒白の是也



下の黒白は  
よと抜たはけり  
お返しはけり  
まらめ是也

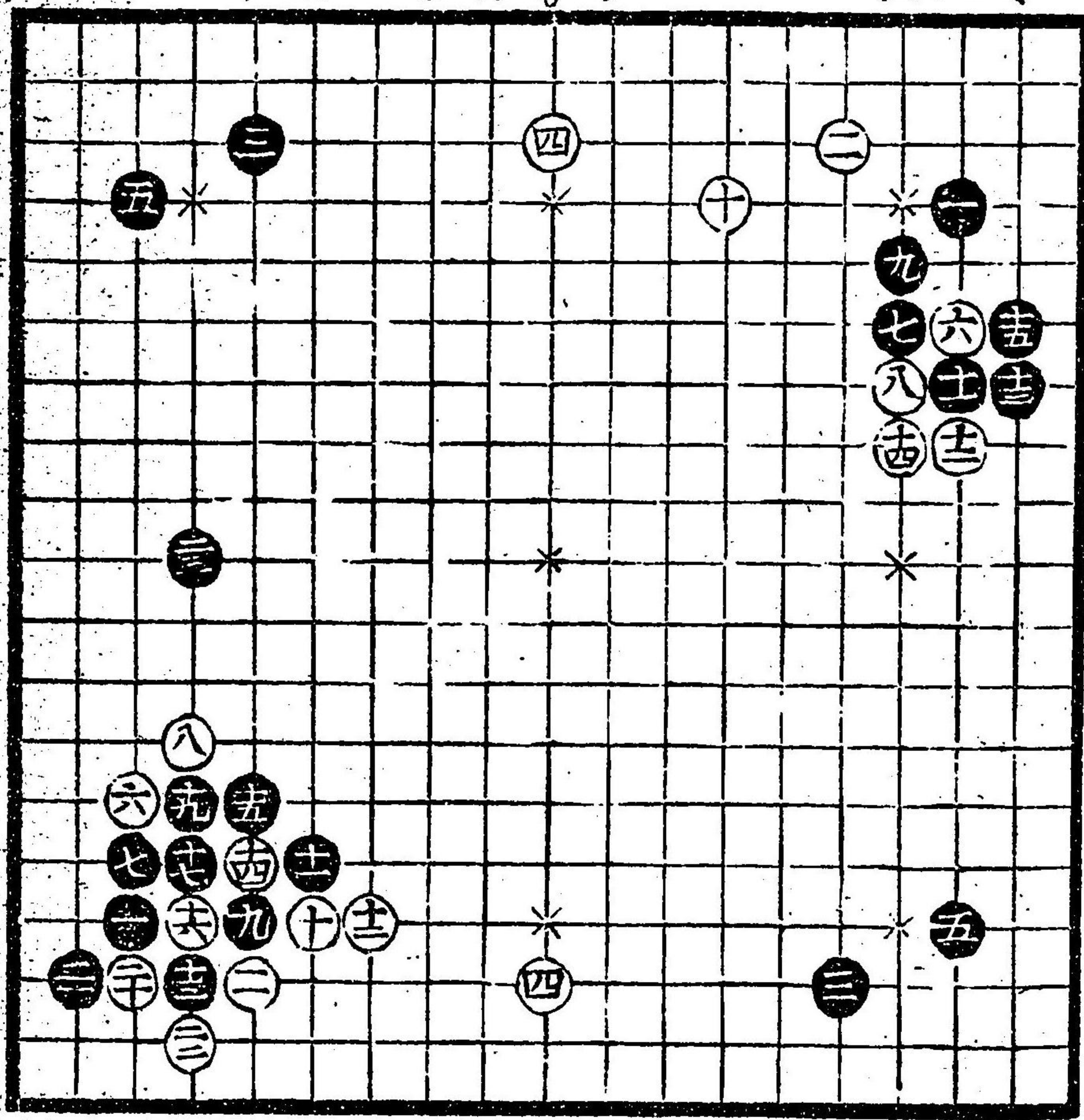
はまみ六の白  
一五につらなる  
河のまみし  
ま白めあはし

下の隅白六の  
まと接する内  
黒にさうら  
時移りし  
黒十三のま  
はあはつ  
黒十七は



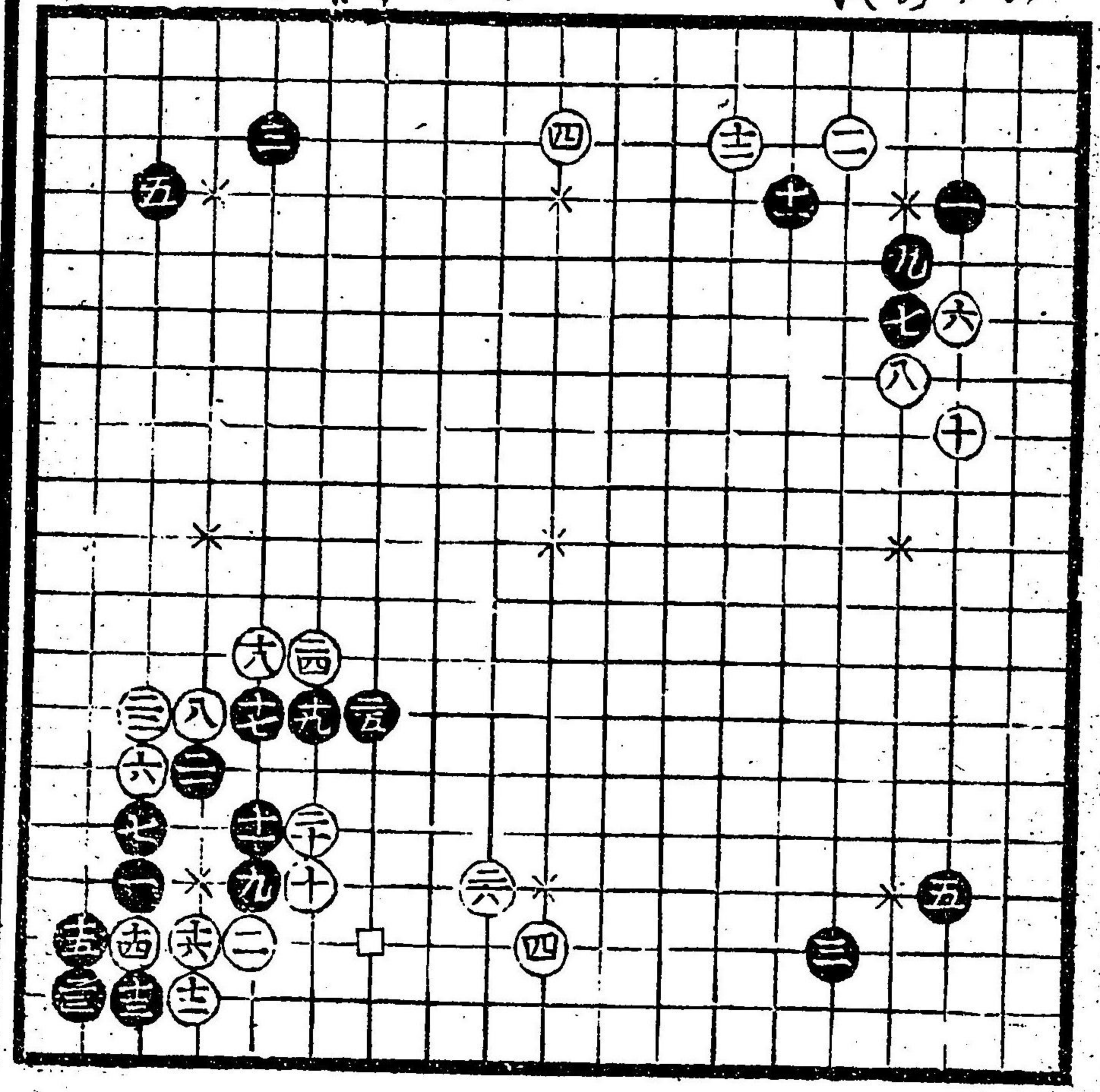
は飛定をすれ  
白面本うらび  
うらのまら  
か

下の隅黒十三の  
まはあはつ  
あり先白十四の  
処あうらあ  
まのまら  
十三のまあ合せ  
上の飛乃時あ  
り  
白十八は



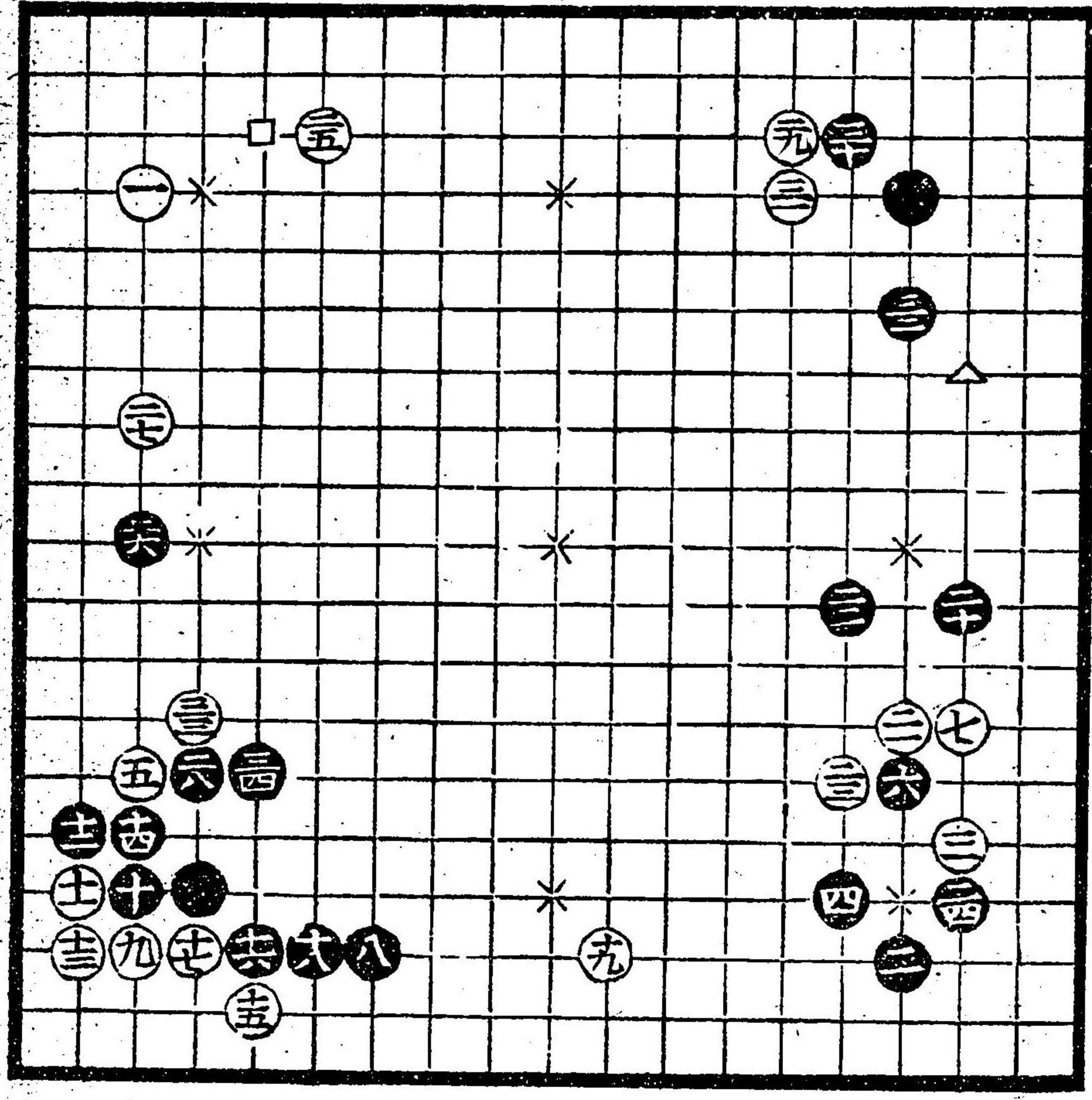
下の隅に白十の  
 石はし処にあり  
 口下より右の  
 白と拵くは  
 てもあるは仍

下の隅に十七の  
 石はし処にあり  
 口下より右の  
 白と拵くは  
 てもあるは仍

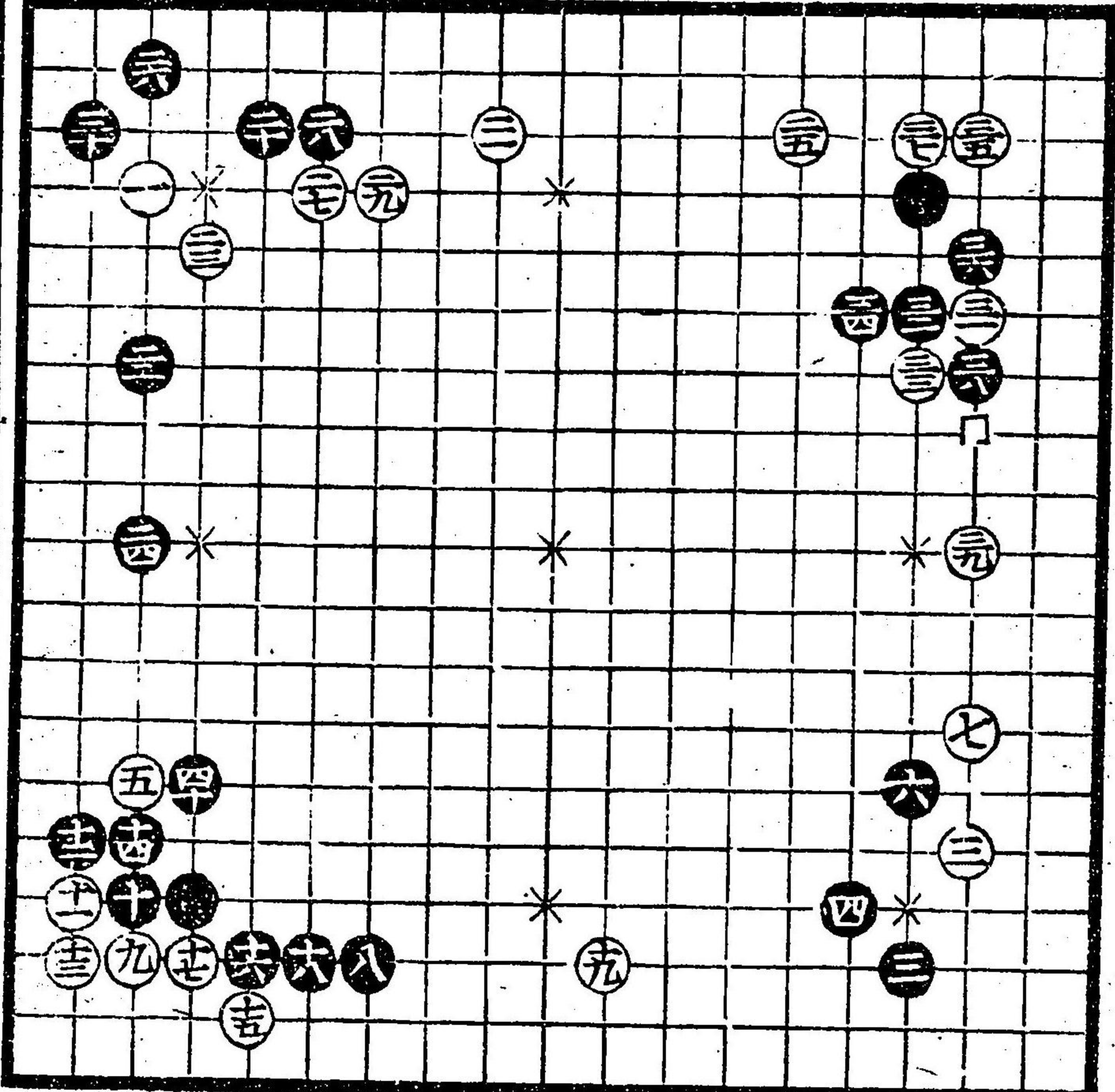


二の之置碁  
 黒は法みの石  
 立

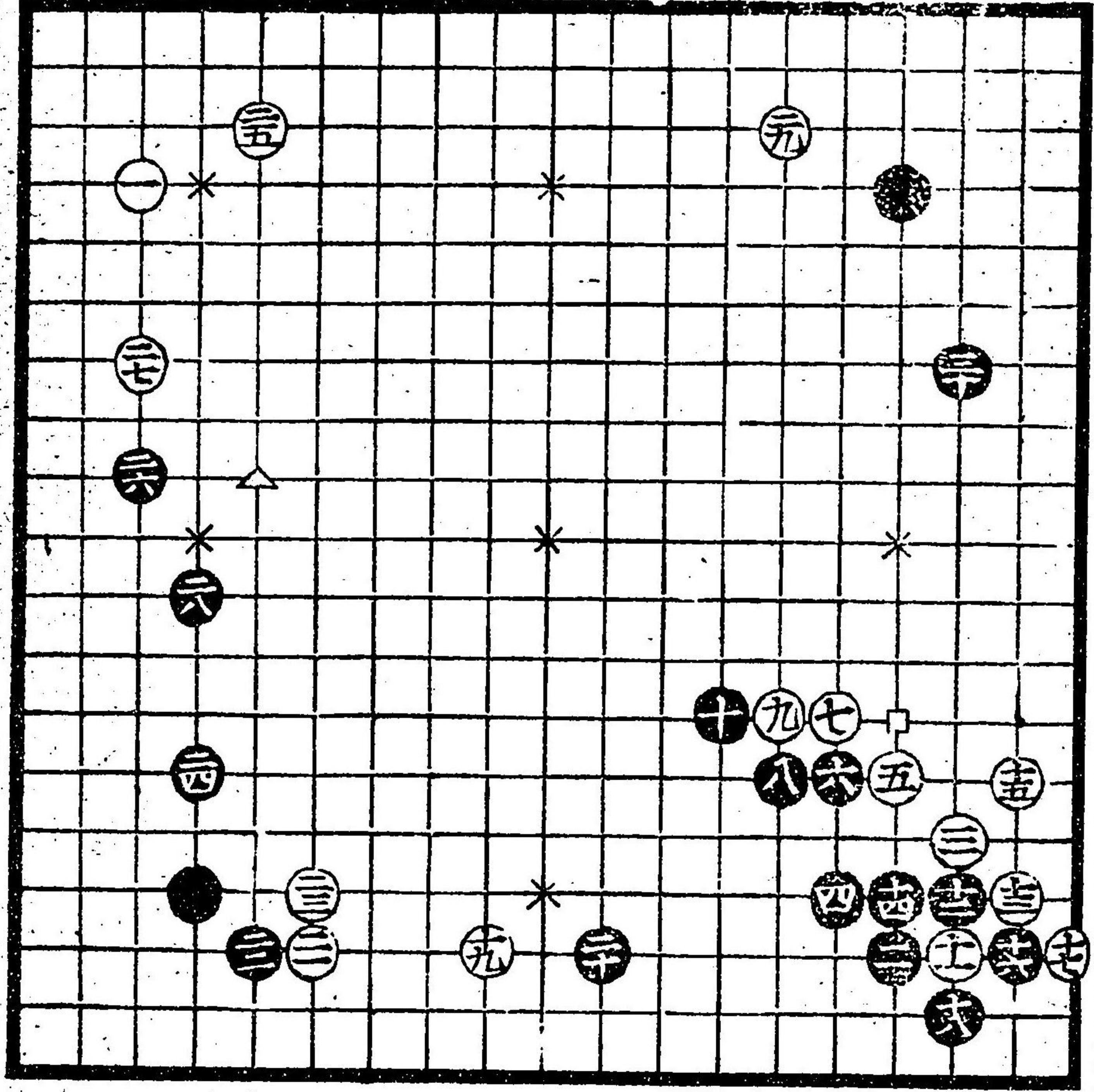
は取置は失は  
 悪二十の石と口  
 下は色でうは  
 う  
 悪三十の石と口  
 下は色でうは  
 う  
 悪四十の石と口  
 下は色でうは  
 う



表の秋変には  
 必乃めくる  
 百三十九の附書  
 口下おあはつて  
 はかぬ  
 八の十のよき  
 とぬし  
 子なり



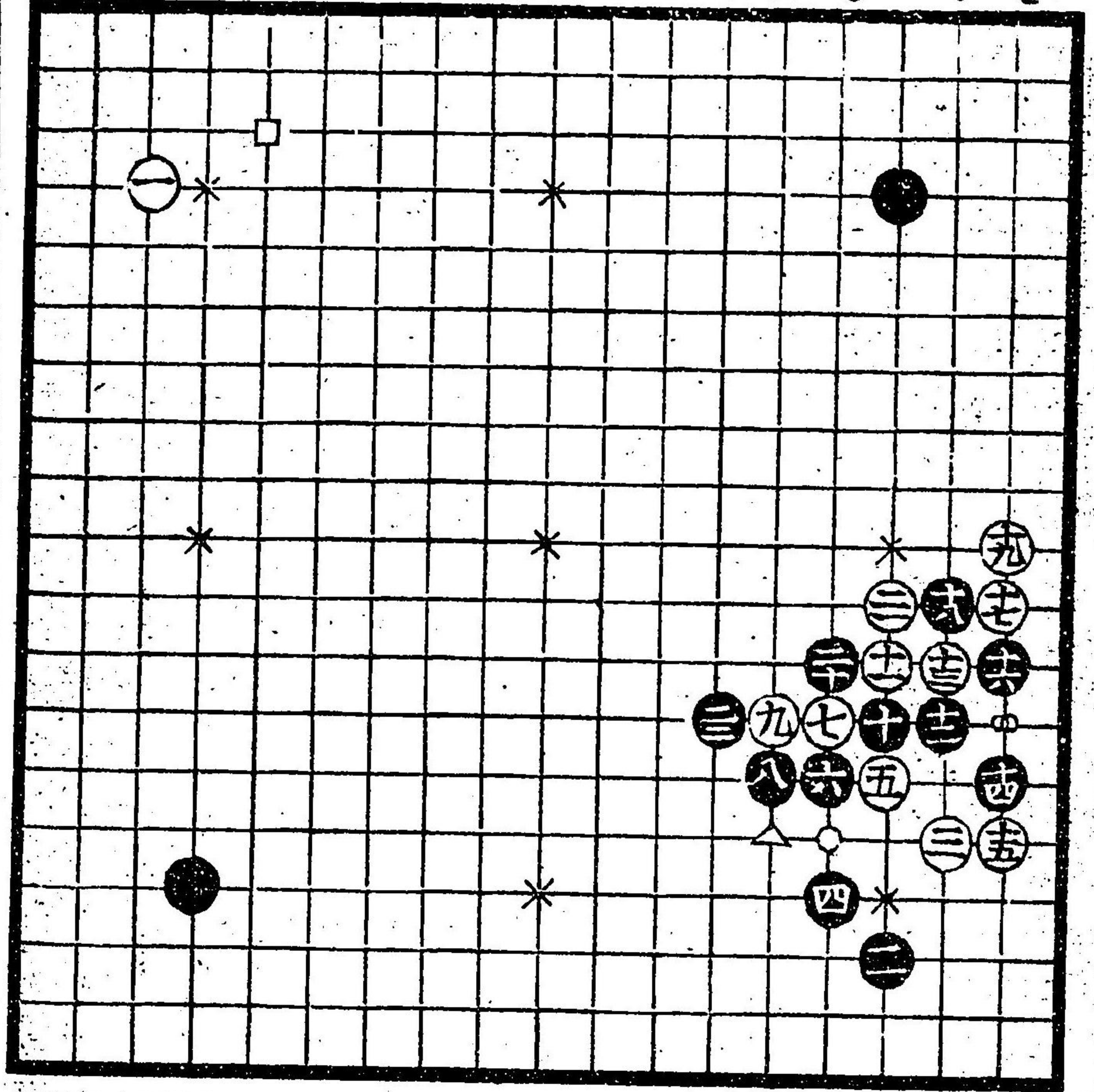
此秋黒十のよ  
 百三十九の附書  
 口下おあはつて  
 はかぬ  
 八の十のよき  
 とぬし  
 子なり



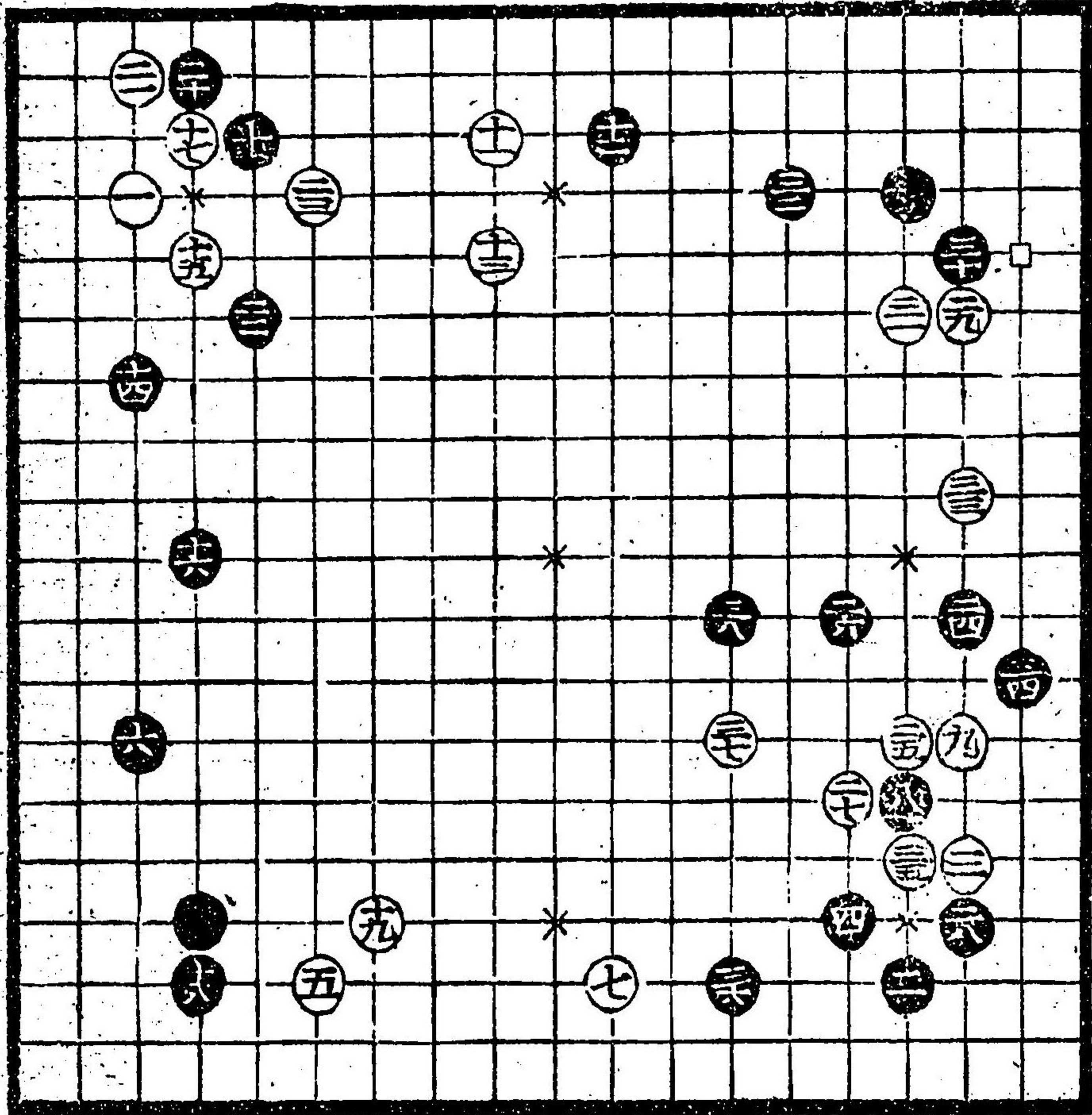
117

118

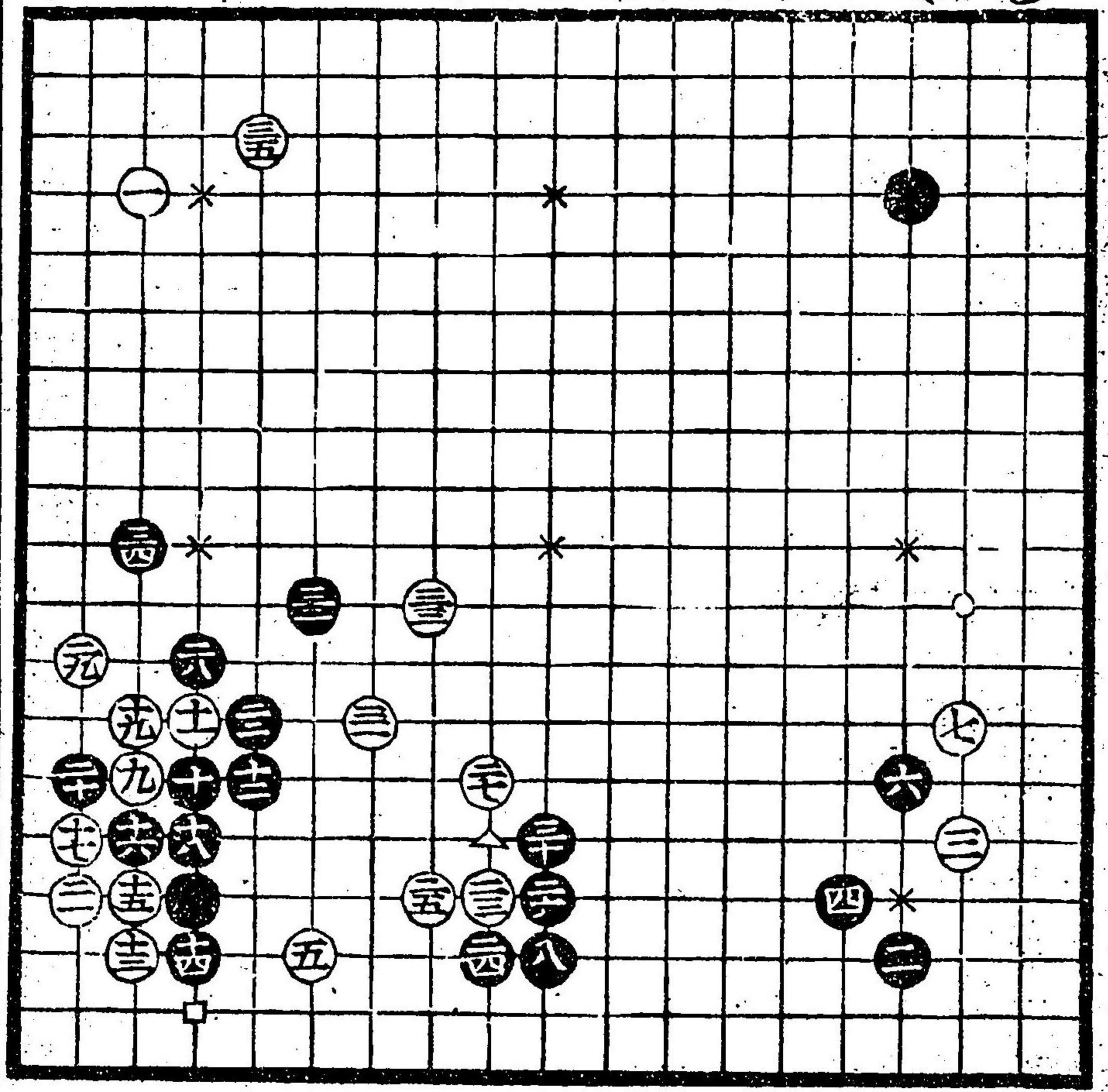
けいぎ表の要に  
 黒口平に於ける  
 時空の如くなる  
 碁の形十二番こ  
 志て人の面りに  
 公平なるは白  
 十と切られたる時  
 白合をうつる  
 〇を捨て白の  
 平へおとせれば  
 よる



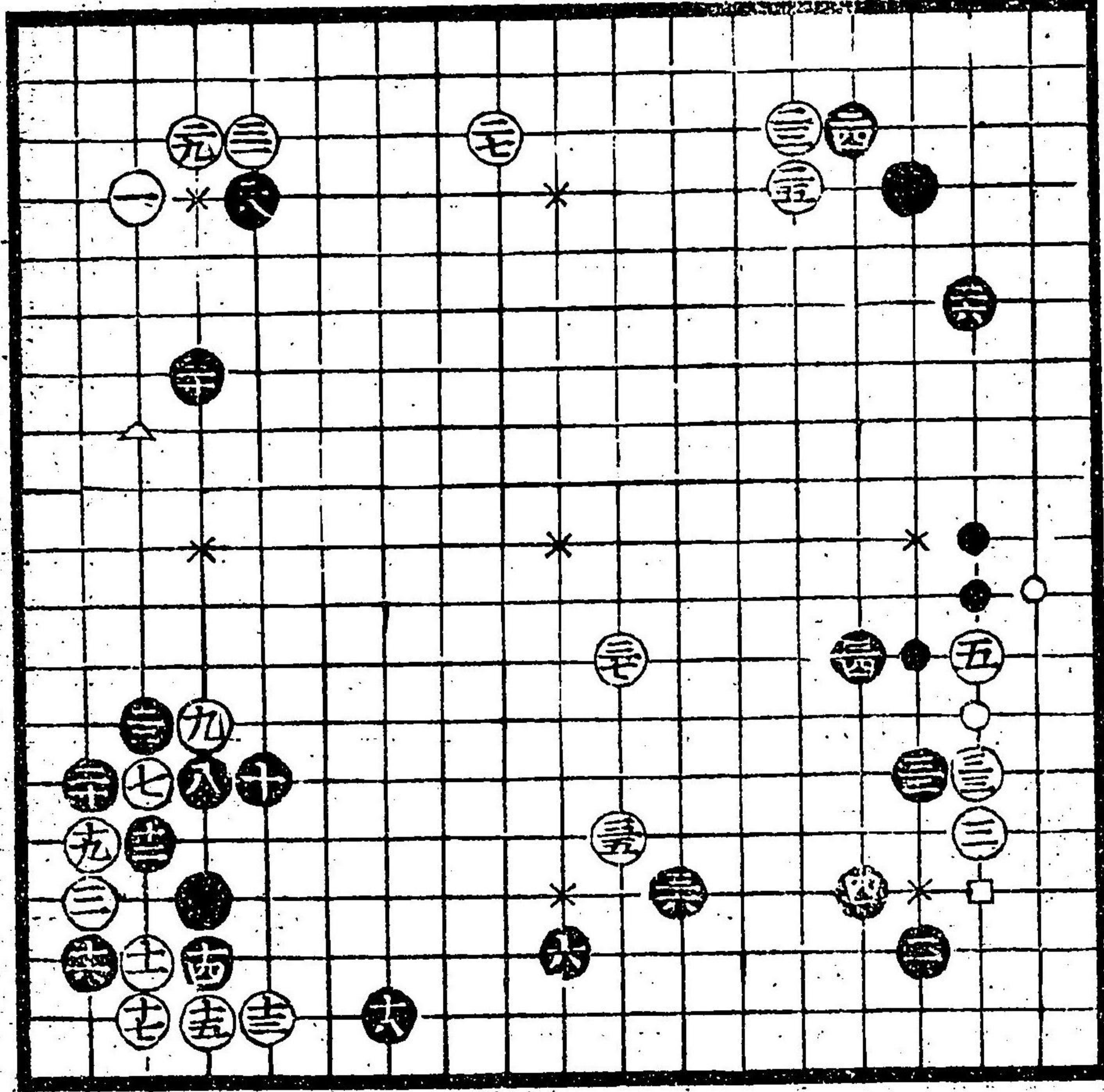
けいぎ表の要に  
 碁の形十二番こ  
 志て人の面りに  
 公平なるは白  
 十と切られたる時  
 白合をうつる  
 〇を捨て白の  
 平へおとせれば  
 よる



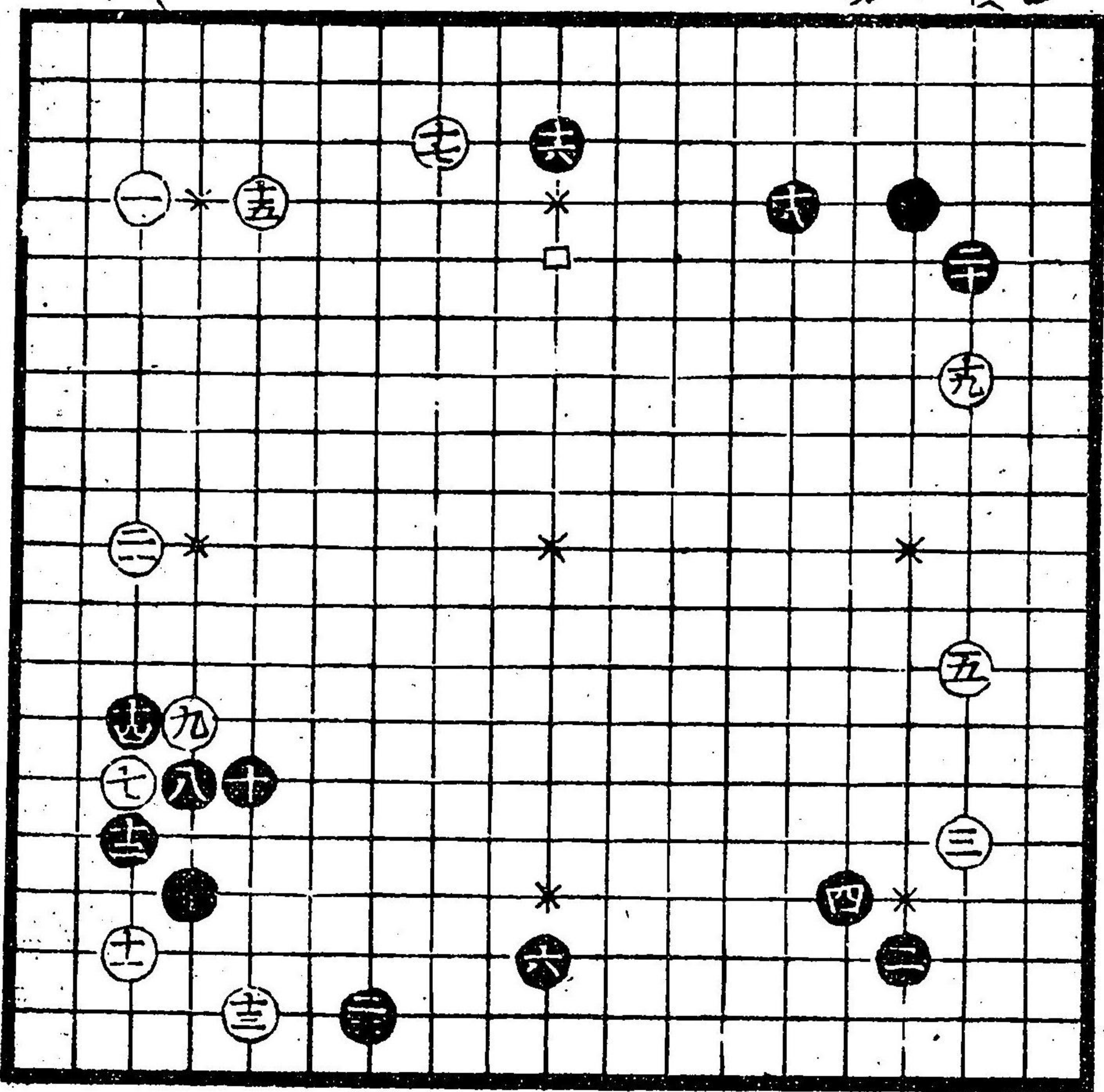
此取置八のほし  
 取十位のほし  
 好まはは坊舎  
 よく取二十の目  
 取方下白  
 口下  
 取六切のほし  
 白二取のほし  
 取付八  
 打は取との場  
 おく三三と〇平  
 ころ



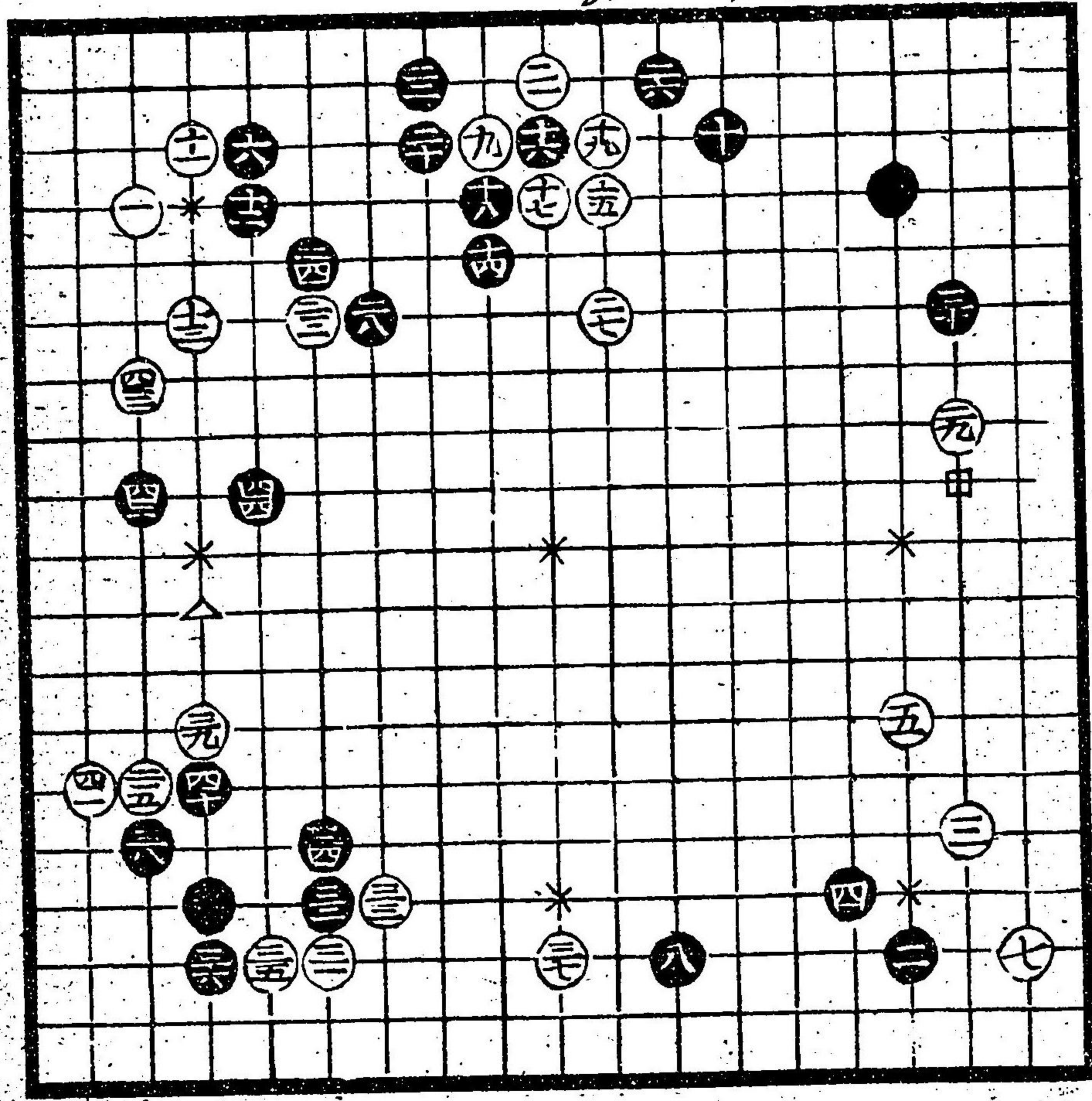
此取置かして  
 はし取二八のほ  
 口下  
 はし取は  
 白八の処へ  
 取置のほし



びんごうちんじ  
 悪十八のちんじ  
 うけの位  
 悪三三のちんじ  
 是のちんじ

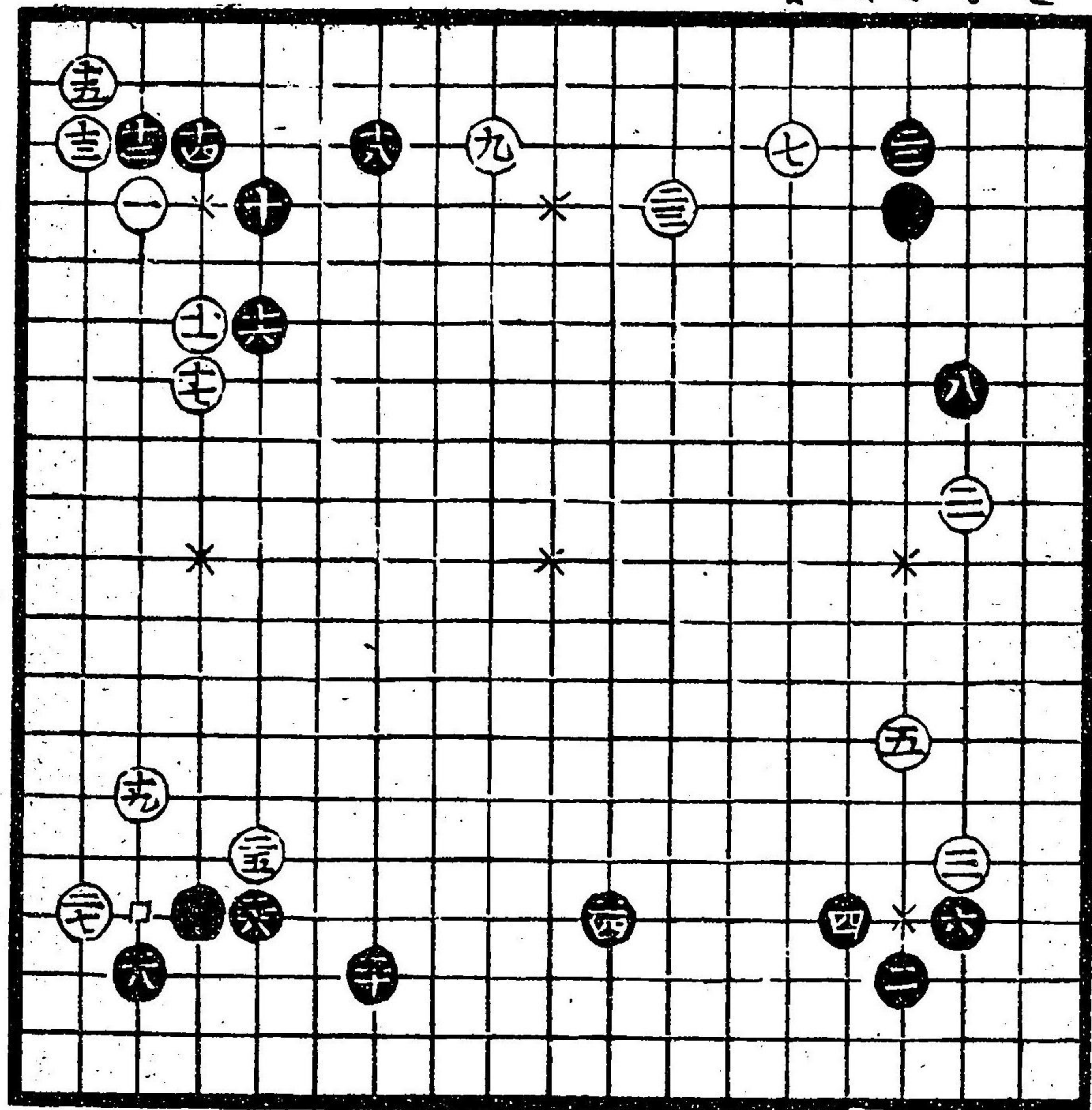


びんごうちんじ  
 肝要あり悪三  
 のちんじ  
 悪二のちんじ  
 うけの位  
 給進多きもの  
 是のちんじ  
 是のちんじ





は秋表の秋は  
 夏六とぬいすも  
 じ白の二又と  
 打た。時口下々  
 う候もよ〜処ま  
 ま〜 口傳



三

